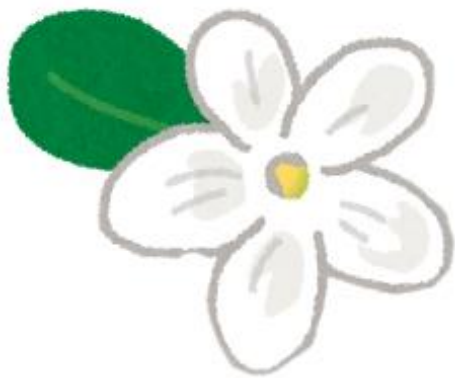
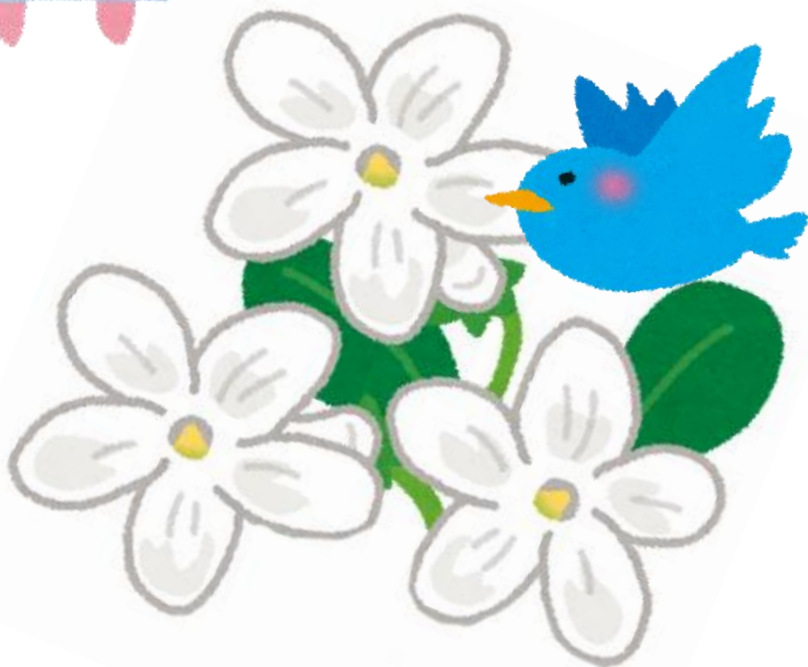




平成 26 年度 日本精神神経学会 サマースクール

精神医学講座紹介



【目次】

- 1 北海道大学大学院医学研究科
- 2 札幌医科大学
- 3 弘前大学医学部
- 4 秋田大学医学部
- 5 山形大学医学部
- 6 東北大学大学院医学系研究科
- 7 公立大学法人福島県立医科大学
- 8 群馬大学大学院医学系研究科
- 9 獨協医科大学
- 10 埼玉医科大学
- 11 日本大学医学部
- 12 帝京大学医学部
- 13 日本医科大学大学院 精神医学教室 精神・行動医学分野
- 14 東京大学大学院医学系研究科
- 15 順天堂大学医学部
- 16 東京医科歯科大学大学院医歯学総合
- 17 慶應義塾大学医学部
- 18 東京女子医科大学神経精神科
- 19 東京慈恵会医科大学
- 20 昭和大学医学部精神医学教室
- 21 東邦大学医学部医学科
- 22 杏林大学医学部
- 23 横浜市立大学大学院医学研究科
- 24 聖マリアンナ医科大学
- 25 北里大学医学部 精神科学
- 26 東海大学医学部専門診療学系
- 27 山梨大学医学部 精神神経医学教室
- 28 新潟大学大学院医歯学総合研究科
- 29 信州大学医学部
- 30 金沢大学附属病院 神経科精神科
- 31 金沢医科大学
- 32 福井大学医学部病態制御医学講座
- 33 名古屋大学大学院医学系研究科
- 34 名古屋市立大学大学院医学研究科

- 35 藤田保健衛生大学医学部
- 36 公立大学法人奈良県立医科大学
- 37 滋賀医科大学
- 38 京都大学大学院医学研究科
- 39 京都府立医科大学大学院医学研究科
- 40 関西医科大学
- 41 大阪医科大学
- 42 大阪市立大学大学院医学研究科
- 43 大阪大学大学院医学系研究科
- 44 近畿大学医学部
- 45 公立大学法人和歌山県立医科大学
- 46 神戸大学大学院医学研究科
- 47 兵庫医科大学
- 48 鳥取大学医学部
- 49 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
- 50 川崎医科大学
- 51 島根大学医学部
- 52 広島大学大学院医歯薬学総合研究所
- 53 山口大学大学院医学系研究科
- 54 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス
- 55 愛媛大学大学院医学系研究科
- 56 香川大学医学部
- 57 産業医科大学
- 58 九州大学大学院医学研究院
- 59 福岡大学医学部
- 60 久留米大学医学部
- 61 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- 62 熊本大学大学院生命科学研究部
- 63 宮崎大学医学部
- 64 鹿児島大学大学院

1.北海道大学大学院医学研究科

神経病態学講座精神医学分野・児童思春期精神医学講座

Hokkaido University Graduate School of Medicine

Department of Psychiatry & Department of Child and Adolescent Psychiatry

〒060-8638 札幌市北区北 15 条西 7 丁目

TEL: 011-716-1161 (内線 5973) FAX: 011-706-5081

E-mail : tteru@med.hokudai.ac.jp (医局長 : 田中輝明)

1. 教室の特徴

臨床と研究の双方を重視し、狭い専門領域にとらわれない柔軟さとバランスの良さが特徴です。医学的・生物学的な考え方を基本に据えながらも、力動的・心理学的な見方と治療に努めています。教室は常に活気に溢れ、研究成果も「急がずに休まずに」の精神のもと、着実に発展を遂げています。教育にも力を入れており、これまで 400 名を越える精神科医が当教室に学び、北海道のみならず全国・世界に進出して、精神医学の臨床と研究に大きく貢献しています。開講 85 年を誇る歴史と伝統を大切にしながら、さらなる高みを目指して日々活動しています。また、本年度より全国でも稀な「児童思春期精神医学講座」が新設され、包括的な児童精神科医療の実践と充実を目指し、将来の児童精神医学を担う人材の育成にも積極的に取り組んでいます。



2. スタッフ

教授 久住一郎 (精神医学分野)、齊藤卓弥 (児童思春期精神医学講座)

准教授 井上 猛、朝倉 聡 (保健センター)

講師 中川 伸、田中輝明 (医局長)

助教 賀古勇輝、櫻井高太郎 (外来医長)、栗田紹子、仲唐安哉 (病棟医長)、藤井 泰、清水祐輔、柳生一自 (児童思春期)、亀山梨絵 (児童思春期)、北市雄士 (医学教育)、三井信幸 (地域医療)、豊巻敦人 (心身相関学)、古賀農人 (特任研究)

医員 成田 尚 (大学院生)、豊島邦義 (大学院生)、大久保亮 (大学院生)、若槻百美 (大学院生)、北川 寛 (大学院生)

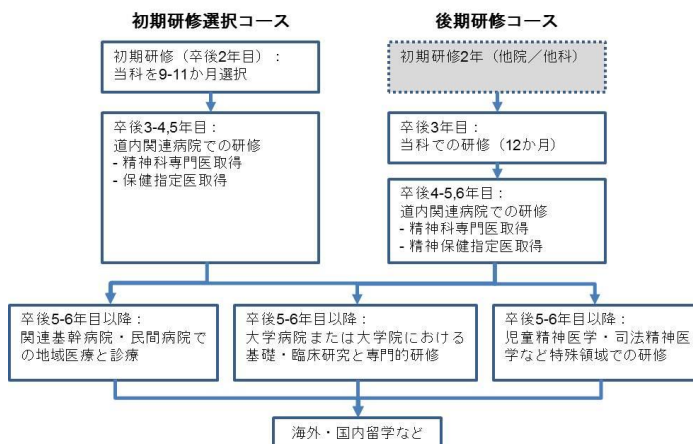
大学院生 安 燕（留学生）、陳 冲（留学生）、中井幸衛、宮崎 茜
 研究員 土田幸男、小倉有紀子（学術振興会特別研究員）、宋 寧（留学生）
 その他 臨床心理士 7 名、精神保健福祉士 5 名、作業療法士 4 名など

3. 研修プログラムの概要

北海道大学病院の臨床研修プログラムを受ける場合、下記 2 コースから選択できます。他院の研修プログラムを選択される場合は、後期研修コースとなります。

初期研修選択コース

卒後 2 年目に精神科を 9-11 か月選択し、3 年目以降は北海道内の関連基幹病院で勤務します。2-3 年間の勤務を経て、卒後 5-6 年目以降は専門コースに移行します。



後期研修コース

2 年間の初期研修を終えて、3 年目に後期研修医として大学病院で勤務します。4 年目以降は北海道内の関連基幹病院で勤務します。

2-3 年間の勤務を経て、卒後 6-7 年目以降は専門コースに移行します。

専門コース

- 1) 大学病院に戻って、基礎・臨床研究あるいは専門研修を受けます（希望者は大学院進学）。
- 2) 児童精神医学や司法精神医学など特定領域での専門研修を受けます。
- 3) 関連基幹病院や民間病院での勤務を継続して地域医療に携わります。

※臨床医 5 年（うち精神科医 3 年）の経験で精神保健指定医、精神科専門医の取得資格が得られます。全面的に協力・徹底指導していますので、合格率はほぼ 100%を誇ります。

4. 研修プログラムの特徴

プライマリケアから専門的疾患に至るまで一連の研修が可能です。外来・入院患者数は国立大学病院では最多で、開放・閉鎖病棟の 2 病棟を備え、72 床の病床数は大学病院では最大規模を誇ります。あらゆる年代層で豊富な症例数を経験でき、統合失調症、気分障害、てんかんなどの主要疾患について、各分野のスペシャリストである指導教官から丁寧な個別指導が受けられます。症例カンファレンスも毎日のように開催され、活発な議論を通じて深く学ぶことができます。また、各疾患の専門グループを数か月毎にローテーションすることで、全ての分野を網羅的に研修できます。リエゾン精神医学、先進的な精神科リハビリテーション、摂食障害や発達障害など専門的な研修も可能です。特色の一つとして、「クルズス」と呼ばれる勉強会が毎週通年で年間 120 時間以上も開催されています。精神医学のほぼ全てが網羅されており、系統的に学ぶことができます。詳細につきましては、当科 HP（下記 URL）をご覧ください。なお、当教室の研修プログラムは、日本精神神経学会の卒後研修プログラムのモデルとなっています。本研修を受けることで、短期間で面接、問診、初期診断、初期治療全ての領域で、標準以上の診療レベルに到達することが可能です。

5. 応募問い合わせ先

説明会や病院見学は随時行っております。お気軽にお問い合わせください。

担当：田中輝明（医局長） E-mail：tteru@med.hokudai.ac.jp

URL：<http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~e20529/univ/>（精神医学分野）

<http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~e20529/child/>（児童思春期精神医学講座）

Facebook：<https://www.facebook.com/HUGSMpsychiatry>

2.北海道公立大学法人 札幌医科大学医学部 神経精神医学教室

Department of Neuropsychiatry, School of Medicine, Sapporo Medical University

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291

TEL: 011-611-2111 (代) FAX: 011-644-3041 <http://npsy.sapmed.jp>

卒後臨床研修担当 橋本恵理 (准教授) e-mail: ehasimot@sapmed.ac.jp

1、教室の特徴

本教室は研究・教育機関としての役割は勿論、北海道内の地域精神医療の中核も担っており、これまで多数の優れた精神科医を各地域に輩出しています。また、出身大学を問わず全国各地から後期研修医を受け入れています。

2、スタッフ



名誉教授

齋藤 利和 (幹メンタルクリニック院長)

准教授

橋本 恵理 (卒後臨床研修担当)

講師

鵜飼 渉 (研究主任)、小林 清樹 (外来医長)

助教

石井 貴男 (教室長)、白石 将毅 (病棟医長)、荻原 英之 (副病棟医長)、木川 昌康 (副教室長)

診療医

角谷 陽平、坂田 太、南波 江太郎、高平 充、佐藤 謙太郎、早坂 郁、竹浪 美紗子

大学院生

古瀬 研吾、岩本 倫

非常勤講師

中野 倫仁 (北海道医療大学心理科学部臨床心理学科教授・学部長)

池田 官司 (北海道文教大学人間科学部作業療法学科教授)、館農 勝 (ときわこども発達センター長)

小澤 寛樹 (長崎大学大学院医歯薬総合研究科教授)、齋藤 諭 (ミネルバ病院)、吉田 拓 (ときわ病院)

吉永 敏弘 (帯広厚生病院)、山本 恵 (幹メンタルクリニック副院長)、

精神保健福祉士

岩木 敦子、坂口 知子

臨床心理士	米田 舞（寄附講座緩和医療学推進講座特任助教）、小笠原 雅美、谷内 早苗、常盤野 文子 新井田 愛美、森下 真祈子、中村 多喜子
研究員	辻野 華子
研究補助員	小野 真奈美、神田 康代
教授	松山 清治（兼務・保健医療学部作業療法学科教授・学科長）

3、研修プログラムの概要

- 精神科指定医コース／精神科専門医コース／
精神科指定医&専門医コース：後期研修 3 年間
- 大学院進学コース：大学院入学後 4 年間

身分は研究生（実際は臨床医です）または大学院生です。大学院生も附属病院での診療を担当することにより給与が支給され、健康保険等にも加入でき、生活面の不安がなく、安心して臨床業務と研究活動に取り組むことが出来ます。

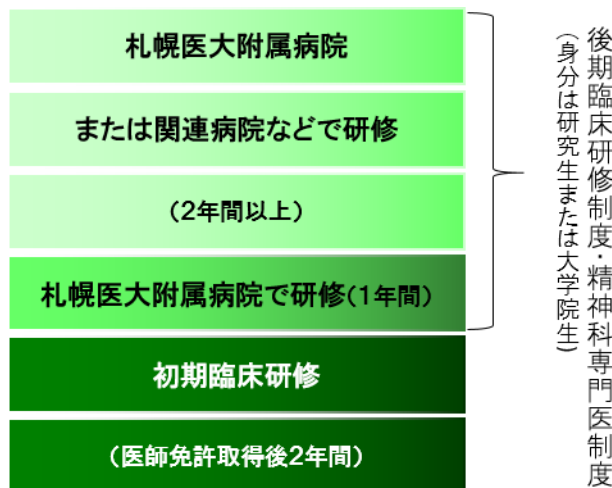
精神保健指定医・日本精神神経学会専門医取得は、最短で卒後満 5 年です。

後期研修 1 年次に当教室の教室員となった上で、指導医のもとで担当患者の主治医として研修し、精神科疾患の診断と治療に必要な知識・技能・態度を習得します。2 年次には大学病院あるいは関連病院にて、コンサルテーション・リエゾン等の幅広い臨床

経験を積み、精神保健指定医申請に必要な疾患の習得や、専門医取得準備を行います。本コース終了時には指定医・各専門医資格の取得要件を満たすことになります。

後期研修終了後は、特色のある治療や先進的医療、および教育関連病院における地域精神医療など、専門性の高い知識・技能の習得を促し、指導医としての素養を備えられるようなシステムを整えております。また、大学院に入学し、研究指向の精神科医を養成するコースも用意しております。

研修期間や研修施設については、個別の志向性に応じた希望や、家庭的事情なども考慮します。



4、研修プログラムの特徴

本施設の特徴として、積極的に措置入院を受け入れており、指定医取得に必須である措置症例の治療に関与することが可能です。また、認知症（老年精神医学会認定施設）・児童思春期などの専門外来も開設しており、個別の指導を受けることが出来ます。更に、性同一性障害（GID クリニックを併設）・サイマトロンを用いた修正型電気痙攣療法（mECT）・女性外来など、国内でも特色のある先進的医療に取り組んでいます。多数の臨床心理士・精神保健福祉士が教室員として在籍しており、心理検査や心理カウンセリング、更には社会資源などについても学ぶことができます。教室セミナー・症例報告会・抄読会などが盛んに開催され、十分な教育を受けられます。

大学病院および多くの関連病院には、精神保健指定医・日本精神神経学会指導医が常勤しており、後期研修医については、指定医および専門医の最短での取得が目指せるシステムを構築しております。日常業務においてはマンツーマンでの指導が受けられる体制となっており、また指定医レポート・専門医試験などについては、資格既取得者による万全の指導が受けられます。

夏季交流会をはじめ、大学病院および関連病院で勤務する医師の交流イベントも多く、関連病院勤務中も業務内容や将来設計などに関して、随時相談をすることが出来ます。

見学は随時受け付けております（特に総回診のある水曜日をお勧めしております。数日間の見学も可能）。

下記までお気軽にお申込みください。教室員一同、心よりお待ちしております。

5、応募問い合わせ先

橋本 恵理（准教授） e-mail: ehasimot@sapmed.ac.jp

TEL: 011-611-2111（代） FAX: 011-644-3041

ホームページ <http://npsy.sapmed.jp/> もご覧ください。

3.弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座

Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University Graduate School of Medicine

〒036-8562 青森県弘前市在府町5番地

TEL: 0172-39-5066 FAX: 0172-39-5067

卒後研修係（問い合わせ先）：齊藤 まなぶ （神経精神医学講座 講師・医局長）

E-mail: smanabu@cc.hirosaki-u.ac.jp

1、教室の特徴

私たちの講座は、伝統的に国内有数のてんかん研究機関として認知されてきました。最近では、てんかんの原因遺伝子解析の全国共同研究を展開し、一部のてんかんの新たな遺伝子異常を発見するなど成果を上げています。臨床神経精神薬理学的研究の分野では、向精神薬全般における薬物代謝、薬物相互作用に関する研究が精力的に行われており、国際的にも質の高い研究成果を挙げています。児童・思春期精神医学研究の分野では、平成10年に児童思春期外来を開設して以来、児童・思春期の患者が急増しており、子どものこころの発達研究センターと連携し、発達障害の基礎および臨床的研究のほか、不登校、摂食障害、統合失調症前駆状態について臨床研究を進めています。



弘前は春が桜やリンゴの花などを伴って一斉に来ます。四季の変化が豊かで大変過ごしやすい所です。同門会の先生方は県内各地で熱心に後輩の指導に当たっているほか、当講座出身の国立大学教授が全国各地で活躍しています。

2、スタッフ

教授 中村和彦（科長・子どものこころの発達研究センター長）

准教授 古郡則雄（総医長・外来医長）

講師 齊藤まなぶ（医局長・病棟医長）

助教 大里絢子、佐藤靖、富田哲

助手 小山智義、橋本浩二郎、岡応樹

大学院生 太田智佳子、吉澤佳織、敦賀光嗣、橋本浩二郎、工藤周平、石岡雅道、久保一利

3. 研修プログラムの概要と本施設における特徴

<後期研修医プログラム>

精神科医を目指す方のコースで、精神科指定医、精神科専門医を取得します。後期研修医以外の方も随時プログラムに入れます。

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1 年目 (卒後 3 年目) 2 年目 3 年目 4 年目	精神科医は精神保健指定医、精神科専門医の取得が必要ですが、このコースでは懇切丁寧な指導のもと確実な取得を保証します。弘前大学神経科精神科や協力病院の指導医は指導経験が多く今迄多くの精神科医を養成しています。本コースには卒業臨床研修委員会という弘前大学神経精神医学講座で 40 年にわたって行われた研修システムがあります。これは研修医が自らの自由意思で研修病院を、弘前大学医学部神経科精神科もしくは協力病院から選択できます。1 年ごとの異動が可能です。4 年間で上記が取得できます。また研究に関心がある方は大学院に入学し大学院と並行することが可能です。研究に関しても指導医がそろっており 4 年間で医学博士が取得できます。

<児童精神科医養成プログラム>

子どものこころの発達研究センターと連携のもと、不登校、自閉症、注意欠陥多動性障害、子どものうつ病、心身症などの外来治療、入院治療を指導のもとで行います。症例報告、学会発表、レポート作成を行い認定医試験を目指します。随時プログラムに入れます。

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1 年目 (卒後 3 年目)	日本では児童精神科医が 100 人ほどしかおらず、不足している状況です。このコースでは 4 年間で精神科指定医、精神科専門医、児童専門医を取得します。1 年目は弘前大学もしくは協力病院でうつ病、統合失調症などの基本的な疾患の研修をします。
2 年目	弘前大学もしくは協力病院で身体疾患を合併する精神科疾患、電気けいれん療法を必要とするうつ病、神経症の認知行動療法、摂食障害などより専門的に研修します。
3 年目	弘前大学もしくは児童専門医のいる協力病院で、不登校、自閉症、注意欠陥多動性障害、子どものうつ病、心身症などの外来治療、入院治療を指導医のもとで行います。
4 年目	弘前大学もしくは児童専門医のいる協力病院で、研修をしながら、症例報告、学会発表、レポート作成を行い専門医試験を目指します。

後期研修と並行して大学院履修コースがあります。指導医がつき 4 年間で修了し、医学博士が取得できます。さらに研究を継続する方は、希望により国内では理化学研究所、大阪・浜松医大・金沢大学子どものこころの発達研究センターの国内留学、カロリンスカ研究所などに海外留学できます。

4. 応募連絡先

担当者 斉藤 まなぶ (講師・医局長)

E-mail smanabu@cc.hirosaki-u.ac.jp

応募期間 随時受付、面接を行います

4.秋田大学医学部 精神科専門医コース

Akita University Hospital

〒010-8543 秋田市本道一丁目1の1

TEL: 018-884-6122 FAX: 018-884-6445

担当者 神林 崇 E-mail: takashik@med.akita-u.ac.jp

HP: <http://www.med.akita-u.ac.jp/~seisin>

1、教室の特徴

当教室の精神科専門医コースは、生涯学び続けるよき精神科医師を養成することを目指します。具体的には、初期臨床研修2年間を終えた後の6年間の間に3つの資格、すなわち精神保健指定医、日本精神神経学会専門医および学位（博士）の取得について責任を持って援助するものです。事情により学位取得を希望しない方のためのコースもあります。

【若さ】【対等】【自由】が清水徹男教授の、したがって精神科学講座のモットーであります。若い教員たちでスタッフが構成されており、医局内は活気に満ちています。近年は女性医師も増えてきており、出産・育児といった事情にも柔軟に対応しています。個人の自由度が高く、また人間関係のトラブルが全くないのが自慢です。皆さんもこの自由闊達な雰囲気の中で脳と精神をサイエンスしてみませんか！！



2、専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設

●各種学会認定専門医数

精神保健指定医：13名、日本精神神経学会専門医：10名

日本総合病院精神医学会特定指導医3名、日本睡眠学会認定医：2名

日本老年精神医学会認定医：1名、日本臨床精神神経薬理学会専門医：1名

●各種学会施設認定

日本精神神経学会研修施設、日本睡眠学会認定施設、日本老年精神医学会認定施設

日本総合病院精神医学会特定研修施設、日本臨床精神神経薬理学会研修施設

●指導担当医師数と出身大学・出身高校

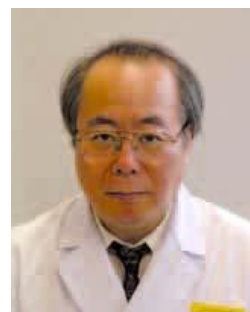
○精神保健指定医：10名

○医局員の主な出身大学医学部…秋田大、岩手医科大、埼玉医科大、帝京大、大阪大、熊本大

○出身高校…秋田、大曲、横手、酒田南、盛岡一、新潟、前橋、大手前（大阪）、鳳（大阪）、土佐 他

●主な関連病院

県立リハビリテーション・精神医療センター、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、県立医療療育センター、市立角館総合病院、中通総合病院、山本組合総合病院、由利組合総合病院、杉山病院、秋田緑が丘病院、今村病院、清和病院、回生会病院、笠松病院、加藤病院、協和病院、横手興生病院、象潟病院など



研修実施責任者・精神科学講座教授

清水徹男

3、専門医育成コースの特徴

精神保健指定医

この資格は精神保健福祉法に基づき人権を尊重して精神医療を行うための国家資格です。当科では必要症例のスムーズな獲得のために最大限のサポート体制ができています。ローレートの2年に加えて、精神科での3年の計5年の臨床経験で取得資格が得られます。研修会への参加と臨床症例8例をレポートにまとめて提出し、審査にパスすることが必要です。

精神科専門医制度

日本精神神経学会の精神科専門医制度がスタートしています。3年間の後期専門研修後に症例報告、口頭試問、筆記試験があります。

医学博士号について

幾つかの研究テーマがあり、各教員がそれぞれのテーマに沿って学位指導を行っています。どの研究テーマを選択するかは全くの自由です。研究テーマとしては、睡眠研究グループ、臨床薬理グループなどがあります。

3、専門医育成コースの概略(図の説明)

初めの1年は全員が秋田大学附属病院神経科精神科で研修を開始します。その後はプログラムの期間中に学外の総合病院精神科と精神科専門病院（可能な限りは両者）において2・3年にわたり研修します。また、プログラム期間のいずれかの時期に大学院（一般、社会人の何れでも）に入学することができます。ただし、入学するタイミングは個人の選択に任せます。プログラムの初めの1年目から臨床のトレーニングと並行して大学院に入学することもできます。あるいは精神科の臨床研修を1・2年行った後に大学院に進むことも可能です。アルバイトは医局で斡旋し、早期から可能です。

医員

指導医とともに病棟と外来業務をこなしながら、精神医療全般を学びます。希望者の全員を医員として採用できることになりました。2・3年以内に大学院へ進学することもできます。

小児・思春期精神医学

小児・思春期精神医学に興味のある方もいると思います。これまで秋田県内の小児・思春期精神科の専門施設は「長信田の森・心療クリニック」のみでしたが、平成22年に「秋田県立医療療育センター」が発足しました。まずは精神科医療の全般を3年程度は学び、指定医・専門医を取得後により専門性の高い施設での研修が望ましいと考えています。

大学院生（一般・社会人）

指導医とともに病棟と外来業務をこなしながら、精神科医療全般を学びます。6年間の研修期間のうち約2年は学外の医療機関において、指定医の資格取得のために必要な症例を経験していただきます。2年間は、研究センターとなります。原則大学院入学後4年で学位取得。授業料の支払いもありますが、週2回程度の関連病院勤務で収入は十分確保できます。秋田県から奨学金をうけることもでき、その間に海外留学することも可能です。

学外における臨床研修の場については本人の希望と地域の需要、その医療機関で経験できる症例などを勘案して教室が決定します。専門医と指定医の資格取得に必要な症例を経験できる機会は教室が責任を持ってお世話します。大学院への入学のタイミングは個人の希望を十分に取り入れて柔軟に決定します。学位研究は責任を持って指導いたしますが、研究の主体はあくまで大学院学生本人にあることはいまでもありません。研究の進捗状況によっては4年間で学位を修了できない場合もあり得ますが、その場合にも教室の総力を挙げて指導いたします。逆に、優れた研究が早期に完成し一流紙に掲載が決まった場合には繰り上げて卒業することも可能です。

医学部卒業後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
Aコース (大学院進学コース1)	卒業臨床研修		大学病院	大学院 大学病院	研究主体に 指定医・専門医申請		総合病院 精神科勤務 学位取得	精神科専門 病院勤務
Bコース (大学院進学コース2)	卒業臨床研修		大学病院	研究主体に	指定医・専門医申請	総合病院 精神科勤務 学位取得	精神科専門 病院勤務	海外留学
Cコース (社会人大学院 進学コース)	卒業臨床研修		大学病院	総合病院 精神科勤務	精神科専門 病院勤務 指定医・専門医申請	大学院社会人 総合病院 精神科勤務 研究主体に		学位取得
Dコース (専門医コース)	卒業臨床研修		大学病院	総合病院精神科勤務	指定医・専門医申請	児童・思春期 専門施設勤務	精神科専門 病院勤務	総合病院 精神科勤務

4、21 世紀は脳の時代：これから面白くなってゆく学問領域

21 世紀は脳の時代と言われており、脳は最後に残った未知の臓器です。精神疾患の原因はまだまだ分からないものが多いですが、これから一気に明らかになっていくと考えています。例えば、ナルコレプシーは 1999 年から 2000 年にかけてその原因が明らかになりました。自己免疫性傍腫瘍性辺縁系脳炎の 1 つである抗 NMDA 受容体抗体脳炎は、重篤化すると脳炎症状を来しますが、抗体濃度が高くない場合には精神症状のみで経過すると考えられています。その精神症状はこれまで統合失調症と言われていた症状と全く区別が出来ないくらいに同一なのです。このことから、これまでは謎であった統合失調症の原因の一部に繋がると考えて、現在研究中です。一方では、精神科医療の現場ではまだまだ原因のわからない疾患に対しての旧態依然とした治療を続けている現実もあり、また社会の偏見とのせめぎ合いもあります。現在はさながら、発展途上国のスラム街の中に、経済発展にともなって最新の高層ビルがところどころに出現しているような状態であるとも言えるかも知れません。精神医学は今まで面白かった学問領域というよりは、これから面白くなってゆく学問領域だと思います。大学の講義等で興味深いのは往々にして、これまで面白かった学問領域であり、これから面白くなる場所は、当然ながらまだ講義のネタにはならないのです。皆さんも我々と一緒に脳と心の科学の進歩を実体験として経験して行きませんか？

5.山形大学医学部医学科 精神医学講座

Department of Psychiatry, Yamagata University Faculty of Medicine

〒990-9585 山形県山形市飯田西2丁目2番2号

TEL: 023-628-5322 FAX: 023-628-5325

卒後研修係：川勝 忍 准教授

公式 HP <http://www.id.yamagata-u.ac.jp/NP/index.htm>

1、教室の特徴

当講座では、症例を重視した個別指導、検討会での症例提示、学会および論文発表などを通じ、幅広い知識と高い診断・治療能力を持った責任感ある精神科医師を養成する研修を行っております。各専門分野の指導医から、最新の知識、技術が習得できます。研究においても、うつ病やパーソナリティに関する遺伝的側面からの研究や認知症の研究を主に行っております。

2、スタッフ（常勤）

教授 大谷浩一*

准教授 川勝忍*（医局長）

講師 林博史*（外来医長）、鈴木昭仁*

助教 簡野宗明*、押野伸吾*（病棟医長）、小林良太*、長澤浩樹*、石井玄樹*

医員 松本祥彦*、渋谷直史、貞廣良一（留学中）*、勝見友里、桑畑文一

社会人大学院生

榎戸正則

初期研修医（卒後臨床研修センター所属）

2年目 森岡大智、高橋奈那 1年目 櫻井 耕、大石 祥

心理療法士：吉田夕佳（育休中）、佐藤裕美

（*は精神保健指定医）

3、研修プログラムの概要

【初期研修（2年間）】

大学病院を中心に初めに精神科を3ヶ月、その後内科、救急・麻酔科、外科などを1年、再び精神科3ヶ月、最後に県立鶴岡病院で精神科を6ヶ月研修します。2年間で精神科を12ヶ月研修でき、早くから精神科専門を目指す方にお勧めです。緩和ケアや高次脳機能障害科など他にはない選択科目も準備されています。

【後期研修（4年間）（卒後6年目まで）】

A 大学病院、B 県内の総合病院精神科および心療科、C 精神科病院の3つをそれぞれ1～2年ずつ組み合わせて研修し、卒後5～6年で精神保健指定医、精神神経学会専門医を取得できます。大学病院の週間予定は、外来業務、病棟業務、関連病院への応援診療、夕方18時より、月曜日は老年精神・画像、火曜日は児童、水曜日は全体検討抄読、木曜日は臨床薬理の各勉強会があります。

【大学院（社会人大学院）】

上記の初期研修および後期研修として病院勤務しながら指導教官のもと研究・論文作成し、学位取得する社会人大学院コースが利用できる。4年間で医学博士が取得できます。

【後期研修終了後（卒後 7 年目以降）】

さらに、個々の専門領域（精神神経薬理、老年精神医学、児童青年期精神医学、うつ病の認知行動療法、緩和ケア、医療観察法病棟、など）について国内外の留学等を含めて経験をつみ、あわせて各サブスペシャリティの専門医、認定医（日本臨床薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本老年精神医学会、日本認知症学会、日本児童青年期精神医学会など）を取得できます。下記の写真の関連病院の先生方も指導してくれます。

4、山形大学病院における研修の特徴

山形大学の初期研修プログラムでは、2 年のうちの 1 年間を、精神科を中心として研修することができ、精神科専門教育を早くから受けながら、身体科の研修を合わせて行っています。また、大学病院では身体合併症を有する措置入院患者を積極的に引き受けており他にも症例は豊富であり、大学病院単独でも指定医の症例が 1 年以内で経験可能です。修正型電気けいれん療法、行動療法、画像診断など幅広い手技や検査法に習熟できます。3 年目以降は、総合病院精神科と精神科病院の両方を経験することにより、高い総合力を持ち、他科との連携も十分に取れる、バランスのよい精神科医を育成しています。

5、応募問い合わせ先

随時行っておりますのでお問い合わせください。

卒後研修係：川勝 忍 准教授

E-mail : skawakat@med.id.yamagata-u.ac.jp

山形大学医学部精神医学教室スタッフと関連病院の先生方（2014 年 5 月撮影）



6.東北大学病院精神科

東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野

Department of Psychiatry, Tohoku University Hospital

Department of Psychiatry, Tohoku University Graduate School of Medicine

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1

TEL:022-717-7262 FAX:022-717-7266

E-mail : info@psytohoku.ac

1、教室の特徴

1915年に東北帝国大学医科大学が開設された翌年から“精神病学講座”として開講され、これまで多くの精神科医を育て、臨床・教育・研究において数々の成果をあげてきた。近年では多職種と連携し、患者の生活全般への支援に力を入れている。

2、スタッフ

教授	松岡洋夫（科長）
准教授	松本和紀（予防精神医学寄付講座所属）
講師	本多奈美（副科長、医局長）
助教	近藤直洋（外来医長）、菊地紗耶（外来副医長）、大室則幸（病棟医長） 佐藤博俊（病棟医長代行）、桂雅宏、佐久間篤
特任助手	川井由美子
医員	上野草太、高林洋史、横川信弘、國分恭子、佐藤健太、高梨央康、和田努、 橋田かなえ
後期研修医	玉澤和彦、李宇鐘、佐藤祐太朗、富本和歩
大学院生	飯塚邦夫、上田一気、小原千佳、菊池達郎、小林奈津子 宮川熱志（宮城県立精神医療センター連携大学院）、 奥山純子（宮城県立精神医療センター連携大学院）
看護師	高橋葉子（予防精神医学寄付講座所属）、阿部幹佳（予防精神医学寄附講座所属）
臨床心理士	工藤亜子、濱家由美子、佐藤奈々（デイケア所属）、砂川恵美 長尾愛美（予防精神医学寄付講座所属）
精神保健福祉士	田口望、本庄谷奈央
作業療法士	田端美佳子

2、研修プログラムの概要

A.臨床重点コース（精神科専門医・精神保健指定医コース）

東北大学病院（1-2年）→前期研修協力病院（1-2年）→後期研修協力病院（1-2年）の5年間で、約3つの施設に勤務。大学病院、精神科病棟、総合病院。こども病院などに勤務し、精神科全般の研修を幅広く行いながら、精神科専門医・精神保健指定医の取得に必要な症例経験を積みみます。

児童精神科医希望者には、日本児童青年精神医学会認定医を取得できるよう指導も行っております。

臨床重点コース					
初期研修	1年				
	2年				
専門研修		プログラム	例（1）	例（2）	例（3）
	1年	大学病院（必修）	大学病院（必修）	大学病院（必修）	大学病院（必修）
	2年	前期研修協力病院 or 大学病院	前期研修協力A病院 (急性期病棟)	前期研修協力D病院 (急性期病棟)	前期研修協力K病院 (総合病院)
	3年	前期研修協力病院 or 大学病院	前期研修協力B病院 (回復期病棟)	前期研修協力F病院 (アルコール病棟)	前期研修協力L病院 (急性期病棟)
	4年	後期研修協力病院 or 大学病院	後期研修協力C病院 (地域精神医療)	後期研修協力G病院 (老年期精神医療)	後期研修協力J病院 (地域精神医療)
	5年	後期研修協力病院 or 大学病院	大学病院	後期研修協力H病院 (総合病院)	こども病院 or 児童相談所
↓					
Advanced Course（臨床および研究における専門家を目指す）					

B.大学院進学コース

大学病院（1年）＋数年の研修後、大学院に進学し医学博士取得を目指します。臨床の必要年数と症例数があれば、精神科専門医・精神保健指定医の取得も可能です。

大学院進学コース					
初期研修	1年				
	2年				
専門研修		例（1）	例（2）	例（3）	例（4）
	1年	大学病院（必修）	大学病院（必修）	大学病院（必修）	大学病院（必修）
	2年	前期研修協力A病院 or 大学病院	前期研修協力D病院 or 大学病院	前期研修協力G病院 or 大学病院	大学院1年
	3年	前期研修協力B病院 or 大学病院	前期研修協力E病院 or 大学病院	大学院2年	大学院2年
	4年	後期研修協力C病院 or 大学病院	大学院3年	大学院2年	大学院3年
	5年	大学院1年	大学院2年	大学院3年	大学院3年
	6年	大学院2年	大学院3年	大学院3年	前期研修協力J病院 or 大学病院
	7年	大学院3年	大学院3年	前期研修協力H病院 or 大学病院	前期研修協力K病院 or 大学病院
	8年	大学院3年	後期研修協力F病院 or 大学病院	後期研修協力I病院 or 大学病院	後期研修協力L病院 or 大学病院
↓					
Advanced Course（臨床および研究における専門家を目指す）					

3、東北大学病院における研修の特徴

病棟は閉鎖と開放を有しており、精神保健福祉法を理解しながら、統合失調症や気分障害のみならず、様々な身体疾患や器質性精神病の診断、治療、心理社会的支援等について、主治医として上級医の指導のもと深く学ぶことができます。入院時のカンファランスでは診断・治療等について指導を受けることができ、その後も定期的なカンファランスにてサポートを受けることができます。勉強会も盛んであり、各分野の知識や技能の習得はもちろん、松岡教授によるクルブスが行われ最先端の精神医学臨床や研究について学ぶことができます。子ども外来、周産期外来、早期精神科外来、リエゾンコンサルテーション外来などの専門外来があり、様々な疾患の診断と治療を経験できます。

4、応募問い合わせ先

研修説明会、病棟外来見学等を行っていますので、随時お問い合わせください。

医局長：本多奈美 e-mail：nami47@med.tohoku.ac.jp

7.福島県立医科大学医学部 神経精神医学講座

Department of Neuropsychiatry, Fukushima Medical University (FMU)

〒960-1295 福島市光が丘 1

TEL: 024-547-1331 FAX: 024-548-6735

連絡先 教授 矢部博興 E-Mail: hyabe@fmu.ac.jp

1. 教室の特徴

当講座は、丸井琢次郎教授により昭和 20 年 12 月に開講され、二代目の熊代 永教授、三代目の丹羽真一教授の後、平成 25 年 1 月から私（矢部博興）が主宰しております。伝統を守りつつも、私以外の教室員はいずれも 20 歳～30 歳代 という特性から、若手の発想や感性を重視した活気ある講座運営を心掛けております。さらに、患者さんが過ごされる環境への配慮はもちろん重要ですが、これまで軽視される傾向にあった医療スタッフにも配慮した職場環境の整備にも積極的に取り組み、また育児休暇などにも配慮しております。

当講座は精神医学の方法論の中では生物学的精神医学を重視しつつも、心理社会的方法をバランスよく採用して精神科臨床活動と精神医学研究活動に携わってきた歴史を有しております。つまり、精神現象は脳の機能の産物であるという考えに立ち、異常な精神現象の生理学的、薬理学的、組織病理学的な研究を行ってきました。同時に、異常な精神状態や不健康な心理状態が心理・社会的要因との相互作用によって発現する機序を明らかにすることで、精神疾患を総合的に捉えられるようになることも目指しています。

診療活動としては、デイケア治療の中で生活技能訓練(SST)を行いながら、リハビリテーションを大切にして治療成績向上をはかることを重要課題と据え、児童・思春期精神疾患、てんかん、認知症、リエゾン精神医学など多様なニーズに応える診療活動を発展させ、その中で疾患とその治療法の研究を行っています。また、2 年間の心理研修コースを併設しており、常に 10 人程度の心理研修生と共に、心理社会的なプログラムも実践しています（外来服薬教室、症状自己管理教室、家族交流会／家族会、子どもソーシャルスキル教室 CSST、禁煙外来、知ってガッテン！相談室、デイケア（SST 含む））。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災は、福島県では、福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の問題を引き起こし、県民の心に長期に渡る影を落としています。この 3 年間で、神経精神医学講座は、メンタルヘルスケアの中心的な役割を担ってきました。一つは、福島県の委託を受けて、放射線医学県民健康管理センターこころの健康度・生活習慣調査を行ってきました。二つ目は、福島医大心のケアチームの活動を、主に避難区域を含む福島県浜通りを中心に行ってきました。精神医療の完全崩壊が生じた相双地域に対する心のケアの拠点としてメンタルヘルスアウトリーチを基本とする精神医療システムの構築も行ってきました。この活動は、国内外に大きく注目されています。福島県の将来の最大の問題はメンタルヘルスに関わるものであるのは明らかです。この歴史的にも重要な意味を持つ精神医療活動の現場で一人でも多くの方が研修して頂くことを切に願っております。

2. スタッフ



教授 矢部博興

(併任)准教授 増子博文、横山 昇、松岡貴志、畑 哲信

講師&学内講師 三浦 至（副部長）、國井泰人（医局長）、板垣俊太郎、後藤大介

助教/助手 貫井 洋、松本純弥、松本貴智、刑部有祐、（堀越翔）

(兼任)助教 本谷 亮

(併任)助教 山田康人、金澤壮一、西郷佳世、石川大道、小林正憲

病院助手 宮下伯容、高野佳寿子、疋田雅之、曾田恵美、伊藤典和、大島洋和、野崎途也、安藤海香、大口春香、笠原 諭、伊瀬陽子、小林直人、星野仁彦、管 るみ

専攻医 浅野聡子、太田貴文、松村行雄、刑部有祐、堀越 翔、佐藤亜希子、畠山 毅、鈴木理枝子

非常勤講師 星野仁彦、管 るみ、田子久夫、小林直人、丹羽真一、和田 明、竹内 賢、池田正明

博士研究員 志賀哲也（留学中）、渡辺 厚、管 るみ、大須賀伸佳、本田教一、松本清治、渡部芳徳、佐藤智子、小林直人、田子久夫、山本佳子、楊 巧会、笠原 諭、大島祥恵、日野瑞城、佐久間寛之、和田 明、丹羽真一、高梨靖子

大学院生 貝淵俊之、樋代真一、大口春香、浅野聡子、太田貴文、伊藤典和、藤本 聡、鈴木祐子、星野 大、刑部有祐、堀越 翔、佐藤亜希子、畠山 毅

大学院研究生 小林正憲、添田博也、疋田雅之、平尾美枝子、河野創一、曾田恵美、大島洋和、松尾智彦、及川友江、野崎途也
 主任医療技師 菅野和子
 臨床心理相談員 山岸良平、鈴木理絵
 心理研修生 本多忠勝、佐藤千紘、宇佐神里美、田所真英、志賀可奈子、林 薫、柳沼 貴、阿部智絵美
 特別研究員 大島祥恵、日野瑞城
 客員講師 昼田源四郎、宮川明美

3、研修プログラムの特徴



< 3つの専門医コース >

「精神科専門医コース」「心身医学専門医コース」「児童精神医学専門医コース」と3つの専門プログラムを用意しております。

< 大学院の併願が可能 >

指定医・専門医取得のための臨床研修を行いながら、同時に大学院生として研究に取り組むことが可能です。学位取得のために臨床を離れる必要はありません。

< 幅広い実力を確実に育む指導体制 >

屋根瓦方式による指導体制を実施。「児童・思春期外来」「てんかん外来」「光トポグラフィ」などの専門外来も多数開設されています。

< 検査・治療技術の習得 >

脳波検査・MSLT・光トポグラフィ検査・磁気刺激療法・CBT（認知行動療法）・mECT（修正型電気痙攣療法）・UBOMなどの検査技術・治療技術を習得できます。

< 指定医・専門医の取得 >

最初の2年間で、指定医・専門医取得に必要なほとんどの症例を経験可能です。

< 緩和ケアチーム >

院内緩和ケアチームのメンバーとして、緩和ケアにも積極的に取り組んでいます。

< リエゾン精神医学の充実 >

他科との連携体制が非常に充実しています。腰痛に対する整形リエゾンは全国的にも有名です。

< 女性のキャリアサポート体制の充実 >

産休・育児休暇中の先生、産後復職された先生が多数いるため、女性のキャリア形成に対して十分なロールモデルと実績があります。

< 海外留学の推奨 >

講座では海外留学を推奨しており、現在は講座から毎年1名が留学を行っています。

4、同時取得できる大学院の研究テーマ

神経精神疾患の認知生理学的研究

[事象関連脳電位研究、光トポグラフィ研究、脳磁気刺激研究、実験心理学的研究を含む]

神経精神疾患の精神薬理学的研究

[モノアミン研究、薬物脳波研究を含む]

神経精神疾患の病理組織学的研究

[死後脳バンク研究、DNAバンク研究を含む]

神経精神疾患の社会心理学的研究

[臨床心理学的研究、精神保健研究を含む]

5、応募問い合わせ先

随時、見学やご相談に応じます
 気軽にご連絡ください

研修責任者：教授 矢部博興

E-Mail: hyabe@fmu.ac.jp

ホームページ URL :

<http://fmu-hpa.jp/neuropsych/>

8. 群馬大学大学院医学系研究科 神経精神医学教室

Department of Psychiatry and Neuroscience, Gunma University Graduate School of Medicine

〒371-8511 前橋市昭和町三丁目 39-22

TEL: 027-220-8187 FAX: 027-220-8187

卒後研修係：青山義之（医会長） E-Mail: yaoyama@gunma-u.ac.jp

1、教室の特徴

昭和 19 年開講であり、生活臨床の発祥の教室として、近年では全国に先駆け整備された精神科救急システム、光トポグラフィーをはじめとした脳機能研究の臨床応用の発信地として、常に患者さんの目線に立った精神医療への提案を続けています。



2、スタッフ

教授	福田正人（診療科長）
講師	成田耕介
助教	藤平和吉（病棟医長）、高橋啓介（外来医長）、青山義之（医会長）、 服部卓、宮田茂雄、武井雄一、成田秀幸、平岡敏明、小野樹郎、斉藤良、藤原和之
医員	松川幸英
シニアレジデント	林若穂、平野かほり、森岡汐里、井上恵理子、高橋辰徳、長谷川哲也
心理	大須賀 英理、櫻澤 真寿美
大学院生	石毛陽子、高橋由美子、鈴木雄介、田川みなみ、笠木真人、茂木智和

3、研修プログラムの概要

A: 一般精神医学コース

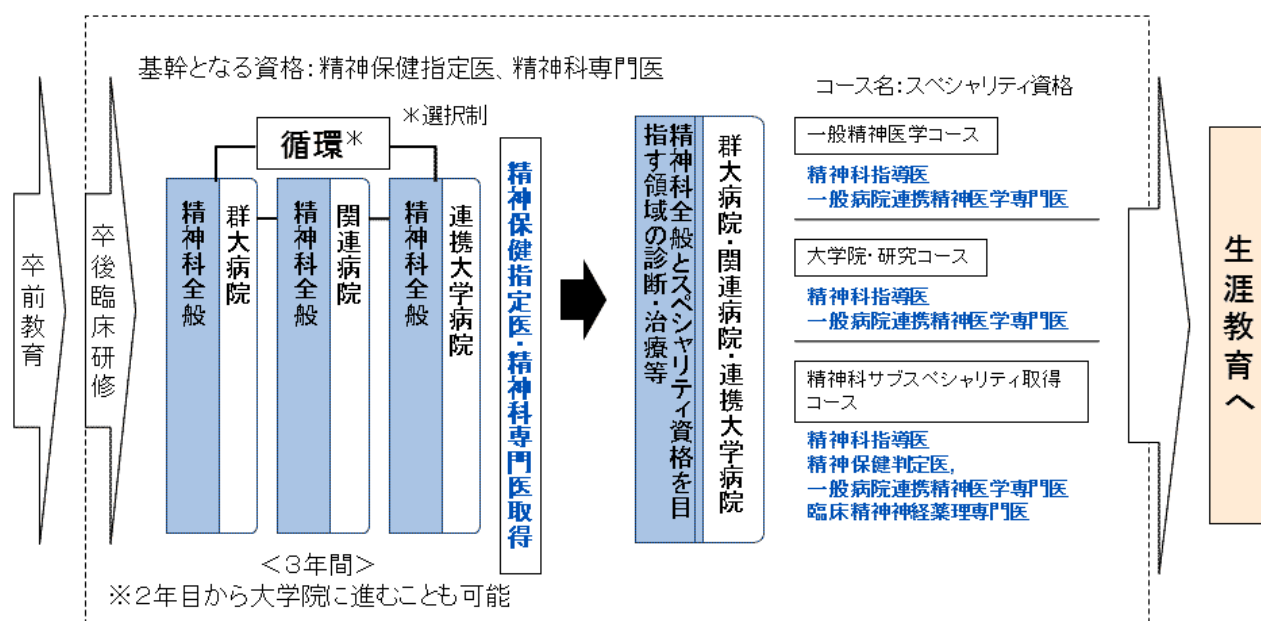
大学病院・総合病院精神科・単科精神科病院（精神科救急含む）で各1～3年の研修を行い、精神科全般について必要な知識と技術のバランス良い習得を目的とし、精神保健指定医・日本精神神経学会専門医の資格取得に必要な経験を積むことができるコースです。

B: 大学院・研究コース

医学博士取得・研究活動への参画を主に希望する場合、選択が可能なコースです。

C: 精神科サブスペシャリティ取得コース

後期専門研修開始後3年間、大学病院・単科精神科病院・総合病院精神科で各1年の研修を行い、精神科全般について必要な知識・技術・経験を身につけ、日本精神神経学会専門医及び精神保健指定医の取得に必要な経験をつむことができるコースです。



4、研修プログラムの特徴

群馬県は、精神科救急システムが全国に先駆け整備されており、安心して研修を行うことができる点が特徴です。もちろん先輩医師による定期的な個別指導、定期的なカンファレンスでの診断・治療の検討に加え、系統的なクルズスや抄読会で知識と理解を深め、多岐にわたる症例を経験できます。精神科各分野のスペシャリストによる教育も適宜受けることができます。また、臨床研究論文の作成や学位の取得を目指して、コース途中での大学院への進学や、連携大学病院での研修を選択することも可能です。

5、応募問い合わせ先

研修説明会、病棟見学等を行っていますので、随時お問い合わせください。

卒後研修係：青山義之 医会長 E-Mail: yaoyama@gunma-u.ac.jp

9. 獨協医科大学 精神神経医学講座

Department of Psychiatry, Dokkyo Medical University School of Medicine

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

TEL: 0282-86-1111 FAX: 0282-86-5187

卒後研修係 下田和孝教授 E-mail: shimoda@dokkyomed.ac.jp

尾関祐二准教授（医局長） E-mail: ozeki@dokkyomed.ac.jp

1. 教室の特徴

精神科医療の拠点の一つとして様々な地域の要請にこたえとともに、精神科医の育成を行い、研究施設としての成果も地道に積み重ねています。



2. スタッフ

教授	下田和孝（科長）
准教授	尾関祐二（医局長）
講師	大曾根彰、藤井久彌子、渡邊崇
助教	石川高明（病棟医長）長谷川千絵、岡安寛明（外来医長）、藤平明広、近藤年隆、加藤征樹、熊懷りか
レジデント	篠崎將貴
大学院生	青木颯子（社会人大学院生 県立岡本台病院）、宋 大光（社会人大学院生 阪南病院） 高野有美子（社会人大学院生 森病院）
臨床心理士	小西 徹、新井怜子、袴田リナ

3、研修プログラムの概要と特徴

臨床研修制度での2年間の研修を終了した後、レジデントとして2年間精神神経科を専攻し、その後専門医の資格を取得するコースである。統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害）、認知症、不安障害、身体表現性障害、解離性障害、睡眠障害、摂食障害、パーソナリティ障害など主要な精神疾患の入院患者を受け持ち、指導医とともに治療にあたる。

その間、薬物療法・精神療法の実際、修正型電気けいれん療法の手技を身に付け、希望者には精神薬理の実験も指導する。外来においても再診患者の診察に当たる。また、入院外来を通じて他の診療科から依頼のあった症例について積極的に関与することによって、リエゾン・コンサルテーション精神医療を実践する。

その後、関連病院において措置入院の症例を診察する。これらを通して精神保健指定医および精神科専門医取得に必要な症例を経験する。その後、再び大学病院で2年間研修を続け、精神科指導医として必要な経験を積む。

コースの指導状況

8人の精神保健指定医が直接外来患者の診察に同席する。また毎週月曜日、教授をはじめとする医局員全員、病棟師長、臨床心理士、臨床実習学生が出席し治療方針決定会議を行い、入退院患者の診断・治療に関し指導する。

生物学的精神医学に関心のある者に対しては、研究実績のある医局員が実験指導を行う。修正型電気けいれん療法に関しては実施経験豊富な医局員が指導しながら試行し、技術の上達を支援する。

コースの特徴と実績

当教室では臨床の現場で得られたデータを科学的に分析していくことで、問題解決能力を培うこともおこなっている。その結果として、渡邊崇が第15回日本臨床精神神経薬理学会に応募した演題「パニック障害患者の初期治療反応性と paroxetine 血中濃度の関係」が平成17年度日本臨床精神神経薬理学会賞(Paul Janssen 賞)、佐伯吉規学内講師の原著論文、Genetic and Pharmacokinetic factors affecting the initial pharmacotherapeutic effect of paroxetine in Japanese patients with panic disorder (European Journal of Clinical Pharmacology 65:685-691, 2009)が平成21年度日本臨床精神神経薬理学会奨励賞、尾関祐二准教授の原著論文、QTc prolongation and antipsychotic medication in a sample of 1017 patients with schizophrenia (Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 34:401-405, 2010)が平成22年度日本臨床精神神経薬理学会奨励賞をそれぞれ受賞している。

4、本施設における研修の特徴

当施設では、精神科専門医師として独立して診療をおこなう際必要と考えられる知識や経験を十分身に着けることができるよう指導、支援をしてゆきます。精神療法や薬物療法、画像、生理学的診断等、精神科医師として必須の項目に関してしっかりと学べるとともに、さらに専門性の高い診療分野に関心があれば、当院及びその関連病院での研修をしっかり支援してゆきます。日々の診療から生じる治療や病態などについての疑問を、自らの手で明らかにしてゆくような研究への道も用意されています。臨床・研究などの分野で現在求められている精神科医像に合致する医師を養成すべく研修を行っています。

5、応募問い合わせ先

獨協医科大学精神神経医学講座 下田和孝

TEL: 0282-86-1111 (内線 2730) FAX: 0282-86-5187

E-mail: shimoda@dokkyomed.ac.jp

講座 HP <http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/psy/>

講座 facebook https://www.facebook.com/#!/psychiatrydmu?bookmark_t=page

10.埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科

Saitama Medical University: Department of Psychiatry

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

TEL: 049-276-1214 FAX: 049-276-1622

医局長 松岡 孝裕 E-mail: sms_psy@saitama-med.ac.jp

1、臨床研修の魅力 ～精神科～

「精神科」と聞くと、「変わった病気を診る特殊な科？」というイメージをお持ちかもしれませんが、実態は異なります。幻覚妄想状態といっても、脳器質性や内分泌・代謝性など多彩な原疾患が考えられるわけで、＜精神科診断・治療＞の学習は、将来、身体科で活躍する先生にとっても必ずや役立つと言えます。また、＜精神科面接技法＞の学習も、将来、臨床の最前線で様々な医療面接を行うことになる先生方にとりきつと役立つはずです。このように精神科では、『こころ』から『脳』に到るまで広く精神活動全般を扱います。そこでの研修は、先生方が将来、★＜全人的医療を行う上での礎＞となると考えています。

2、埼玉医大精神科の特色

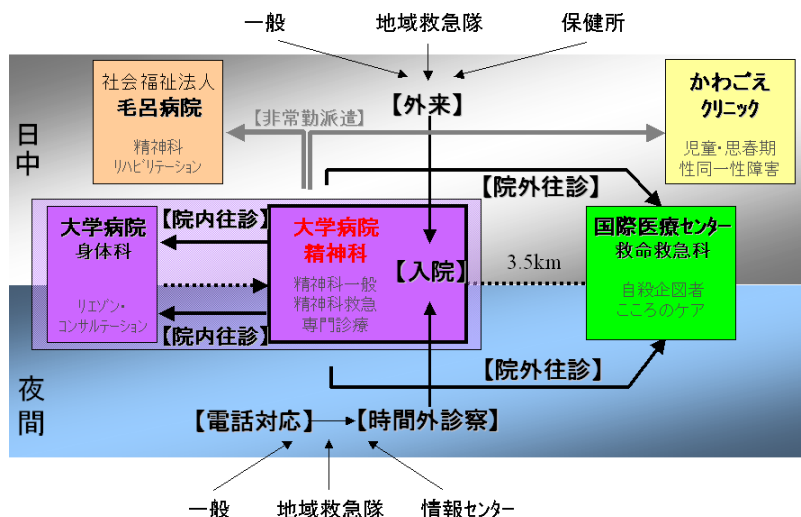
- 1) 精神科＜スーパー救急＞ ★精神科救急入院料（いわゆる＜スーパー救急＞）の施設基準を満たす数少ない大学病院精神科です。他病院では手に負えない、自傷・他害の恐れのある患者さんも受入れている＜精神科最前線＞の診療科です。
- 2) 自殺企図後のこころのケア 救命救急科と連携しつつ自殺企図事例に対応。救命救急科が 3.5km 離れた別病院（埼玉医科大学国際医療センター）にあることから、全国でも珍しい＜院外往診型連携＞を 24 時間展開しています。
- 3) 身体合併症 身体各科との相互往診により身体合併症例に対応。精神科医が出向く＜リエゾン・コンサルテーション＞にも力をいれています。埼玉県での＜身体合併症、最後の砦＞として機能しています。
- 4) 特殊・専門領域
 - ① 児童・思春期診療 他施設では対応し難い＜児童・思春期診療＞についても、積極的に診療を展開。広汎性発達障害や注意欠陥・多動性障害等の特殊領域についても専門的な診療を行っています。
 - ② 修正型電気通電療法(mECT) 難治性のうつ病や統合失調症等に対し、麻酔科と連携しながら、mECT を定例施行しています。他施設では手に負えない重症例に対し良好な治療成績を収めています。

★役割専念シフト制を採用

各自の役割と指導医を時間帯ごとに明確化。先生方のストレス軽減を図っています。

<http://www.e-rapport.jp/report/action/saita>





【当科の診療活動】24 時間体制で広域に渡り多彩な領域で診療活動を展開しています。

(精神科救急、リエゾン・コンサルテーション、専門領域等)

3、研修スケジュール (例) ★印は当番制、*印は診療科行事

	月	火	水	木	金	土
午前	* 病棟研修 * 病棟回診 * 診療ミーティング	★救急研修 (新入院対応)	外来研修	★リエゾン研修 (往診対応)	★修正型 電気通電療法 病棟研修	外来研修
午後	* Dr・Ns ミーティング * 診療科連絡会 * 新入院カンファレンス * クリニカルカンファレンス	病棟研修 外来研修	専門外来見学 (児童・思春期) 病棟研修	病棟研修 外来研修	※外部施設研修(かわごえクリニック等) 病棟研修	病棟研修
夕	* 研究ミーティング	ミーティング	クルスス	ミーティング	クルスス	
夜	～当直研修 (副直) 月に 4 回程度～					

※選択コース：かわごえクリニック体験コース：①こどものころクリニック（児童・思春期）や②ジェンダークリニック（性同一性障害）での診療やカンファレンスを見学するコースも選択可能です。

4、当科の一押し

全国でも数少ない★＜精神科スーパー救急＞対応の大学精神科です。

活気ある雰囲気の中、若手医師のストレス軽減にも配慮。

多彩で高度な臨床現場を体験して頂けます。医局員の出身大学も様々です。是非、お気軽にご相談下さい。

5a、研修中に経験できる手技

- ① 精神科診断・治療の基礎と実際
- ② 精神療法面接の基礎と実際
- ③ 精神科救急（精神科救急、自殺企図後のケア）
- ④ 児童・思春期診療の基礎と実際
- ⑤ 修正型電気痙攣療法(mECT)

5b、研修で取得できる資格（後期）

- ① 精神保健指定医
- ② 日本精神神経学会専門医

6、応募問い合わせ先

埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科

医局長 松岡 孝裕

TEL：049-276-1214 FAX：049-276-1622

E-mail：sms_psy@saitama-med.ac.jp



太田敏男 診療科長/教授

11. 日本大学医学部 精神医学系精神医学分野

Department of Psychiatry, Nihon University School of Medicine

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1

TEL: 03-3972-8111 (内線 2431) FAX: 03-3974-2920

教室ホームページ: <http://www.med.nihon-u.ac.jp/~psycho/index.html>

卒後研修担当: 久保 英之 (医局長) E-mail: kubo.hideyuki@nihon-u.ac.jp

1. 教室の特徴

当教室は、昭和 26 年に創設され、優れた精神科臨床医を育てるという伝統のもと精神科の各領域で多くの専門的人材を輩出してきました。研究面では幅広い分野の臨床的研究に教室が一体となって取り組み、多くの成果を国内外に発表してきました。



2. 教育スタッフ

主任教授	内山 真 (板橋病院部長)
教授 (研究所)	渡辺 登 (駿河台病院部長)
准教授	高橋 栄 (板橋病院科長)
診療准教授	大久保 起延 (板橋病院教育医長)、大久保 博美 (駿河台病院外来医長)
専任講師	坂井 禎一郎 (駿河台病院科長)
講師	大賀 健太郎、金野 倫子 (板橋病院外来医長)
助教	穂山 真由美 (板橋病院救急担当医長)、鈴木 正泰 (板橋病院病棟医長)
助手	久保 英之 (医局長)、降旗 隆二、大寄 公一

3、研修プログラムの概要

A) 専修医コース

精神科医として必要な知識・技術を習得し、キャリアアップをはかるベースを作ります。精神保健指定医、精神科専門医を最短で取得することが可能です。

1年目：板橋病院で病棟・外来の研修を行います。入局から2ヶ月間は、精神科医療における基本事項や実地臨床で役立つ事柄についての集中講義も行われます。上級医とともに精神保健指定医や精神科専門医の取得に必要な症例の診断・治療に当たります。

2-3年目：外来診療を開始します。この期間中に措置入院症例を経験するためOBが在籍する近隣の指定病院で半年間研修を行います。

4年目：精神保健指定医、精神科専門医を取得します。レポート作成及び筆記試験対策については、上級医よりきめ細かな指導を受けることができます。

5-6年目：希望に応じて国内外の施設に研修・留学します。

7-8年目：板橋病院に戻り病棟のグループリーダーとなります。指導者としての力をつけるとともに、サブスペシャリティについての経験・知識を深めます。希望に応じて関連学会の専門医を取得します。

B) 大学院コース

4年間で研究を行う能力を磨き博士号を取得するとともに、精神保健指定医と精神科専門医の資格をとることも可能です。研究テーマについては、これまで教室で取り組んでいたもののほか、新しいものに取り組むことも可能です。大学院教員の指導のもと作成した論文は、国際誌に投稿されます。



4、研修プログラムの特徴

研修の中心となる板橋病院は総合病院であることに加えて、閉鎖病棟を有しているため、一ヶ所で統合失調症や気分障害だけでなく、思春期や症状・器質性精神障害などの医療保護入院相当の症例を経験することが出来ます。またリエゾン・コンサルテーションについても積極的に取り組んでいるため、精神医学的問題をもつ様々な身体科症例を経験することが出来ます。研修をサポートするシステムとして、入局直後から行われる集中講義のほか、精神科臨床において重要な古典の読書会、最新論文の抄読会、教授回診および病棟カンファレンス、外来ケースカンファレンスなどが準備されています。当教室では、伝統的な精神医学の考え方を熟知しつつ、最新の知見についてもアップデートし、これらを統合した最良の医療が施せる姿勢・知識・技術をもった精神科医を育成しています。

5、応募問い合わせ先

卒後研修担当：久保 英之（医局長） E-mail：kubo.hideyuki@nihon-u.ac.jp

施設見学をおこなっていますので、随時お問い合わせ下さい。

12. 帝京大学医学部 精神神経科学講座

Department of Psychiatry, Teikyo University School of Medicine

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

TEL: 03-3964-1211 FAX: 03-3961-8187

psychiat@med.teikyo-u.ac.jp

1、教室の特徴

豊かな臨床経験と実践的な指導をもとに、優れた精神科医を養成することが第一目標です。薬物療法と心理社会的治療の統合を目指しており、精神療法や、心理教育・認知行動療法を始めエビデンスのあるプログラムのトレーニングを受けることができますし、リエゾンやデイケアをはじめとする多職種チーム医療を経験できます。その中での研究活動、特に臨床研究にも力を入れています。



2、スタッフ

教授	池淵恵美（科長） 林 直樹
准教授	栃木 衛
講師	赤羽晃寿（医局長）
助教・助手	金井理恵、渡邊由香子、松村謙一、初瀬 記史
臨床助手	蓮村ひろみ
大学院	押久保 岳、汐月治美、矢倉美緒
後期研修医	森山由佳理

* 常勤のコメディカルスタッフが7名いることが特徴となっています

（作業療法士 4名、臨床心理士 1名、精神保健福祉士 1名、デイケア看護師 1名）

3、研修プログラムの概要

研修コース

- 1) 精神科総合臨床コース
精神保健指定医・精神科専門医の取得を目指します。週 4.5 日勤務の後期臨床研修医（シニアレジデント）です。
- 2) 大学院精神医学専攻コース
学位取得と共に精神保健指定医・精神科専門医の取得を目指します。大学院生であると共に 4.5 日勤務の常勤医師です。
- 3) その他の研修コース
修練医（精神科医局の所属）として研修することも可能です。
また、年度毎に後期臨床研修医や大学院生への進路変更も可能です。

研修内容

到達目標

初期研修を踏まえて、後期専門研修前半では、主要な精神障害について、入院病棟の中で指導医の下に適切な診断を行い、広く薬物療法、精神療法、心理社会的治療を行うことが出来る技量の基礎を習得することを目標にしています。そして後期専門研修後半では、上級医との連携の下で、自立して入院治療を行うこと、外来治療の基礎を習得すること、デイケアをはじめとする精神障害リハビリテーションの体験実習を行うことを目標としています。

4、研修プログラムの特徴

指導体制

専属の指導医を配置してマンツーマンでの指導にあたります。また、多職種による全体カンファレンスを行い、各専門領域・各職種からの指導もあります。

資格取得：

研修期間中に、日本精神神経学会専門医・精神保健指定医・学位などの資格取得が可能です。症例の取得・レポート作成・論文発表などの手厚い指導を行っており、これまでの実績は、専門医・精神保健指定医・学位取得率すべて 100%です。

教育関連病院

大学近辺の 23 区内を中心に、東京都下、埼玉県、千葉県、神奈川県など首都圏を中心として、豊富な症例を経験する事ができます。

女性医師就労支援

当科では女性医師の就労を支援します。女性医師が育児と仕事を両立できる働きやすい職場環境の整備を目指しています。

QOL

有給休暇の取得を奨励していますので、健康を守り、個人生活を大切にしながら、同時に研修を行うことができます。また経済的側面について、各人の生活状況に合わせて、医局として相談に乗ります。

5、応募問い合わせ先

赤羽晃寿（医局長）03-3964-1211（内）7092

Email ; akahane@med.teikyo-u.ac.jp

13.日本医科大学大学院 精神医学教室（精神・行動医学分野）

Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School

〒154-0011 東京都文京区千駄木 1-1-5

TEL:03-3822-2131 FAX:03-5814-6280

卒後研修係 成重竜一郎 付属病院医局長 E-Mail: psychiatry@nms.ac.jp

1、教室の特徴

当教室は昭和 22 年の講座開設以来 60 余年の歴史を持ちます。教室開設時には当時飯田橋の付属第一病院に診療・教育・研究の中心を置いていましたが、昭和 42 年に千駄木に診療・教育・研究の中心を置き現在に至ります。平成 6 年には千葉北総病院で、平成 20 年からは武蔵小杉病院、平成 26 年から多摩永山病院において診療を開始し、現在は四拠点病院で診療・教育・研究を行っています。なお大学では、千駄木地区再開発計画「アクションプラン 21」が進行中で、平成 26 年 8 月には前期工事が完了し、新棟での外来、病棟診療を開始する予定です。



千駄木地区再開発計画・付属病院前期完成予想図（平成 26 年 8 月予定）

当教室では伝統的にコンサルテーション・リエゾン精神医学に熱心に取り組んでおり、三病院において救命救急センターをはじめ院内各科と協力してコンサルテーション・リエゾンサービスを積極的に展開しています。その他の特徴として、児童青年期から老年期まで幅広い領域について専門診療行っていること、パルス波治療器を用いた修正型電気けいれん療法を早くから行っていること、アミロイド、ドパミンイメージングなど最新の分子イメージング技術を利用した臨床研究を行っていることなどがあげられます。

2、スタッフ

教授	大久保善朗（付属病院）、木村真人（千葉北総病院・病院教授） 岸泰宏（武蔵小杉病院・病院教授）
准教授	舘野周（付属病院）、吉川栄省（多摩永山病院・病院准教授）
講師	下田健吾（千葉北総病院）、上田諭（付属病院）、山本正浩（付属病院・病院講師） 朝山健太郎（付属病院・病院講師）、伊藤滋朗（武蔵小杉病院・病院講師）
助教	池森紀夫、成重竜一郎、大森中、肥田道彦、澤谷篤、新貝慈利、金禹瓚、滝沢勇一、石坂公介
専修医	石田留生、松本早栄子、山本憲、増岡孝浩、鈴木清人、安田毅、山崎悠子、内山翔太郎、石澤純平、岩本康夫、勝山彩友里、守屋洋紀
大学院生	武吉健児、坂寄健、石井辰也、河寫讓、秋山友美

3、研修プログラムの特徴と概要

1、2 年次の研修 2 年間は付属病院三病院において専修医として、精神医学の基礎的知識と応用を身に付けます。3、4 年次の研修は、関連病院において大学病院では経験しにくい地域医療としての精神科医療を経験することとともに、現在専門性の高い医師が少なく、かつ今後の精神科医療におけるニーズが高いと考えられる児童思春期精神医学、老年精神医学、精神科救急・合併症医療の 3 領域のいずれかをサブスペシャリティとして習得します。どの関連病院で研修を行うかは習得したいサブスペシャリティ領域に合わせてそれぞれの専門性を有する病院を各自に選択してもらうことになります。5 年次の研修は再び付属三病院に戻り、専修医、研修医、学生の指導や学会発表等を通じて、これまでの研修で習得した知識・技能を整理・確認します。

臨床研修を通じて、精神保健指定医および日本精神神経学会専門医の資格を取得できるように指導します。各自の希望に応じて、総合病院精神医学、老年精神医学、児童思春期精神医学、産業精神医学などの専門分野での専門医または認定医の資格を取得出来るように配慮しています。

大学院に進学して精神保健指定医、学会専門医とともに学位を目指すことも可能です。当教室では、実際の診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を重視しているため、大学院に進学しながら、精神保健指定医や学会専門医の取得に日必要な臨床経験を積むことが可能です。なお、大学院生に関しては、リサーチアシスタントやティーチングアシスタント制度など支援制度を利用することができます。

	児童思春期 精神医学コース	老年精神医学 コース	精神科救急 合併症医療コース	大学院コース
1 年次	付属三病院における臨床研修			
2 年次				
3 年次	児童思春期精神科専	老年精神科専門	精神科救急専門病	研究
4 年次	門病院での研修	病院での研修	院での研修	
5 年次	付属三病院における臨床研修			

4、本施設における研修の特徴

総合病院精神医学、老年精神医学、児童青年精神医学、睡眠学、てんかん、産業精神医学等、さまざまな専門分野の指導医によるきめ細かな臨床指導により、幅広い精神医学の知識の習得と専門性の追求を目指すように指導しています。また、質の高い研修を可能にするために、勉強会、研修会を定期的に行うとともに、個々の希望に沿った自由度の高い研修環境を提供し支援します。

本学健診医療センターにて、ポジトロン CT を用いてドパミン受容体、ドパミンおよびセロトニントランスポーター、アミロイド、タウ蛋白などの分子イメージングが利用可能になり、精神疾患を対象としたさまざまな臨床研究が進行しつつあります。研修の段階でこのような最新の臨床研究は参加することが可能で、そうした経験を通じて、精神科医にとって必要なリサーチマインドを育むことができます。

4、応募問い合わせ先

卒後研修係 成重竜一郎 付属病院医局長 E-Mail: psychiatry@nms.ac.jp

応募期間 平成 26 年 7 月 1 日（月）から

選考日時 第 1 回：平成 26 年 10 月、第 2 回：平成 26 年 11 月に予定。

以後も随時にお問い合わせ下さい。

14. 東京大学大学院医学系研究科 精神医学分野・こころの発達医学分野

東京大学医学部附属病院 精神神経科・こころの発達診療部

Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL : 03-3815-5411(病院代表)

連絡先 : 研修担当 熊倉陽介(助教) Email : KUMAKURAY-PSY@h.u-tokyo.ac.jp

ホームページ : <http://npsy.umin.jp/>

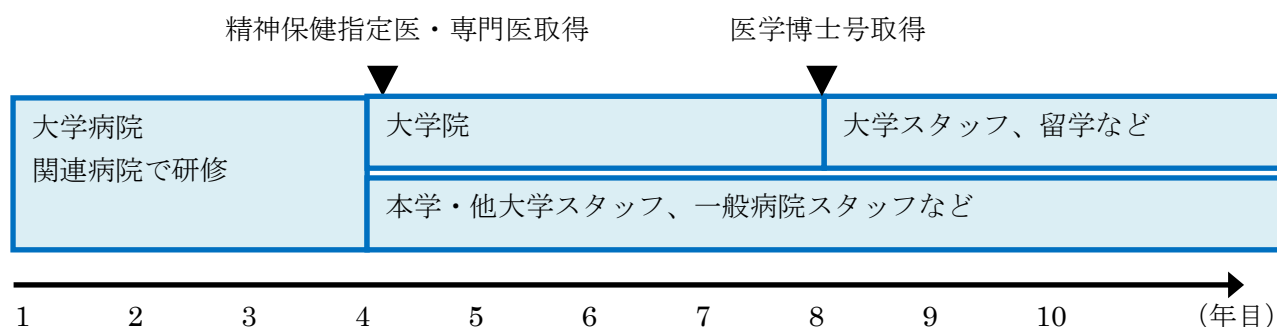
1、教室の特徴

東大病院精神神経科は、日本で最も歴史ある精神科教室として、日本の精神医学・医療のリーダーとなる人材を育成することをミッションとした、高い公共性を持つ精神医学教室です。精神医学を、脳と生活と人生の統合的理解に基づくリカバリー支援学であると位置づけ、当事者中心の精神科医療の提供を目指しております。



2、研修プログラムの概要と特徴

幅広い症例を経験し、入局後4年目までに精神保健指定医、精神科専門医の資格取得を目指します。原則後期研修の期間中のいずれかで東大病院勤務を経験し、他の年度は研修協力病院にて研修を行います（研修協力病院：国立精神・神経医療研究センター、東京都立松沢病院、豊島病院、荏原病院、多摩総合医療センター、東京都立小児総合医療センター、都内総合病院（NTT 関東病院、虎ノ門病院、JR 東京総合病院等）等）。児童思春期精神医学の希望者は、当院こころの発達診療部と相談の上、専門研修の3年間で一般精神科臨床研修を行い、研修修了以降に児童・思春期についてさらに専門的な臨床に進んでいただきます。希望者は後期研修開始後4年目以降に大学院に入学し、医学博士を目指します。



3、東大病院における後期研修の特徴

- ・他大出身者が入局者の2/3以上を占める開放的な医局
- ・指導医、副指導医と共にチーム医療の一員となり、閉鎖病棟・開放病棟で多様な疾患の診療を経験
- ・医師、看護師、心理士、精神保健福祉士、作業療法士を含む多職種での病棟カンファレンス
- ・てんかん専門医によるてんかん学と脳波学のintensiveな指導
- ・神経内科と共に認知症症例の定期的カンファレンスを行い最新の認知症診療のup to date
- ・精神科リエゾンチームで学ぶ総合病院精神医学（救命救急センター、緩和ケアチームとの連携）
- ・精神科に加え、脳外科、神経内科、心療内科、放射線科の講師を招き、週1回の充実したクルーズ
- ・藤山直樹先生による精神療法スーパーヴィジョン、内海健先生による精神症候学の連続講義
- ・東大病院救急部、デイケア、こころの発達診療部（児童精神）を短期ローテート（希望者）
- ・東京都健康長寿医療センター（認知症）、国立精神・神経医療研究センター、東京都立松沢病院などの関連病院への院外研修（先方と事前に相談の上）
- ・光トポグラフィーを用いた検査入院プログラムで学ぶ、精神疾患の客観的な検査手法の実際
- ・発達障害検査入院プログラムで学ぶ、世界標準の発達障害のアセスメントと心理教育

4、応募問い合わせ先

下記日程にて説明会・見学会を設定しております。

◆2014年7月19日(土)10:00～14:00 東京大学まるごと探訪 Festival 2014（事前連絡不要）

<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/soken/shoki-program/event.html>

◆2014年8月29日・30日 東大精神科サマーセミナー（要事前連絡）

<http://npsy.umin.jp/recruitment.html>

上記に加え、随時病棟見学のご相談に応じております。興味のある方は熊倉までお問い合わせください。

入局試験は2014年9月20日、応募締切は9月12日です。

15.順天堂大学大学院医学研究科 精神行動科学講座

Department of Psychiatry & Behavioral Science, Juntendo University Graduate School of Medicine

〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1

TEL/FAX : 03-5802-1071

連絡先: 医局長) 柴田展人 准教授 E-mail: nshibata@juntendo.ac.jp

1、教室の特徴

1950 年に医学部精神医学講座として開講、現在は大学院講座と共に精神医学教室を構成する。1999 年に大学附属病院として初めて「メンタルクリニック」という診療科名を導入した。順天堂医院を始めとする 6 附属病院（本院、越谷、浦安、練馬、静岡、東京江東高齢者医療センター）の各メンタルクリニック間では密な連携による医療システムを確立しており、これらの運営は診療から研究に至るまですべてが共通の方針のもと当精神医学教室により運営されている。

全体として、一日の外来者数約 900 人、入院患者数約 360 人、併診入院患者数約 100 人に上り、わが国の大学附属病院精神科として最大の臨床実績を誇る。

2、スタッフ

教授 新井平伊、一宮洋介、鈴木利人、井関栄三

先任准教授 八田耕太郎、桐野衛二、大沼 徹

准教授 柴田展人、黄田常嘉、伊藤賢伸、榛沢 亮、里村恵美、馬場元、稲見理絵、松原洋一郎
熊谷 亮、野澤宗央、笠貫浩史、宮川晃一、臼井千恵

（准教授以上を記載した。他に、助教、助手、専攻生、大学院生、臨床心理士など多数在籍している）



3、研修プログラムの概要

後期研修 3 年間は原則として順天堂医院、順天堂越谷病院、順天堂東京江東高齢者医療センターに勤務し、精神保健指定医、精神科専門医を取得する研修プログラムである。

本プログラムでは、他学のように関連病院に出向することなく、本学附属病院群における研修のみで精神保健指定医取得に必要なすべての症例を経験できる。

また、同時に大学院入学も可能で、臨床研究を行うことにより学位（博士号）の取得も可能である。

4、研修プログラムの特徴

6 附属病院の教育スタッフ（指導医、専門医）は当教室の一貫した方針のもとに臨床、教育、研究を行っており、臨床研修も密な連携のもとで共通の教育方針とプログラムにより構成されている。

入院病床としては、順天堂医院・メンタルクリニック(15 床)、順天堂越谷病院・メンタルクリニック(226 床)、順天堂東京江東高齢者医療センター・メンタルクリニック(120 床)を有し、外来と共に豊富な臨床の経験を積むことが可能である。

1) 順天堂医院・メンタルクリニック

Medical Psychiatry & Consultation Liaison Psychiatry の研修が主体。つまり、身体合併症を有する精神科症例、リエゾン精神医学、認知症を中心とする器質性精神疾患、小児症例を中心に症例を経験し、心理学的検査、画像診断なども研修する。

2) 順天堂越谷病院・メンタルクリニック

General Psychiatry & Community Psychiatry の研修が主体。つまり、統合失調症や気分障害を中心として、内因性精神病を中心に症例を担当し、さらに大学附属病院でありながら措置入院症例も経験できる。また、基幹精神科病院として、行政などとも密に連携して地域精神医療も実践できる。

3) 順天堂東京江東高齢者医療センター・メンタルクリニック

Geriatric Psychiatry の研修が主体。つまり、認知症症例を担当し、その鑑別診断や BPSD の治療、包括的な高齢者支援などを研修し、さらに高齢者の身体合併症などに対して一般診療科とともに対応しながらその実践を研修できる。

4) 他の 3 附属病院での研修も可能であり、希望に応じて研修プログラムは改編できる。

5、応募問い合わせ先

入局説明会、順天堂医院、順天堂越谷病院等での見学など随時お問い合わせください。

連絡先：医局長：柴田展人 准教授 [E-mail: nshibata@juntendo.ac.jp](mailto:nshibata@juntendo.ac.jp)

第一回入局説明会 平成 26 年 7 月 10 日 木曜日 順天堂医院 精神医学教室 医局

第二回入局説明会 平成 26 年 9-10 月に予定

第三回入局説明会 平成 26 年 12 月に予定

16.東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野

Section of Psychiatry and Behavioral sciences, Tokyo Medical and Dental University Graduate school

〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

TEL: 03-3813-6111 FAX: 03-5803-0135

卒後研修係：車地暁生准教授 E-Mail : 0724.psyc@tmd.ac.jp

1、教室の特徴

当教室は、昭和 19 年 5 月に初代教授島崎敏樹先生が東京医学歯学専門学校時代の本学に精神病学教室を開設した時に始まります。現在の西川教授の体制では、統合失調症の分子科学的な研究が盛んであり、最先端の脳科学研究から、地に足をつけたリハビリテーションまで、患者の利益を追求したさまざまな活動を行っています。また 400 人を越える同窓は、主に首都圏の総合病院、精神科病院、診療所、研究機関において、臨床、研究、教育の分野で多くの実績を残しています。



2、スタッフ

教授	西川徹
准教授	車地暁生（臨床研修実務者）、平井伸英（保健管理センター）
講師	山本直樹、竹内崇（病院掛主任者）
助教	阿部又一郎（外来医長）、光定博生（病棟医長）、治徳大介、上里彰仁、甫母瑞枝、日野恒平
医員	3 名
レジデント	1 名
研究員	研究支援者 4 名、研究補助員 3 名
大学院生	10 名

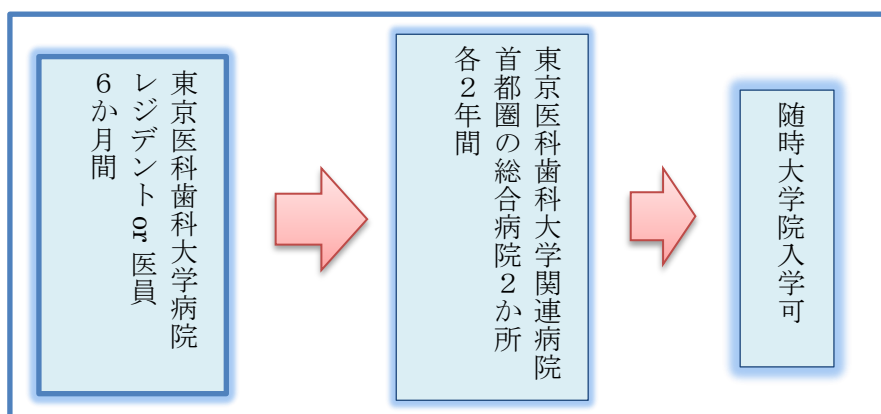
3、研修プログラムの概要

A. 精神科専門医コース

大学病院での6か月間の研修を経て、首都圏の総合病院精神科を中心とする研修施設において、身体合併症、救急医療、精神科救急など幅広い研修を行い、精神保健指定医・精神科専門医の取得を目指します。各施設での研修期間は約2年間となっており、3～4年でプログラム全体を修了するシステムとなっています。なお、小児精神医学、老年精神医学、司法精神医学等の領域で活動したい人たちのために、同窓のネットワークを活用したオーダーメイドのコースの相談にも適宜応じています。

B. 精神科専門医・大学院コース

上記コースに加えて、大学院に進学し学位取得を目指します。大学院の進学の様子はいつでも選択可能です。



4、東京医科歯科大学病院における研修の特徴

通常指導医と研修医がペアとなって患者の診療を行います。病棟ではスタッフが3チームに分かれ、研修医はそのチームの1つに所属し、チームごとの定期的なカンファランスなどを通じて、広い視野から丁寧な指導を受けることができます。また、全体のカンファランスでは、診断・治療に関する詳細な検討を行うことができます。さらに、外来診療における予診、リエゾン診療、デイケア活動や小集団精神療法への参加、電気けいれん療法など幅広い研修が受けられます。

5、研修説明会、病棟見学について

毎週木曜日に全体カンファランス、教授回診を行っておりますので、病棟見学は木曜日に随時受けております。研修説明会は以下の日程で開催予定です。

平成26年8月9日（土）11時～

平成26年9月6日（土）18時～（大学全体の説明会の後）

卒後研修係：車地曉生准教授 E-Mail : 0724.psync@tmd.ac.jp

17.慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

Department of Neuropsychiatry, Keio University School of Medicine

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

TEL: 03-5363-3829 (医局直通) FAX: 03-5379-0187

1、教室の特徴

当科はおそらくわが国で最も幅広い専門領域の医師がおり、熱心に臨床・教育・研究活動を行っております。下記のようにまず2年間大学に籍を置き、その間に様々な研修ができます。



2、スタッフ

主任教授	三村将
准教授	村松太郎
専任講師	白波瀬丈一郎、古茶大樹、田渕肇、前田貴記、内田裕之、岸本泰士郎
助教	富田真幸、嶋田博之、佐渡充洋、山縣文、新村秀人、林公輔、平野仁一
特任助教	小西海香
専修医	1年次 15名、2年次 12名、大学院（博士・修士）19名 言語聴覚士 2名、臨床心理士 7名

他にも当科が関連・連携している部門

【ストレス研究センター】	センター長・教授 加藤元一郎	特任助教 二宮朗、斎藤文恵
【加齢と行動認知寄附講座】	特任准教授 仲秋秀太郎	
【情動の制御と治療学寄附講座】	特任准教授 田中謙二	特任講師 高田則雄
【クリニカルリサーチセンター】	特任講師 中川敦夫	
【腫瘍センター】	特任助教 竹内麻理	

3、研修プログラムの概要と特徴

下記が研修の3本柱です。

①基本的に全員慶應義塾大学病院での初期訓練を行う。

- ・ 主治医として患者の外来及び入院さらにリエゾン診療にあたる。
- ・ 研究グループの研究、討議に参加する。
- ・ 専門領域での研究をすすめる。

②当科関連の精神科病院と総合病院精神科などの関連施設での訓練を続け、幅広い患者層を経験できるようになる。臨床面でオールマイティーとなるよう配慮する。

③オプション研修

本人が最も興味ある臨床現場或いは研究に3ヶ月間自由に参加できる。

例えば、留学・老人保健施設・児童専門施設・薬物依存治療病棟・クリニック等での勤務・企業のメンタルヘルス・学生のメンタルヘルスなどの見学・精神鑑定の助手・あらゆる研究に従事、他

前記①、②の場合の訓練内容は下記のとおりです。

- 1) 病棟では、主治医として、急性・慢性精神障害の治療（精神科リハビリテーション、生活療法、レクリエーション療法、作業療法、病棟管理を含め）を担当する。
- 2) 外来担当医として、初診および再診患者、他科からの依頼患者、退院患者の治療を行う。
- 3) リエゾンコンサルテーションに従事し、症状精神病や緩和ケアなどについて学ぶ。
- 4) 精神鑑定の鑑定助手として精神鑑定業務を習得する（司法精神医学）。
- 5) 脳波の判読および脳画像診断技術を研修する。
- 6) 抄読会、症例検討会、研究会に参加する。
- 7) 臨床に関する研究を行い、成果を学会等で発表する。
- 8) 精神保健福祉法による精神保健指定医の指定申請に必要な事例を経験する。精神神経学会専門医も同時に取得可能となるようにする。

また、以下の研究班に所属し、精神医学に関する臨床ならびに基礎研究に自由に参加できます。

- 1) 精神病理研究班
- 2) 精神生理研究班
- 3) 心理・精神療法研究班
- 4) 精神薬理研究班
- 5) 神経心理（高次脳機能）研究班（認知症含む）
- 6) 司法精神医学研究班
- 7) 社会精神医学研究班
- 8) 生物学的精神医学研究班（画像研究含む）
- 9) 産業精神医学研究班
- 10) 児童・思春期精神医学研究班（発達障害含む）



4、応募問い合わせ先

keio-psychiatry@hotmail.co.jp までお気軽にお問い合わせください。

また、当科ホームページにおいて、募集要項や活動予定を随時更新しています！

<http://psy.keiomed.jp/>

18.東京女子医科大学 神経精神科教室

Department of Psychiatry, Tokyo Women's Medical University

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

Tel : 03 - 3353 - 8111(代表) 内線 33205 FAX : 03 - 3353 - 8979

E-mail : ikyoku@psy.twmu.ac.jp

1、教室の特徴

当教室は都内大学病院の精神科として有数の病床数と充実した恵まれた症例数（年間初診患者 2000 症例以上、入院患者 400 症例以上、コンサルテーション・リエゾン診療年間 1500 件以上）を誇ります。東京都心という地の利から症例毎の社会的背景も多彩で、偏りなく幅広い臨床を経験することが可能です。また、所属するスタッフの専門分野も多方面に及んでおり、薬物療法、精神病理、認知行動療法など多面的に精神医学を学ぶことができます。



医局員には QOL（生活の質）にまで配慮した治療学を身につけてもらうようにしています。そのためには、科学的な研究成果の意義を吟味し取り入れながら、健全なバランス感覚で医療を展開する必要があり、日々精進することを心がけています。また、当科ではすべての職種が真の意味で医療に参加することを求めており、全職種が協同して行う女子医大版心理教育の実践という形でそれを結実させています。

2、スタッフ

主任教授 石郷岡純

教授 坂元 薫、加茂登志子（女性生涯健康センター）、山田和男（東医療センター）

臨床准教授 西村勝治、古城慶子

講師 稲田 健、高橋一志

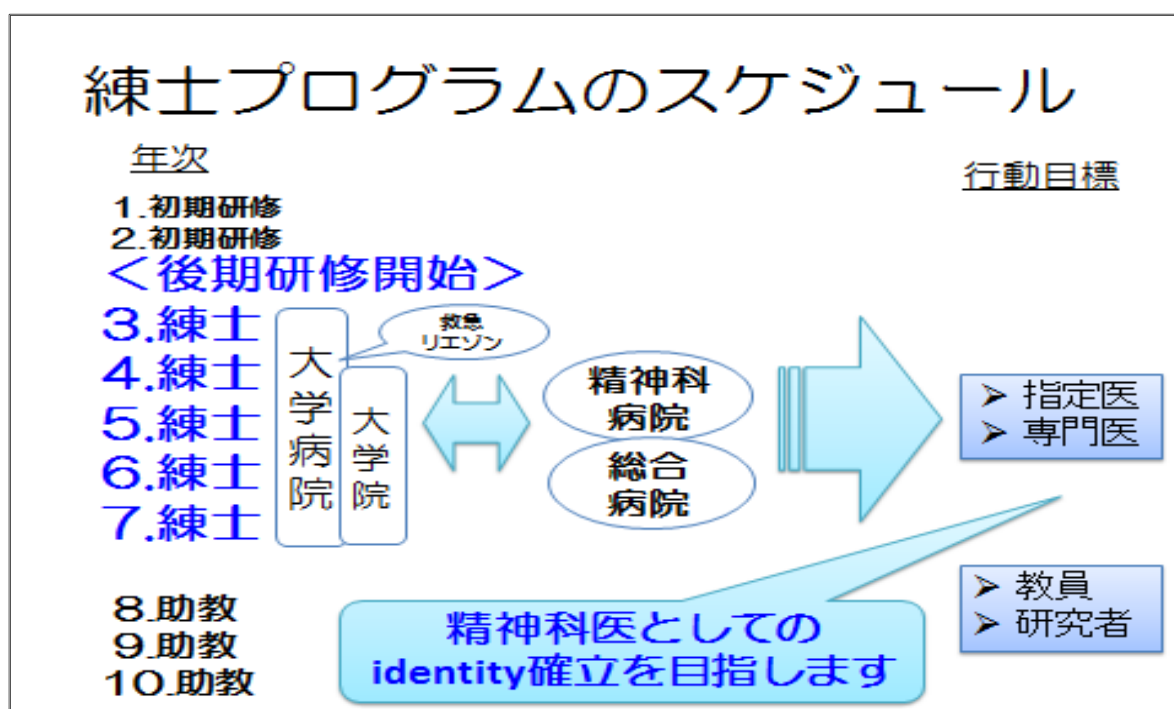
助教 川本恭子、内出容子、長谷川大輔、興津裕美、辻かをる、澤村実紀、横山香菜子、守谷俊平、大橋優子

後期研修医 長縄瑛子、本田美鳥、山角 玲、井上可奈子、水谷 薫、坪内麻衣、若狭偉育、田中 康、浅野瑞穂、手塚ひとみ、市川弓紀子、村尾朋彦、森永頼鷹、佐藤萌子、神庭瑠美子、片岡利恵、林 杏奈

社会人大学院生（後期研修医含む）

鈴木枝里子、河野仁彦、河野美帆、山本舞、河野敬明、末木亮嗣、松井健太郎、村岡寛之、湯浅好喜、伊藤遼子、堤多可弘、関口直樹

3、研修プログラムの概要



社会人大学院制度があります。

医局は半数以上が他大学出身者であり、自由な雰囲気の中で精神医学を学ぶことができるのも大きな特徴です。

研究を行おうとする者は研究主題や方法などを提示し、賛同した医局員とともに研究を進めます。チーム制はとっておりませんので、研究できる内容が偏在するということはありません。

大学全体として女性医師支援システムが充実しており、出産や育児と仕事の両立も可能です。

4、ご応募にあたって

応募期間 平成 26 年 10 月末日まで

筆記試験・面接 平成 26 年 11 月上旬

見学や説明会は随時行っておりますので、お気軽にご連絡ください。

医局長 長谷川大輔 （はせがわ だいすけ）

TEL:03-3353-8111（内線 33205）

FAX:03-3351-8979（当科専用）

E-Mail：hasegawa.daisuke@twmu.ac.jp

19.東京慈恵会医科大学 精神医学講座

Department of Psychiatry, Jikei University School of Medicine

〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8

TEL: 03-3433-1111 FAX: 03-3437-0228

卒後研修係：須江洋成 E-mail : hsue@jikei.ac.jp 真鍋貴子 E-mail : manabe@jikei.ac.jp

1、教室の特徴

当精神医学講座が開設されたのは明治 36 年(1903 年)とされています。森田正馬初代教授は独創的な神経学説を提唱し、森田療法と後年呼ばれる精神療法を完成させました。以後、現在まで森田教授の教えは 5 人の主任教授によって継承されてきました。わが教室ではこの森田療法をはじめ精神病理学・精神療法学、老年精神医学、精神生理学(睡眠学)、臨床脳波・てんかん学、薬理生化学、総合病院精神医学、児童思春期精神医学といった研究部門があり、専門的知識を習得するとともに地域のサービスに還元しています。本学の建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」を大切に、全人的な精神医療を目指しています。



2、スタッフ

慈恵医大附属病院常勤医師（平 26 年 7 月現在：本院、葛飾医療センター、第三病院、柏病院）

教授 中山和彦（主任教授）、伊藤 洋、中村 敬、宮田久嗣

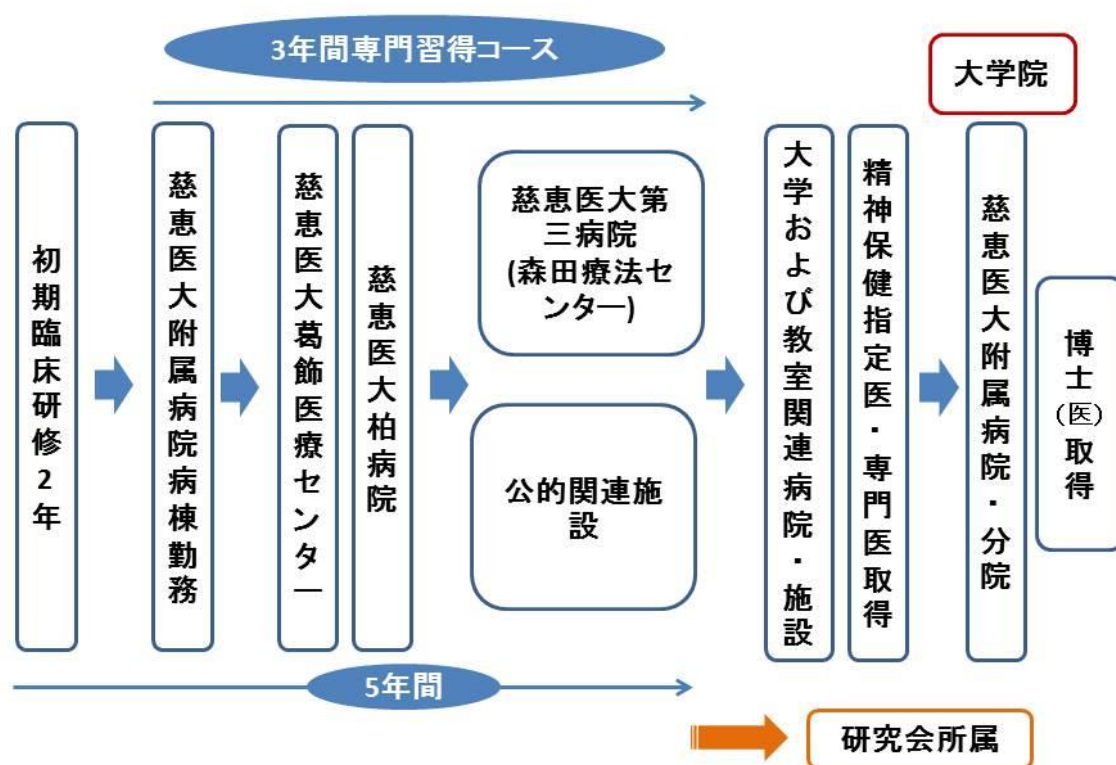
准教授 須江洋成、忽滑谷和孝、山寺 亘、小曾根基裕、小野和哉

講師 古賀聖名子、館野 歩、塩路理恵子、伊藤達彦、中村晃士、樋之口潤一郎

助教 川村 諭、真鍋貴子、矢野勝治、品川俊一郎、森田道明、黒田彩子、小高文聰、岩崎 弘、落合結介、原田大輔、青木 亮、沖野慎治、谷井一夫、永田智行、石山菜奈子、尾作恵理、小堀聡久、稲村圭亮、斉藤健一郎、杉田ゆみ子、青木啓仁、大越麻加、小豆島沙木子、林 賢一郎、森 政美、吉田理美、奥野 翔、片倉勲人、坂本 聡

3、研修プログラムの概要と特徴

2年間の初期臨床研修を終えた後の専門習得コース（レジデント）は3年間のプログラムです。1年目は本院の病棟勤務を原則としています。研修開始後まもなくクルーズを行って診療に必要な一般的基礎知識を習得するよう計画しています。レジデントは病棟では指導医とチームを組み診療にあたりますが、病棟カンファレンス、そして教授回診等によって症例検討と治療評価がその都度なされています。また、定期的に外来陪席にあたり、外来診療の実際を学ぶことになります。医局においては抄読会、症例検討を行います。興味深い症例は地方会、支部会等で発表して経験を積んでもらうことにしています。2～3年目には各分院への勤務となるのが通常です。各分院では外来精神医療を学びます。また、病棟兼科による総合病院精神医学、コンサルテーション・リエゾン精神医学を学びます。さらにこの間に慈恵医大伝統の治療技法である森田療法の理論を第三病院（森田療法センター）にて実践的に学びます。この5年間が終わりますと医局関連の教育指定病院に2年間勤務しながら精神科専門医・精神保健指定医の資格取得を目指すとともに地域精神医療を通じて、包括的精神医療を経験してもらいます。それが終了すると再び大学にもどりますが、このころには研究班へ所属し、診療そして教員としての業務とともに学位取得に向けての研究、あるいは大学院への進路選択がなされます。なお、精神神経学会のみならず各学会専門医・認定医（心身医学会、臨床精神神経薬理学会、睡眠学会、老年精神医学会、てんかん学会 等）についても当院は研修等の施設認定を得ています。



4、応募問い合わせ先

随時お問い合わせください。平 26 年度第 2 回医局説明会は 9 月 6 日（土）の予定です。精神医学講座ホームページ（<http://www.jikeips.umin.jp/>）にご案内していますので、是非ご確認ください。直接卒業研修係、須江洋成、真鍋貴子宛にメールしていただいても結構です。なお、初期臨床研修、専門習得コースの応募期間、採用試験日については慈恵医大ホームページ（www.jikei.ac.jp）をご覧ください。

20.昭和大学医学部 精神医学講座

Department of Psychiatry, School of Medicine, Showa University

〒157-8577 東京都世田谷区北烏山 6-11-11

TEL: 03-3300-5231

総合医局長:高塩理准教授 E-Mail: neuropsych@med.showa-u.ac.jp

1、教室の特徴

さまざまな臨床・教育・研究分野において第一線で活躍する精神科医を多く輩出し続けている歴史ある講座です。

2、スタッフ

教授 岩波 明、加藤 進昌

准教授 稲本 淳子、岡島 由佳、高塩 理、堀 宏治、吉益 晴夫

講師 太田 晴久、尾鷲 登志美、黒沢 顕三、真田 健史、高橋 彩子、谷 将之、山田 浩樹

助教 秋田 亮、石部 穰、笹森 大貴、田中 宏明、田村 利之、常岡俊昭、富岡 大、飛田 真砂美
古川 雄一、峯岸 玄心、横山 佐知子、吉澤 徹

3、研修プログラムの概要

昭和大学医学部精神医学講座での精神科研修の最大のメリットは、何と言っても首都圏内に 5 つの大学附属の精神科病院及び病棟があることです。措置入院や医療保護入院を受け入れ可能な病棟を持ち、国家資格である精神保健指定医の取得には、とても有利な条件を備えています。

講座のある烏山病院から研修を始め、附属横浜市北部病院、藤が丘病院、東病院、そして江東豊洲病院を研修します。また希望に応じて、単科精神病院、都内総合病院などでの研修ができるよう対応しています。そして、3 年間の研修後に精神保健指定医の取得申請をし、精神保健指定医合格待ち期間を含む 4 年間を一区切りとしています。

4、研修の特徴

現在、精神医学講座は、烏山病院を拠点としています。烏山病院は精神科の急性期医療や成人の発達障害に対する臨床、研究の拠点として成果をあげています。烏山病院は大正 15 年創立という長い歴史をもち、薬物療法にとどまらず、統合失調症の患者さんの社会復帰、うつ病患者さんの復職支援や発達障害当事者の就労支援などのリハビリテーションに力を入れてきました。さらに、烏山病院の他に、認知症疾患治療病棟と精神科病棟合わせて 100 床をもつ附属横浜市北部病院、コンサルテーション・リエゾンと外来診療を主とする藤が丘病院、東病院、江東豊洲病院があります。これら 5 病院の緊密な連携によって、卒後研修や学位・指定医や学会専門医取得を含むフルスペックの精神科臨床が大学内で可能という、本学の利点があります。

精神医学の臨床活動だけに偏ることなく、基礎研究などの分野にも精通するバランスのとれた精神科医師の育成を目指しています。特に、実践に強い精神科医師育成のために、本人の意思さえあれば、神経心理学、精神療法、臨床精神薬理学、精神生理学などのいろいろな研究会にも参加可能です。

また各大学附属病院との連携を図るため、当講座で主催する研究会を定期的に行っています。研究会のコンテンツも充実していることに加え、各大学附属病院から集まりやすい中間地域で開催しており、直接、顔を見ながら情報交換ができる貴重な機会となっています。異動しても同期やお世話になった上級医とも親交を保てますし、講師として招聘する著明な先生方や同窓の先生方との交流も図ることができます。

5、応募問い合わせ先

病院見学や研修、入局をお考えの先生は、下記アドレスまでご連絡下さい。

総合医局長:高塩理 E-Mail: neuropsych@med.showa-u.ac.jp

毎月第 2 月曜日、13 時より医局案内および病院見学を定期的に行なっています。日程の合わない場合は、随時ご相談致しております。

21.東邦大学医学部精神神経医学講座

Department of Neuropsychiatry Toho University School of Medicine

〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1

TEL: 03-3762-4151 FAX: 03-5471-5774

卒後研修係：片桐直之 E-Mail : ktgrnoyk@med.toho-u.ac.jp

1、教室の特徴

東邦大学医療センター3病院（大森、大橋、佐倉）の本院である大森病院は、大田区（人口約70万人）の地域基幹病院としての重責を担っているだけでなく、国際化した羽田空港から近く、海外との窓口として、積極的な国際交流を指向している。当院に開設されているイルボスコ (<http://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/mentalhealth/>) は、早期性精神病の治療ユニットとして思春期、青年期における精神疾患の予防、早期介入に先進的な取り組みを行っている。

平成27年春には、完成予定の新7号館に医局やイルボスコが移る予定である。



2、スタッフ

教授 水野雅文

准教授 根本隆洋

講師 辻野尚久

助教 蓮舎寛子、片桐直之、山口大樹、武士清昭、舩渡川智之、相川さやか、池田 竜、加藤祐樹

シニアレジデント、レジデント、大学院生：多数。出身大学は、全国多岐にわたる

3、研修プログラムの概要と特徴

A: 精神科基本コース

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
基本コース 1	大森病院 レジデント	大学院	大学院	大学院	大学院	留学
基本コース 2	大森病院 レジデント	専門研修 協力病院	大学院	大学院	大学院	大学院

研修施設の順序は相談に応じるが、基本的には1年目は大森病院精神神経科で研修を行う。臨床研究が中心であり、最初の3年間で、全員が日本精神神経学会認定専門医、精神保健指定医を取得している。

B: 一般臨床専門コース

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
一般臨床専門コース	大森病院 レジデント	専門研修 協力病院	大森病院 レジデント または 関連病院	大森病院 レジデント または 関連病院	大森病院 レジデント または 関連病院、留学

最初の3年間で日本精神神経学会認定専門医、精神保健指定医を取得する。さらに、研修期間中にリエゾン研修、アルコール専門研修を行う。

C: 児童精神科特別コース

大森病院レジデント（1年）→児童に関する研修（大森病院また関連病院）→大学院
もしくは大森病院、関連病院

研修期間中に日本精神神経学会認定専門医、精神保健指定医、児童青年期精神医学会認定医のいずれも取得する。大森病院には児童精神科専門外来があり、城南地区における児童精神医学の中心的役割を果たしている。

4. 研修プログラムの特徴

指導医からの直接指導はもちろんのこと、毎週カンファレンスや研究会などを行い、教授、准教授、各分野のスペシャリストによる基礎からより専門的なレベルまでの総合的な指導を受けることができる。大森病院には閉鎖病棟（保護室あり）、開放病棟のいずれもあり、また三次救急もおこなっている特定機能病院であり、急性期精神疾患や身体合併症、緩和ケア、児童から老年期までの幅広い症例を経験することができる。教育関連病院はいずれも大森病院から通勤圏内にあり密接な連携を維持している。

5、応募問い合わせ先

卒後研修係：片桐直之 E-Mail：ktgrnoyk@med.toho-u.ac.jp まで随時お問い合わせください。
施設見学も随時お問い合わせください。

22.杏林大学医学部 精神神経科学教室

Department of Neuropsychiatry, Kyorin University School of Medicine

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL: 0422-47-5511 ex 2885 FAX: 0422-45-4697

E-mail: psychiat@ks.kyorin-u.ac.jp

1、教室の特徴

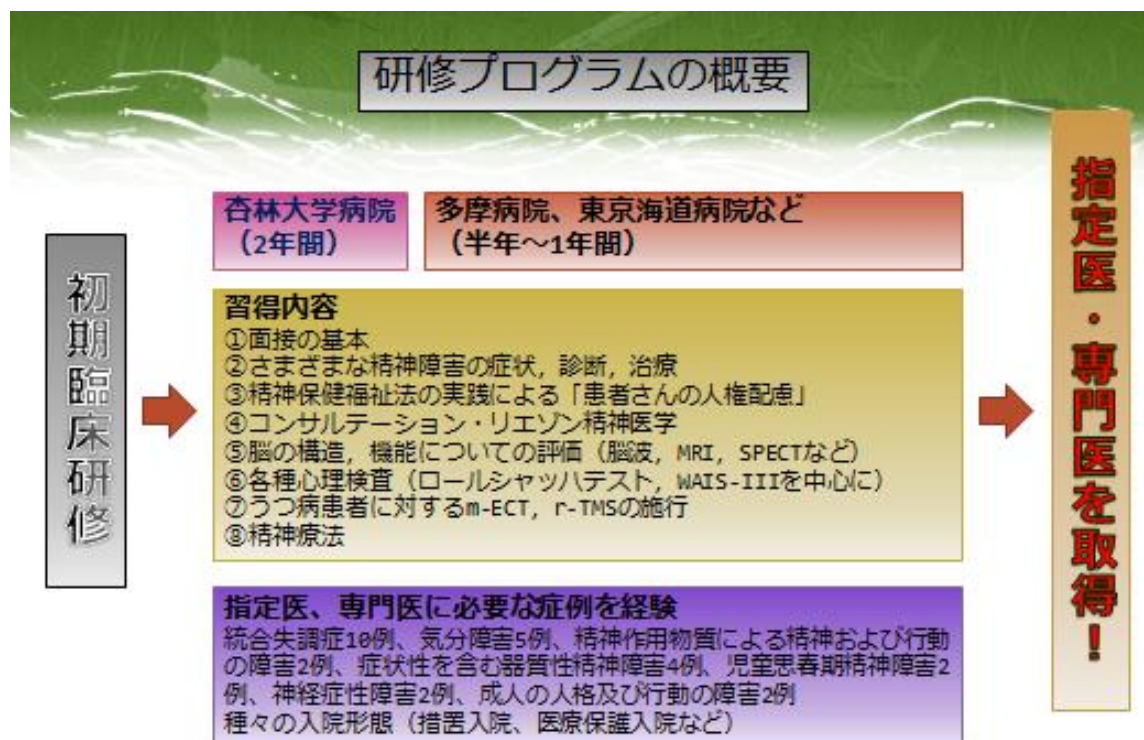
杏林大学医学部付属病院は、緑豊かな武蔵野の名残を残す多摩地区の静かな住宅地に位置する大学病院です。スタッフの専門は、臨床精神薬理学、認知行動療法、睡眠医学、神経生理学、神経画像学、精神病理学と多岐に渡っています。平成26年4月から、渡邊衡一郎教授のもと、日夜、診療、教育、研究に励んでおります。また、医局は、女性のスタッフも多く、とてもアットホームな雰囲気です。病棟、医局も新しくなったばかりで、男女別の共同シャワー室もあり、アメニティは良好です。



2、スタッフ

教授	渡邊衡一郎（教室主任、診療科長）、古賀良彦
准教授	中島亨（睡眠障害治療センター長）
講師	鬼頭伸輔（医局長）
学内講師	菊地俊暁、田中伸一郎（病棟医長）
助教	長谷川崇（外来医長）
任期助教	森千夏、戸部有希子、野崎和博
医員	蜂須浩嗣、平野祥子
レジデント	圓山恭子、上里ちひろ、神田優太、澤田久美子
大学院生	田巻龍生

3、研修プログラムの概要と特徴



- ✓ 病棟では、3チームに分かれ、1チームあたり、約10名の患者さんを担当します。
- ✓ 32床の開放病棟では、うつ病を中心とした気分障害、不安障害、認知症、統合失調症、摂食障害、睡眠障害、てんかん、児童思春期疾患など幅広く経験することが可能です。
- ✓ 精神保健指定医や精神科専門医などの資格を取得する十分な体制が取られています。
- ✓ 外来では、新患の陪席、リエゾンへの関わりなどを適宜行っております。リエゾンについては、大学病院であることから、非常に多彩な経験を積むことができます。
- ✓ 教室の行事は、教授回診、病棟医長回診、ケースカンファランス、抄読会、公開セミナー、臨床研究報告会などがあり、精神科医としての知識を習得し、スキルを身につけることができます。
- ✓ 段階的な指導により、国内外の学会発表などが行えるようサポートしています。
- ✓ 大学院（社会人大学院を含む）への入学、あるいは教室スタッフとして臨床医として、勤務しながら学位の取得も可能です。

4、研修応募の連絡先

医局説明会、精神神経科公開セミナー、精神神経科臨床研究会など、年に複数回、開催しています。また、病棟、外来、医局などの見学も、随時、行っています。お気軽にお問い合わせください。ご連絡お待ちしております。

Phone: 0422-47-5511 ex 2885

Fax: 0422-45-4697

E-mail: psychiat@ks.kyorin-u.ac.jp

23.横浜市立大学大学院医学研究科 精神医学部門

Department of Psychiatry, Yokohama City University Graduate School of Medicine

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9

TEL : 045-787-2667 FAX : 045-783-2540

医局長: 浅見 剛 E-mail : takeshiasami2@gmail.com

1、教室の特徴

横浜市立大学医学部精神医学教室は昭和 22 年に開講され、平成 26 年で 67 年目を迎えました。また、昭和 42 年から児童精神科が外来診療科として設置されています。平成 15 年に現職の平安良雄が第 6 代主任教授として就任しました。当大学には、医学部に併設された附属病院（654 床：金沢区福浦）と、附属市民総合医療センター（726 床：南区浦舟町）の 2 つの附属病院があります。2 病院では医療機能を分担し、充実したスタッフのもとで質の高い精神科医療を提供しています。

附属病院の精神科病棟は、平成 24 年に 26 床（個室 6 床、保護室 2 床）の開放病棟にリニューアルされ、身体合併症、器質性・症状性精神障害、治療抵抗性統合失調症など、より多くの病態や地域からの需要に応じた受け入れが可能となりました。平均在院日数は約 26 日です。緩和医療とリエゾンに専任医師を配置し、復職支援デイクアにも力を入れています。平成 25 年に横浜市の委託を受けた認知症疾患医療センターの設置、および、神経免疫疾患の専門外来を開始しました。

附属市民総合医療センターの精神医療センターは、平成 23 年より、病棟を全閉鎖化しました。精神科救急・合併症（スーパー救急）病棟として、措置入院を含めた救急入院対応に応需し、精神科救急基幹病院を担当しております。8 床の児童期病床を持ち、幼児から高齢者まで、幅広い精神疾患の診療に対応し精査・鑑別診断、治療を行っているほか、高度救命救急センターにも専従の精神科医を配置し、自殺企図や精神症状合併患者の診療を行っています。

本教室における教室員の人事は、「横浜市大精神科医師の会」という組織が決定し、主任教授は特別会員として相談役に徹し人事権を持ちません。教員人事や関連病院への派遣はすべて教室員の合意によって決められています。この仕組みはとても良く機能しており、若手医師にも支持され、平成 16 年から 10 年間で 90 人の入局者を迎えています。



2、スタッフ

主任教授 平安良雄（附属病院精神科診療部長）

横浜市立大学附属病院精神科

後期研修医 阿部紀絵（大学院生）、許博陽、鈴木則子、寺山慧、戸代原奈央、濱口大輔
助教 玉澤彰英、吉見明香、白石洋子（臨床検査部脳波室）、井出恵子（健康管理室）

講師 須田顕、浅見剛（精神医学教室医局長）、野本宗孝（医学部薬理学教室）、
岸田郁子（教育・研究責任者代理・外来医長）、勝瀬大海（診療部長補佐・病棟医長）

児童精神科

指導診療医 廣内千晶、助教 青山久美、准教授 竹内直樹（附属病院児童精神科部長）

大学院生

早川麻耶、田辺有里子、浜田智哉、井上佳祐、伊倉崇浩、石井美緒、高田薫子（リハ科）、
宮内雅利、河上緒、小西潤、福島浩、早坂俊亮

横浜市立大学市民総合医療センター精神医療センター

後期研修医 折田真央、服部早紀、中村亮太（大学院生）、高石政男

指導診療医 杉浦寛奈

助教 林美穂、加納亮治、中川牧子（医学教育センター所属教員）、六本木知秀、
森田睦郎（外来医長）、日野耕介（高度救命救急センター担当）、堀岳人（脳波室担当）
准教授 小田原俊成（精神医療センター部長）

児童精神科

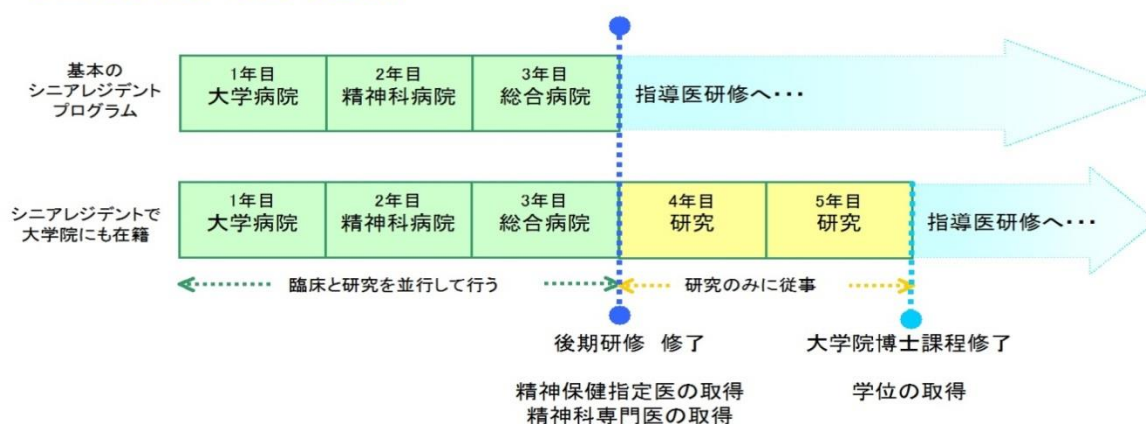
後期研修医 谷本瑠奈、助教 栗山薫、中島智美、講師 高橋雄一（医局長・病棟医長）

3、研修プログラムの概要と特徴

当科のシニアレジデント・プログラムは、大学病院（附属病院またはセンター病院）、単科精神科病院、総合病院精神科にて各1年、計3年間のプログラムとなっています。1年目は原則的として大学病院で基礎的な知識とスキルを身につけるべく研修し、その次の2年間は精神科病院および総合病院にて各1年研修することにより、急性期から社会復帰、精神科リハビリテーション、身体合併症診療に至るまで、幅広く精神科医療全般の経験を積むことができます。計3年を終了した時点で精神保健指定医や日本精神神経学会専門医の資格取得に必要な症例の経験ができるようになっています。過去5回の専門医（新規）試験で25名が合格しています。後期研修において派遣される病院は、指導体制を考慮し、指導力のある現役医会員あるいはOBが勤務しています。

大学院に関しては、常勤医師としての勤務を続けながら大学院履修を行える長期履修制度（最長8年）があります。一例をあげると、シニアレジデント研修と同時に大学院履修を開始した場合（下図）、大学院の最初の3年間はシニアレジデントとして臨床を行い、後期研修を修了します。この間、診療業務時間外に研究や講義の受講を行います。その後2から5年間で、ローテートを離れ研究に専念し、学位の取得を目指すことができます。

シニアレジデント・プログラムの例



4、応募問い合わせ先

研修説明会、病棟見学などを行っておりますので、随時お問い合わせください。

平成26年度入局説明会：第1回7月10日、第2回10月9日、面接試験：12月11日

E-mail（見学希望者用）：kengakukibou@gmail.com または浅見（医局長）takeshiasami2@gmail.com

24.聖マリアンナ医科大学 神経精神科学教室

Department of Neuropsychiatry, St. Marianna University School of Medicine

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1

TEL: 044-977-8111 FAX: 044-976-3341

E-mail : y2sasuga@marianna-u.ac.jp 貴家康男（医局長）

1、教室の特徴

学閥的色彩がなく、様々な大学の出身者が調和のとれた自由な雰囲気の中、臨床や研究に励んでいます。大学病院には診療施設として3つの精神科関連のセンターがあり、活発な活動と業績をあげています。



2、スタッフ

教授	山口 登（講座代表）
准教授	宮本聖也（病棟医長）、長田賢一
講師	貴家康男（医局長）、丸田智子（外来医長）、三宅誕実（副医局長）、 足立淳（川崎市立多摩病院）、長谷川浩（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）
助教	中野三穂（病棟副医長）、天神朋美、橋本知明（外来副医長） 野口美和、板谷光希子、原田久、天本高寛（足利富士見台病院） 前泊味音（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）、荻野信（大富士病院）
任期付助教	南麻依、黒岩小百合、高橋知子、田邊雅則、高井彰、 岩藤元央（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）
大学院生	渡邊高志、鈴木慈、佐々木央我、田口篤、二宮友梨子、浅利翔平、山下佑介、関口潔

3、研修プログラム概要

A：大学院進学コース（4年間）

初期研修終了後、聖マリアンナ医科大学大学病院（本院）で臨床経験を積みながら、学位取得（研究活動）も目指したいという方。

B：任期付助教コース（5年間）

初期臨床研修終了後、大学病院（本院）または教育関連病院で臨床経験を積みたい方（学位取得も可能）。

C：研究生

期間に縛られず、大学病院（本院）で登録医員として臨床経験を積み、できれば学位取得も目指したいという方。

D：登録医員（大学病院本院勤務）コース

学位は望まないが、無給でも良いので、大学病院（本院）でしばらく臨床経験を積みたいという方。

E：出向助教・出向任期付助教コース（教育関連病院勤務）

当教室員として関連病院に出向しながら、週 1～2 日ほど大学病院に勤務し、臨床や研究で経験を積みたいという方。

4、研修プログラムの特徴

外来診療は1日 140～160 人の患者を、4～6 人の医師が対応しています。初期研修医は初診患者の予診や教授の陪審などを行います。後期研修 2 年目以降、外来診療を行います。入院治療は、急性期の治療や難度の高い病態の診断や治療、ならびに精神障害に合併した身体疾患の急性期治療を身体診療各科と協力して行っています。病棟診療は 4 つ診療班で行いますが、全ての診断および治療は診療班の主治医のみならず全医員参加型の病棟会議や回診で検討されます。当院当科の疾患別入院患者の内訳は、認知症が気分障害や統合失調症よりも多いことが特徴です。これは認知症が疑われる患者の 1 日検査入院が増加しているためと考えられます。初代主任教授の長谷川和夫先生が手掛けた改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）は有名ですが、認知症研究の流れを受け継ぎ、現在は「聖マリアンナ医大式コンピューター化記憶機能検査（STM-COMET）」を開発し、きわめて早期の段階で認知症、特にアルツハイマー型認知症が診断できるようになりました。1 日検査入院では、この STM-COMET や頭部 MRI、脳波などの検査を行い、後日認知症診断外来にて結果を説明します。また薬物療法に抵抗性の大うつ病性障害に対する全身麻酔下電気けいれん療法も行っており、地域病院からの依頼も増えています。

5、応募問い合わせ先

年に 2 回（7 月と 9 月）に説明会を開催しています。病棟見学も随時行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

25.北里大学医学部 精神科学

Department of Psychiatry, Kitasato University School of Medicine

〒252-0374 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1

Tel: 042-748-9111 Fax: 042-765-3570

教室幹事：大石 智 satoru07@me.com

E-Mail：k-psy@kitasato-u.ac.jp

1、教室の特徴

大学病院としては異色の精神科スーパー救急病棟、大規模デイケアを配備し、急性期から慢性期まで幅広く対応可能な北里大学東病院精神神経科と、リエゾン、緩和ケア、児童精神科を主とする北里大学病院精神神経科を基盤に、大学病院として高度専門医療を提供するとともに、市民病院としての役割も果たしています。

精神科臨床医の育成には特に力を入れています。「出向しなければ多くの症例を経験できない」などということはありません。2～3年の研修をすれば、精神科医として一生の間に接する症例のうち8～9割は経験できる診療実績と指導体制を整えています。つまり当教室で研修をすることで、「どの施設に行っても、自信を持って臨床を実践できる」精神科医になることができるというのが、当教室の特徴と言えます。また教育スタッフは精神科のほぼ全領域を網羅する専門家をそろえ、気軽にいつでも相談できる体制を整えています。こうした特徴もあり、後期研修医には他大学出身が多くを占め、教室内はいつも自由闊達な空気が溢れています。



2、スタッフ

主任教授	宮岡等
准教授	高橋恵
診療准教授	齋藤正範
特任講師	井上勝夫
講師	澤山透、宮地英雄
診療講師	吉田芳子、高橋恵理、大石智（教室幹事）

医療衛生学部教授 田ヶ谷浩邦

医療系大学院教授 生地新、田中克俊、岩満優美

助教（研究員）9名、特任助教1名、後期研修医14名

（特任は寄付講座：地域児童精神科医療学＜相模原市＞の教員）

3、研修プログラムの概要

精神科専門医教育（後期研修）プログラムは日本精神神経学会の精神科専門医制度（研修医2年間＋専門医研修3年間で受験資格を得る）で求められている履修内容に準じて行います。精神保健指定医も最短期間で取得することができるように指導します。大学病院としては珍しく措置入院を受け入れていますので、大学病院内の豊富なスタッフのもとで精神保健指定医取得に必要な症例に関する研修を行うことができます。一般精神科の研修に加えて、児童精神科臨床を専門的に研修できるプログラムがあります。「精神科医としての初期の研修には、重症症例を大学という複数の専門家が在る場所で診て学ぶことが不可欠である」というのが主任教授の口癖ですが、それが実践されています。

4、研修プログラムの特徴

98床の入院病床、350名／日を超える外来、神奈川県精神科救急システム基幹病院であり、精神鑑定や医療観察法の鑑定入院も受け入れるという特徴を有する北里大学東病院と、児童精神科外来、リエゾン外来などを有する北里大学病院を主たる研修機関とします。教室スタッフには全領域の専門家がいますので、相談や討論をしやすい環境で研修できます。研修の主たる舞台である病棟では、主治医、指導医、後期研修医で構成されるチームで診療にあたります。毎週のチャートカンファレンス、日々の診療では主治医、指導医により基礎から専門的事項にわたって、丁寧な指導を受けることができます。また基本的な知識を学ぶ小講義以外に、当教室では月に2回、一症例を取り上げてケースカンファレンスを行っています。担当医からのプレゼンテーション、主任教授の面接のあと、若い医師から上級医まで意見を出し合います。若手もベテランも互いに磨き合う、後期研修医のみならず、教室員全員にとって重要な場になっています。

研修は、このような北里大学病院と北里大学東病院での研修を必須とし、それに教育関連病院である精神科病院といわゆる総合病院での研修を組み合わせで行っています。

下記は当教室の研修プログラムをもとに最近書かれた書籍です。

宮岡 等：こころを診る技術：精神科面接と初診時対応の基本、医学書院、2014.

井上勝夫 テキストブック児童精神医学、日本評論社、2014.

5、応募問い合わせ先

研修説明会、施設見学を行っています。どうぞお気軽にご連絡下さい。

宮岡等 miyaoka@med.kitasato-u.ac.jp

教室幹事：大石 智 satoru07@me.com

教室および研修の詳細：<http://kitasato-psychiatry.juno.bindsite.jp/index.html>

（教室での研究会などの情報も載せていますのでご覧ください）

26.東海大学医学部 専門診療学系 精神科学

Department of Psychiatry, Tokai University School of Medicine.

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143

TEL:0463-93-1121 FAX:0463-94-5532

E-Mail:psy-contact@ml.tokai-u.jp

1、教室の特徴

医学部開設当初から児童精神医学・力動的精神医学を受け継ぎ、診療・教育・研究を行っています。人口第2位となった神奈川県の西部の唯一の大学病院であり、一般身体科リエゾンだけではなく、自殺企図患者の救命センターでのリエゾンや小児白血病患者のリエゾン、緩和ケア・オンコロジー等の専門的な精神科サポートも幅広く行っています。



2、スタッフ

教授 松本 英夫 (科長)、山本賢司

講師 玉井 康之 (医局長)、矢野 広、三上 克央

助教 福地 由美、大西 雄一、山田 桂吾、前原 瑞樹、木本 幸祐、高橋 有記

3、研修プログラムの概要

基本的には応相談です。

A:臨床助手(後期レジデント)コースの1例

大学病院(1年)→関連精神科病院(2年)→精神科専門医・精神保健指定医の取得

B:大学院生コースの1例

大学病院(1年)→研究機関(2年)→関連精神科病院(1年)→精神科専門医・精神保健指定医の取得

4、東海大学病院における研修の特徴

長年、児童精神医学を一つの大きな柱として立てて来たため、児童精神医学を体系的に指導できる指導医が豊富です。OBも日本各地で児童精神医学における重役を担っており、相互で交流し、バランスの取れたコンセンサスのある児童精神医学が学べます。昨今では成人の精神科医を目指す医師も児童発達の概念無しには診療を行っていくことが困難になりつつあり、2013年度より後期研修期間中は、児童専攻・成人専攻という区別を無くしました。力動的精神医学を中心とした精神療法についても垣根なく学べます。大学病院本院に精神科病棟は無く、本院では外来とリエゾンを行い、精神科入院が必要な症例は関連精神科病院で受け入れるように、互いに特化し連携し合うことによって、学ぶべきことも明確化されています。

診療の実体験からカンファレンス、上級医の個別スーパービジョンを通じて、論理的な整理を行い、表現する方法を学びます。勉強会はフランクな雰囲気、若い医師からも活発に意見が出ます。リサーチミーティングでは、evidenceの解釈の仕方、創り上げていく方法について学びます。学校や児童相談所、その他福祉施設等の地域との連携業務も担当することになります。基本的な精神医学全般についてのセンスと多面的で論理的な理解、実践を身に付けた上で、それぞれのスペシャリティ、さらに固有のサブスペシャリティを持てるような質の高い精神科医を目指します。

5、応募問い合わせ先

研修説明会、病棟見学等を行っていますので、随時お問い合わせください。

卒後研修応募：採用試験 2014年8月16日(土)午後 締め切り 2014年8月4日(月) 必着

採用試験 2014年9月6日(土)午後 締め切り 2014年8月25日(月) 必着

27.山梨大学医学部 精神神経医学教室

Department of Neuropsychiatry, Faculty of Medicine, University of Yamanashi

〒409-3898 山梨県中央市下河東 1110

TEL: 055-273-9847 (医局) FAX: 055-273-6765

卒後臨床担当：篠原学講師 E-mail: manabu@yamanashi.ac.jp

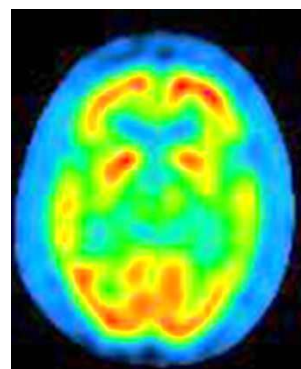
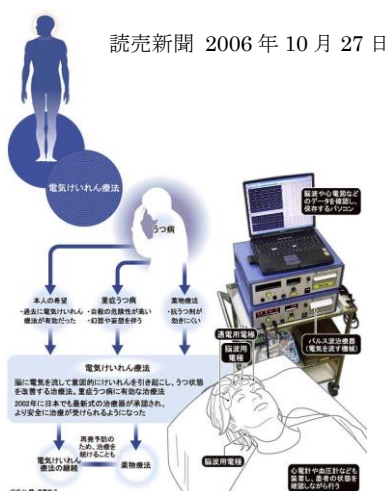
HP: <http://seishin-shinkei.com/>

1、教室の特徴

1983年4月に假屋哲彦教授のもとで開講され、同年10月より医学部附属病院での診療が行われています。

臨床面では、総合病院の精神科として、うつ病などの気分障害の治療を専門的に行っているほか、認知症の初期診断やコンサルテーション・リエゾン精神医学にも力を注いでいます。特殊検査としては、光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助を行っています。このほか、クロザピンの登録医療機関です。

主な研究テーマとしては、①難治性気分障害の治療法の開発と脳機能との関連、②高齢者うつ病における軽度認知障害に関する臨床研究、③精神障害の病態関連遺伝子の同定とその遺伝子機能の精神表現型への影響の解明、④脳の老化と加齢関連性神経変性疾患の神経病理学的研究、などがあります。国立精神・神経医療研究センターとの連携大学院でもあります。



2、スタッフ

教授 本橋伸高 (科長)

准教授 布村明彦、平野雅己 (保健管理センター)

講師 篠原学 (病棟医長)、石黒浩毅

非常勤講師 本田秀夫 (信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部) 小林薫 (市立甲府病院)

助教 松下裕 (医局長)、玉置寿男 (外来医長) 上村拓治、安田和幸、山口雅靖

医員 小林慶太、玉井健一、林大祐

臨床心理士 非常勤 3名

社会人大学院生 16名

3、研修プログラムの概要と特徴

1) 初期研修

卒後臨床研修の必修プログラムとして、全研修医が卒後臨床研修2年目に4週間の研修を行います。ただし、症状の変化を理解していただくために、8週間以上の研修期間を推奨しています。当科では、プライマリーケアに役立つ研修（特にうつ病の診断と治療、向精神薬の使い方、コンサルテーション・リエゾン精神医学の実践）を目的としており、精神科的アプローチを理解した医師の養成に努めます。さらに、選択研修として1～8か月の選択が可能であり、当院以外では、密接な関連のある県内の精神科病院、精神保健福祉センターなどで研修を行うことができます。

2) 後期研修

当科では精神神経医学の臨床能力に優れた医師の養成を目指しています。

- 精神科専門医としての出発：3年間で精神保健指定医および精神科専門医を取得することを目標とし、大学病院および関連施設での研修により、偏りのない臨床医を養成します。
- 臨床研究に関与：臨床能力を高めるためには臨床研究に従事することが大切と考えます。
- 学生や研修医の指導：人に教えることは知識を確実にするのに役立ちます。

3) 他に取得可能な専門医

一般病院連携精神医学専門医
日本老年精神医学会専門医
日本認知症学会専門医
臨床精神神経薬理学会専門医

4) 関連施設

山梨県内：県立北病院（救急；思春期；アルコール・薬物；医療観察法）、県立中央病院（身体合併症）、峡西病院（老人）、日下部記念病院（老人；身体合併症）、住吉病院（アルコール）、花園病院（老人）、山梨厚生病院（身体合併症）、こころの発達総合支援センター（発達障害）など

その他：国立精神・神経医療研究センター病院（医療観察法；治験；てんかん）、国立国際医療研究センター国府台病院（児童・思春期）；このほか、都立松沢病院、都立墨東病院、神奈川県立精神医療センター芹香病院など多数の病院からも医師の派遣要請はあります。

5、応募問い合わせ先

入局についての連絡先 松下裕（医局長） E-mail: yutakam@yamanashi.ac.jp



28.新潟大学大学院医歯学総合研究科 精神医学分野

Department of Psychiatry, Niigata University Graduated School of Medical and Dental Sciences

〒950-8510 新潟市中央区旭町通 1-757

TEL 025-227-2213 FAX 025-227-0777

卒後臨床研修担当：井柝裕文助教 E-mail: pomerabamosu@gmail.com

1、教室の特徴

当教室は1914年（大正3年）に創設され、本年度でちょうど100周年を迎えました。100年という長い歴史の中、当教室は精神医学の発展に寄与すべく、研鑽を重ねながら臨床、研究、教育に邁進してまいりました。多くの患者さんを通してたくさんのことを学ばせていただいた貴重な経験の積み重ねが教室を支える伝統として現在に引き継がれています。

当教室の主な役割をまとめると、次のようになります。

- ①患者さんの立場にたった、最新の専門的な医療を提供すること
- ②基幹病院として、他の医療機関や行政機関と協力連携し、地域全般の医療・福祉を向上させること
- ③身体疾患をもつ患者さんへの対応など、総合病院における精神科としての役割を果たすこと
- ④診断と治療に関する科学的で専門性の高い知識や技術を研究・開発すること
- ⑤患者さんとそのご家族を幅広い視点で支援する社会性・専門性を持った臨床医を育成すること
- ⑥教育や研究の発展に寄与するリーダー的人材を育成すること

精神疾患は、統合失調症、気分障害、発達障害など、その原因が未解明で、著しくQOL（生活の質）を阻害する疾患が少なくありません。患者さんの状態をよく理解し、長期的・社会的視野をもって、ストレス軽減やサポートをはかりながら治療を進めることがとても大切になります。当教室では精神症状の改善はもちろんのこと、薬物療法によって患者さんが被る生活習慣病や心血管系疾患の予防など患者さんの健康面も十分に考慮したうえで治療にあたるよう心掛けております。また同時に、病気の成因や回復に関する理解を深め、診断や治療を向上させるための研究も重要です。最近では、脳科学やゲノム科学など、最新の技術を活用した研究が盛んに行われていますが、今なお疾患の解明には至っておらず、治療においても解決すべき課題がたくさん残されています。当教室では、精神科診断学、臨床薬理学研究などの臨床や治療に直結した研究、疫学調査のような地域に根ざした研究から、分子遺伝学、脳画像研究などの精神疾患の病因にせまる生物学的研究まで、幅広い領域で研究活動を積極的に行っています。

臨床研修に関しては、後述します専門重点コースを選択することで最長10.5ヶ月間精神科を研修することができ、精神医学全般はもちろん、児童精神医学を重点的に学ぶことも可能です。また、「うつ病」、「統合失調症」、「発達障害」、「認知症」、「睡眠障害」、「不安障害」などの疾患については専門外来を行っており、専門性の高い医療を研修することも可能となります。

「臨床を重視し、その中から問題を発見して、自ら科学的に解決する」—当教室ではこの姿勢を大切に、力を合わせて臨床・教育・研究に取り組んでいます。

（新潟大学医学部精神医学教室「教授挨拶」より引用、一部改変）



2、スタッフ

教授	染矢俊幸（科長）
准教授	北村秀明、渡部雄一郎（総合医学教育センター所属）
病院准教授	鈴木雄太郎
講師	須貝拓朗（総括医長）、七里佳代（保健管理センター所属） 村山賢一（保健管理センター所属）、澁谷雅子（保健管理センター所属） 江川純（超域学術院こころの発達医学分野所属）
病院講師	福井直樹
助教	橘輝（病棟医長）、保谷智史、井桁裕文、三上剛明
医員	常山暢人、渡邊藍子、池嶋寛子、大竹将貴、竹原裕美、吉永清宏、森川亮
臨床心理士	安部弘子、國塚拓郎、田澤悠里
大学院生	坂井美和子、新藤雅延、横山裕一、湯川尊行、杉本篤言、井上絵美子、林剛丞、斎藤摩美、折目直樹

3、研修プログラムの概要

専門重点コース

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3月
例 1																							
精神科	救急					内科						地域医療	選択必修	選択必修		自由選択					精神科		
例 2																							
精神科		内科				救急		内科				自由選択		地域医療		選択必修	選択必修				精神科		
例 3																							
精神科	救急					内科						地域医療	選択必修	選択必修		自由選択					精神科		
1 年目												2 年目											

上記は代表例です。精神科研修時期は固定ですが、他科の研修時期は各人で異なります。
 選択必修：外科系、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科から希望の科を2つ選択します。
 自由選択：1科1.5月以上で複数科選択可能（もちろん精神科選択も可）です。

4、研修プログラムの研修の特徴（専門重点コースの利点）

研修プログラムCを選択した場合、選択の工夫により精神科を最長で10.5ヵ月研修することができます。

児童精神科医を目指す場合でも、選択必修や自由選択で小児科研修を選択すれば、小児の身体疾患に関する経験を積むことができます。

卒後臨床研修は、日本精神神経学会専門医取得のための精神科研修期間としてカウントされません。しかし、研修プログラムCでは初期研修期間に精神医学的な診断、治療計画、精神療法、薬物療法などの基礎を十分に学ぶことができるので、同学会が掲げる「専門医受験資格に関わる研修ガイドライン」における経験すべき疾患・治療場面・治療形態を、後期研修開始直後から経験できます。

他科研修中であっても精神科として様々な後方支援を行いますので、安心して研修に臨むことができると考えます。

5、応募問い合わせ先

研修説明会、病棟見学等を行っておりますので、随時お問い合わせください。

卒後臨床研修担当：井桁裕文助教 E-mail：pomerabamosu@gmail.com

29.信州大学医学部 精神医学講座

Department of Psychiatry, Shinshu University School of Medicine

〒390-8621 長野県松本市旭 3 丁目 1 番 1 号

TEL: 0263-37-2638 (直通) FAX: 0263-36-1772

E-mail: seishin@hinshu-u.ac.jp

1、教室の特徴

松本の地に半世紀の歴史をもつ信州大学医学部精神医学講座は、多くの諸先輩と名誉ある伝統に支えられ、臨床、教育、研究、そして未来の精神医学、精神医療に向かって邁進しています。つねに臨床精神医学が拠りどころとなっていることが特徴であり、診断、治療、予後について、さまざまな職種を交えながら、症例検討会で議論を深めています。

乳幼児から高齢者まで、幅広いライフステージの精神医療や精神医学的研究をカバーしていることも特徴です。臨床に根ざした研究をモットーに、症例による臨床研究が行われ、精神病理学に加えて、精神薬理学、神経病理学、放射線精神医学、分子精神医学などの生物学的精神医学にも参加しています。

2、スタッフ

教授 天野直二

准教授 鷺塚伸介

講師 高橋 徹 (統括医長)、杉山暢宏

助教 犬塚 伸 (病棟医長)、宮下光弘 (外来医長)、萩原徹也、萩原朋美、篠山大明

診療助教 山田佳幸、矢崎健彦

医員 中村敏範、高橋由佳

後期研修医 (医員) 7 名

診療教授 (子どものこころ診療部) 本田秀夫



3、研修プログラムの特徴

研修中に経験できる疾患：統合失調症、気分障害、認知症の3疾患のほか、ストレス関連障害、身体疾患に伴う精神障害（特にせん妄）など一般臨床においても出会うことの多い疾患を幅広く経験できる。精神科では、身体的手技はあまり多くないが、日常臨床で必要な医療コミュニケーションスキルや不眠や不安に対する薬物療法、自殺企図後の患者への接し方などの経験を積むことができる。

<1.5ヵ月間の研修目標>

- ・3疾患（統合失調症、気分障害、認知症）を主とした診療経験を積む。
- ・症例検討会、クルズス、研究会、抄読会などによる知識の獲得。
- ・向精神薬の効果と副作用を知り、プライマリケアで必要な薬物療法の知識を習得する。
- ・病棟患者を担当し、総合的な臨床経験を積むことで、精神科臨床の概要を理解する。
- ・リエゾン精神医学を理解し、必要時に精神科コンサルトができるようにする。

<3ヵ月間の研修目標>

- ・小児から高齢者まで、幅広い年齢、疾患の診療経験を積む。
- ・子どものこころ診療部と連携して、発達障害などの症例を経験できる。
- ・症例検討会、クルズス、研究会、抄読会などによるさらなる知識の獲得。
- ・各疾患や症例ごとに対応して、薬物療法の知識を獲得する。
- ・病棟患者を担当し、精神科臨床の概要を理解した上で、精神科救急や難治例治療を経験する。
- ・一般臨床でみられる精神症状（せん妄、睡眠障害、不安、抑うつなど）に対応できるようにする。

<研修中に実施されるクルズスの内容>

①精神科的診断と治療の総論、②気分障害、③統合失調症、④精神保健福祉法、⑤精神腫瘍学、⑥アルコール・物質乱用関連障害、⑦神経症圏の疾患、⑧脳波の読み方、⑨児童精神医学、⑩器質性精神障害（せん妄を含む）

ほかに、隔週火曜日に画像カンファレンスを実施する。

4、研修プログラムの特徴（先輩研修医から）

信州大学医学部附属病院精神科で研修する最大の魅力は、多くの指導医の先生たちとの出会い、バリエーションに富んだ症例を経験できることです。子どものこころ診療部の先生方とも緊密に連絡を取り合っており、児童から老人まで幅広い分野の臨床経験が可能です。毎週火曜日に行われるカンファレンスでは、画像診断や薬物療法など生物学的な見地、精神症状を詳細に検討していく精神病理学的な見地、患者家族調整や社会復帰支援などの心理・社会的見地などから、多面的に活発な意見交換が行われています。症例に対して、様々な角度からの検討を加え、診療が行われていくのがここの精神科の特徴です。

日常の診療はチーム制で、指導医に気軽に質問し、きめ細かい指導を受けることができます。病棟では主治医として主体的に患者さんと関わり、自分自身で問題を検討し考える力を身につけることが可能です。院内各科および高度救命救急センターと適宜協力して診療を行っており、救急分野、身体管理について幅広く学ぶこともできます。希望すれば、研修期間中に県内各地にある総合病院精神科や単科精神病院の見学も可能で、短い研修期間を有意義に過ごすことができます。

豊かな自然に囲まれた信州で、人の温かさに触れ、心を癒し癒される。そんな精神科初期研修です。

5、応募問い合わせ先

応募にあたっての連絡事項

- ・氏名、性別、年齢、現住所、大学名、出身県・市、電話番号（自宅 or 携帯）、メールアドレス

30.金沢大学附属病院 神経科精神科

Department of NeuroPsychiatry, Kanazawa University Hospital

〒920-8641 石川県金沢市宝町 13-1

TEL: 076-265-2304 FAX: 076-234-4254

卒後研修係：長澤 達也講師 E-Mail : nagasawa-psy@min.ac.jp

金田 礼三助教 E-Mail : reizo@ed.kanazawa-u.ac.jp

1、教室の特徴

2009 年に開設 100 周年を迎えた歴史ある精神医学教室です。精神科救急にも参画しています。平成 20 年度より、子どものこころの診療科が独立し、児童精神医学の専門性を強化しました。北陸 3 県に医師派遣実績があり北陸の精神医学・医療を担っている教室です。



2、スタッフ

教授	三邊 義雄(科長)
特任教授	棟居 俊夫 (子どものこころの診療科長)
准教授	橋本 隆紀
特任教授	菊知 充(脳の個性研究臨床部門所属)
講師	戸田 重誠、長澤 達也(医局長)
助教	金田 礼三 (病棟医長)、中谷 英夫 (外来医長)、廣澤 徹、石橋 望 村松 朋子(臨床心理士)
大学院生	竹崎 奈津美、古谷 直生
医員	北山 昌平、坪本 真、佐野 滋彦、堺 奈々、吉田 翠
特任助教	井口 善生
博士研究員	吉村 優子(子どものこころの研究センター所属)
子どものこころの研究センター研究員	上野 沙奈絵、平石 博敏、長谷川 千秋、芦村 和美

研修プログラムの概要

A. 後期研修医向け：神経科精神科専門医養成コース

気軽に上級医に相談出来、まずは精神保健指定医取得を目指します（大学院生も）

1年目	初期臨床研修						
2年目	病棟	外来	勉強会	資格	研究(任意)	研修場所	大学院
3年目	入院患者診断治療(チーム制・複数指導医)、摂食障害・強迫障害・退院支援カンファの参加、脳外科神経内科合同神経セミナー発表参加	初診患者の予診・救急症例の指導医との診察	症例検討会、抄読会、脳波勉強会、neuroscience seminar、指定医症例検討会、子どものこころケースカンファレンス・発達障害セミナー(小児科主催)・子どものこころの研究会	症例レポート作成、	研究グループの勉強会参加、学会発表、論文作成	大学病院	随時入学出来ます
4年目		外来診療(一般再来)				大学病院、総合病院、県立高松病院(認知症、精神科救急etc)、NHO北陸病院(触法、認知症、精神科救急etc)、総合病院、単科精神病院など希望に応じて	
5年目							
6年目							
7年目以上		外来診療(一般初診・再来)		精神保健指定医、精神科専門医、一般病院連携精神医学専門医	学位取得、留学		

B. 初期研修医向け：内科系専門プログラム（神経科精神科）

＊初期研修医 1 年目より精神科に深くかかわりたい方向け。

初期研修 1 年目：精神科始まりで 3 ヶ月間。内科（必修）、救急（必修）、選択必修科を各 3 ヶ月間

初期研修 2 年目：選択科目として精神科を 11 カ月間選択可能。地域医療 1 カ月間（精神科可）

＊必修科目の内科・救急は関連病院での研修可。

所属は卒後臨床研修センターになりますが、神経科精神科に研修機を用意できます

4. 金沢大学病院における研修の特徴

1. 統合失調症、気分障害、不安障害、器質性精神障害をはじめ幅広く精神疾患に対応しています。特に摂食障害や強迫性障害などの難治性疾患には認知行動療法を取り入れ、薬物・精神療法を補完しています。
2. 平成 20 年度より、子どものこころの診療科が独立し、児童精神医学の専門性を強化しました。
3. リエゾン精神医学に力をいれています。意識障害や認知障害による行動障害の治療のために迅速な対応を行っています。また、身体合併症をもつ精神疾患の患者さんの治療も積極的に行っています。
4. 心理検査のための充実したスタッフを持ち、臨床症状との対応を常に行い、治療へフィードバックしています。
5. 臨床研究を主たる研究目標としており、得られた結果を診療に反映させています。
6. 多くの関連病院を北陸三県に持ち、希望に応じて研修病院を選べます。
7. 精神科病棟（精神保健福祉法による開放 18 床・閉鎖病棟 28 床）と神経科病棟 4 床（精神保健福祉法によらない）があり、精神保健福祉法で規定される精神障害の患者（精神科）と神経疾患や不安障害の患者（神経科）の診療にあたっています。
8. 措置入院にも対応しており入院症例は多岐にわたり、大学病院だけの症例で精神保健指定医が取得可能です。
9. 県の精神科救急の輪番制度にも参加しています。
10. 日本精神神経学会、日本老年精神医学会、日本総合病院精神医学会の研修施設です。
11. 医師、看護師、心理士、精神保健福祉士、作業療法士を含む他職種での病棟カンファレンスがあります。
12. 1 年を前期と後期に分けて 1 週間ずつの御休みがとれます。
13. 医局として経済的側面のついでに相談や、女性医師の出産・育児への勤務の配慮も行っています。
14. 他大学出身者も多く、教授を筆頭に明るく開放的で自由で仲良しな雰囲気です。

5. 応募問い合わせ先

研修説明会、病棟見学等を行っていますので、随時お気軽にどしどしお問い合わせください。

卒後研修係：長澤 達也講師（埼玉出身） E-Mail：nagasawa-psy@min.ac.jp

金田 礼三助教（富山出身） E-Mail：reizo@d.kanazawa-u.ac.jp

31.金沢医科大学 精神神経科学

Department of Neuropsychiatry Kanazawa Medical University

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1

TEL: 076-286-2211 FAX: 076-286-3341

psychiat@kanazawa-med.ac.jp

1、教室の特徴

精神神経科学教室では、脳のはたらきが原因で生じる精神的不調や、ストレスなどの心理的要因によって生じるこころの不調を診療や研究の対象としています。それは単なる心の病気の診断をするのではなく、患者さんが、どのような経緯でこころの問題を持たざるを得なかったかを、からだの状態、こころの成り立ち（発達段階やライフサイクルの問題も含みます）、環境（家族、学校、職場）の影響などの視点から統合的に理解して、最も効果の期待できる対応策を患者さんやご家族とともに考えます。従って、治療においても主として患者さん自身にほどこす薬物やカウンセリングといった診療手段に加え、患者さんの生活の質を高める環境調整、社会的資源の積極的な活用を図っていきます。研究においても、全人的医療の観点からおこなわれる精神医学的介入の有用性を脳科学の手法を用いて証明することに主眼が置かれています。



2、スタッフ

教授 川崎康弘（科長）

講師 渡辺健一郎（医局長）、上原 隆、紋川明和、紋川友美、北本福美（臨床心理士）

助教 小関陽樹、新田佑輔（病棟院長）、嶋田貴充（外来医長）、木原弘晶、橋本玲子（臨床心理士）

医員・大学院生

大久保裕章、大嶋一彰、澤井和幸、康山俊樹

大学・病院職員

松田幸久、小野早知子（臨床心理士）、柏谷真由美（臨床心理士）

3、研修内容

第1、2年次

神経科精神科臨床一般

第3年次

専門治療体制の経験

※上記のことを3年で習得し、精神科専門医、精神保健指定医の取得に必要な症例経験を積むことが可能です。

4、研修プログラムの特徴

外来・入院の診療は医師が担当すると捉えるべきでなく、看護師、臨床心理士、作業療法士、薬剤師、精神保健福祉士など、多職種の技能を活用したチーム医療を推進しています。外来診療では以下のような専門性をもった外来がおこなわれています。すなわち、高齢者の認知症や周辺症状の診療、失語・失行・失認などの高次脳機能障害の診療、難治性てんかんの専門治療、思春期・青年期のこころのリスク外来、統合失調症の先進的診断によるセカンドオピニオン外来、認知症の脳画像を中心とした早期診断外来、緩和医療（専門研修あり）やコンサルテーション・リエゾン医療を専門医が担当しています。難治性統合失調症に対するクロザピン治療、うつ病の先進医療である光トポグラフィ検査、近年注目される薬物療法以外の治療法として経頭蓋磁気刺激治療、修正型電気けいれん療法、認知行動療法（専門研修あり）、作業療法、家族心理教育、音楽療法、自律訓練法、EMDRなども積極的に導入しています。

5、応募問い合わせ先

病棟見学、研修のご説明を随時行っております。

E-mail: psychiat@anazawa-med.ac.jp

32.福井大学医学部 病態制御医学講座精神医学領域

Department of Neuropsychiatry, Faculty of Medical Sciences, University of Fukui

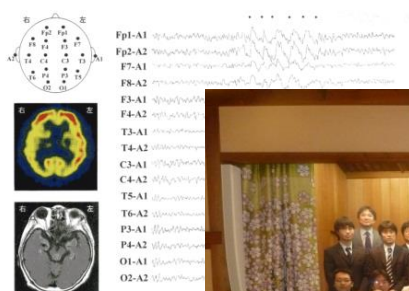
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

TEL: 0776-61-8363 FAX: 0776-61-8136

HP アドレス : <http://seisin.med.lab.u-fukui.ac.jp/>

1、教室の特徴

昭和 58 年に開講し、平成 25 年で 30 歳になったまだ新しい教室ですが、福井県下のほぼ全域や県外の隣接地域の精神医療が同門によって担われており、地域の中核としての役割を果たしています。



高齢者の心の健康づくり
—心の病気を知らう—

福井“こころの元気”プロジェクト

2、スタッフ

教授 和田有司

准教授 東間正人

小坂浩隆（外来医長、子どものこころの発達研究センター・特命准教授）

講師 小俣直人（医局長） 高橋哲也（病棟医長）

助教 東美江、松村由紀子、田中悠二、上野幹二

浅野みずき（子どものこころの発達研究センター・特命助教）、

医員 大沼真紀代、渡邊恵美、竹浦愛、神近哲郎、升谷泰裕

大学院生 三屋博宣、上野幹二

3、研修プログラムの概要

年度毎の研修スケジュール：

- 1～2 年目 福井大学医学部附属病院臨床研修プログラム
(神経科精神科ローテーションを含む)
- 3 年目 後期研修 (附属病院勤務)
- 4～5 年目 後期研修 (附属病院勤務あるいは関連病院研修)
- 6 年目 精神保健指定医・日本精神神経学会専門医取得
学位取得

指導体制：

指導医（教授、准教授、講師）および上級医（助教）があたる
特に研修医には上級医が **man-to-man** で指導する

4、研修プログラムの特徴

当教室の特徴の一つは、関連病院が充実していることです。県内の精神医療の中心的役割を果たし、地域の精神医療機関とのネットワークが良好です。関連病院での研修は指導医と複数の精神科医がスタッフとして勤務している地域基幹病院で、大学病院では経験することが少ない疾患について指導医のもとで研修することになります。関連病院での勤務は各自の希望をもとに研修機会が均等になるように考慮した上で決定しています。

また、希望に応じて以下の研究班に自由に参加し、基礎・臨床の研修をさらに深めていきます。

- 1) アスペルガー障害など広汎性発達障害の病態と治療：脳画像、薬物療法による神経科学的アプローチ
- 2) 認知機能に関する神経生理学的研究：統合失調症、加齢・創造性に関する非線形法を駆使した検討（脳波、MEG、MRI のデータ解析）
- 3) 抗うつ薬、気分安定薬などによる脳内代謝変化とその発現メカニズムに関する研究：脳内グルコース代謝、ミトコンドリア機能などへの影響
- 4) 不安・うつなどの情動・性格特性と生体機能に関する研究：自律神経機能や神経内分泌系、血管内皮機能などとの関連の検討
- 5) 緩和ケア：がん患者のせん妄に関する精神薬理学的および心理社会的研究

5、応募問い合わせ先

下記まで随時ご連絡ください。

卒後研修係 小俣直人（医局長） E-mail: omata@u-fukui.ac.jp

33.名古屋大学医学部附属病院 精神科・親と子どもの心療科（児童精神科）

Department of Psychiatry, Nagoya University Graduate School of Medicine

〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65

TEL: 052-744-2282 FAX: 052-744-2293

連絡先 尾崎紀夫（教授）: E-mail : ozaki-n@med.nagoya-u.ac.jp

1、医局の特徴

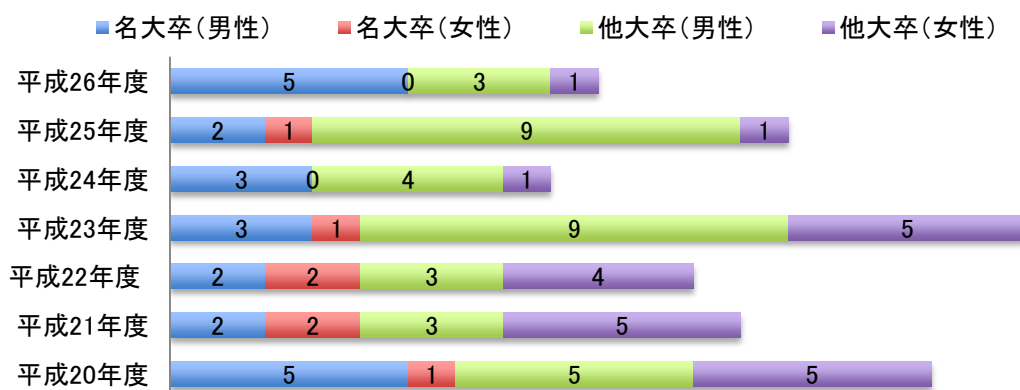
精神現象という最も人間らしい事柄を対象とし、多様性を尊び、公平な医局運営をしています。

開講 106 年となる当医局は、ヒトの精神現象という「最も人間らしい事柄」に関する診療・教育・研究を、多面的な視点から実践して参りました。



現在の医局構成員には、他大学出身、女性、他科の経験を持つ医師も多く、他学部や海外出身の教員が在籍する、という「多様性」が特徴です。さらに、公平で民主的な雰囲気のもと、医局は運営されています。

研修プログラム参加医師数



2、スタッフ

教授 尾崎紀夫（診療科長）、入谷修司

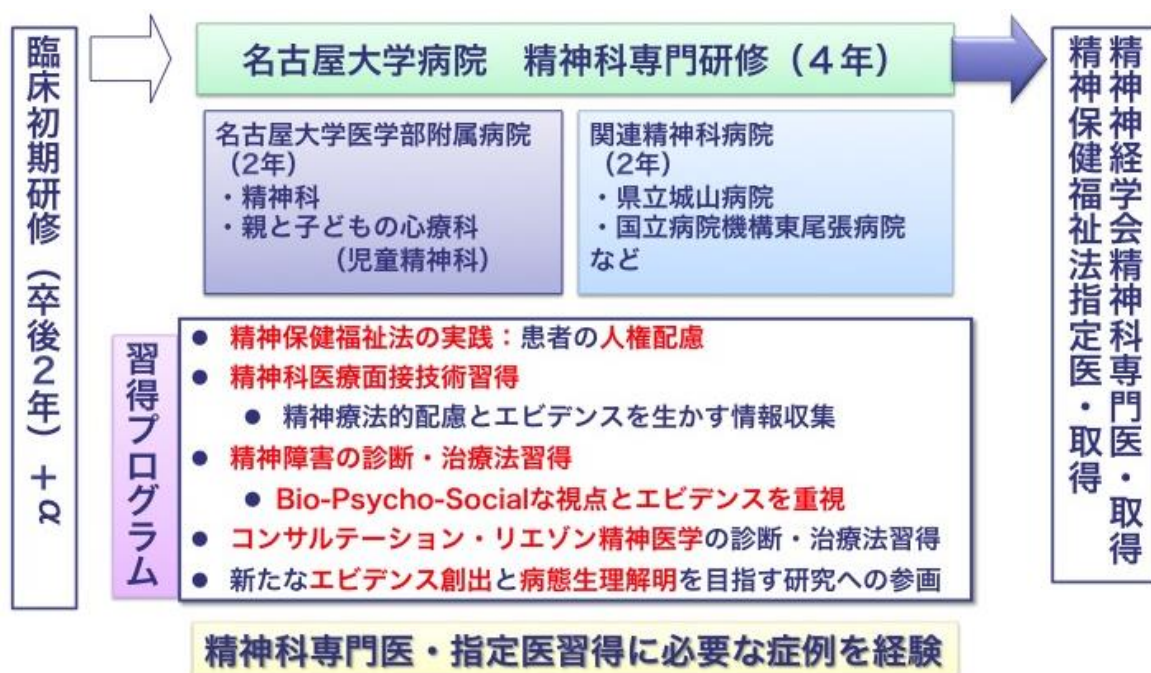
准教授 西岡和郎、飯高哲也、岡田俊、Branko Aleksic

講師 木村宏之、岩本邦弘、藤城弘樹、森大輔

助教 田中聡、鈴木太、宇野洋太、徳倉達也、足立康則、河野直子、前田 拓志、鈴木伸幸、置村杏奈、千石大介

医員 11 名、研修登録医：6 名、大学院生：19 名

3、研修プログラムの概要



前半2年は、総合病院である名大病院で指導医と共に診療に従事し、精神障害の診断と治療に習熟するとともに、臨床精神医学に必要な論理的思考を身につけます。後半2年は、公的病院を含む関連精神科病院においてさらに臨床経験を積み、精神科専門医または精神保健指定医などの資格を取得します。

4、研修プログラムの概要

精神障害を、様々の立場から診療し、研究する、多様な志向性を持った人材を歓迎します。

児童から老年期までの豊富な症例と、各分野のエキスパートである、多様な専門医・認定医、研究者が多数在籍し、その点を活かした研修プログラムを用意しています。入局後、系統的レクチャーを受講して精神医学の基礎知識を身につけ、指導医の丁寧な指導のもと、児童から老年期までの幅広い精神障害の外来・入院症例の診療を研修します。また、総合病院という特性から、癌、周産期、移植といったリエゾン精神医学についても研修することができます。10以上の各種学会が定める研修施設となっており、さらに後半2年は関連精神科病院での研修に繋げることで、精神科医としてのキャリアアップに繋がります。

研究の基本方針は、「日々の臨床疑問の解決」と、「病因・病態を解明し、病因・病態に即した診断、治療・予防法の開発」で、多様な研究志向性を持った人材を求めています。

5、教授・診療科長からのメッセージ

各ライフステージに生じる精神障害を、多面的にサポートします。

児童から老年期までの幅広い精神障害を対象にしています。診療に際しては、心理面、身体面、患者の置かれている社会的立場といった多面的な視点を持ち、患者・家族のニーズ（気持ち）を踏まえて、現在の診断法、治療法で最適なものを選ぶよう心がけています。

研究に関しても、心理社会的側面（養育体験やストレス状況など）と生物学的側面（ゲノム科学や脳科学によるアプローチ）を組み合わせ、患者・家族の願いを適える成果を目指しています。

6、応募問い合わせ先

研修プログラムや見学希望などお問い合わせは、電子メールで尾崎紀夫（ozaki-n@med.nagoya-u.ac.jp）まで、ご連絡下さい。研修や研究、入局説明会・面接の予定は<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/seisin/>に掲載しております。是非一度、アクセスして、ご覧下さい。

34.名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野

Department of Psychiatry and Cognitive-Behavioral Medicine, Nagoya City University
Graduate School of Medical Sciences

〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

TEL: 052-853-8271 (研究室直通) FAX: 052-852-0837 (研究室直通)

医局長: 山田敦朗病院講師 E-Mail: atsurou@med.nagoya-cu.ac.jp

1. 教室の特徴

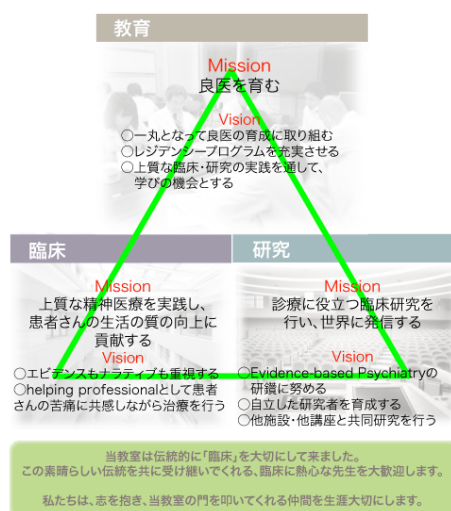
当教室は、前身の名古屋市立女子高等医学専門学校において「精神科学」講座として創設されて、70年以上の歴史を有しています。創設当時より、精神病理学、児童精神医学、神経心理学など臨床と臨床研究を重視しており、現在はこれらに加えて、EBMに基づく精神科診療の実践、コンサルテーション・リエゾン精神医学、認知行動療法、臨床精神薬理、脳画像研究などにも取り組んでおります。

中でも、現在、若手精神科医の育成、教育に力を入れており、それを通して地域医療を支えていくことに貢献することを大学病院のミッションと考えています。

また、2009年度には大学病院に緩和ケア部が創設され、部長の明智が緩和ケア部長も併任し、緩和ケア領域の臨床と臨床研究も熱心に行っています。

出身大学も全国にわたり、オープンな雰囲気の教室です。

当教室のMissionとVision



2. スタッフ

教授	明智龍男 (医学研究科副研究科長、病院こころの医療センター部長、病院緩和ケア部部長)
病院准教授	奥山徹 (病院緩和ケア部副部長)
講師	竹内浩 (病院こころの医療センター副部長・外来医長)、東英樹
病院講師	山田敦朗 (医局長)
助教	小川成 (病棟医長)、橋本伸彦 (副病棟医長)、中口智博 (病院緩和ケア部所属) 内田恵、鈴木真佐子
大学院生	近藤真前、川口彰子、根木淳、菅野康二、白石直、久保田陽介、井野敬子、伊井俊貴、相木佐代

3. 研修プログラムの概要と特徴

私たちが考える研修プログラムの目標は、「良医になる」ことです。これは、「医師として出会う患者の一人一人に最善の精神医療を提供できるように、精神医学全般の知識ならびに EBM の原則を理解し、常に helping professional として患者の苦痛・苦悩に共感しながら、薬物療法・精神療法・環境療法を統合した治療を実践できる」ことと考えています。

この目標を効果的に達成できるように、1・2・3+アルファ方式と名付けた一貫したレジデンストレーニングを提供しています。

- 1: 大学病院での研修 (1~2 年)
- 2: 主として総合病院精神科 (1~2 年)
- 3: 主として精神科病院 (1~2 年)

アルファ: コンサルテーション・リエゾン医療+緩和ケア、児童思春期医療、等

この間に精神科専門医・精神保健指定医の取得に必要な症例経験を積みます。また、大学院に進学して、臨床研究の実践を通じて医学博士取得を目指すこともできます。

4、研修プログラムの特徴

大学病院では、受け持ち患者の主治医となりますが、責任指導医の下に複数の医師から構成されるチームで診療にあたります。教室全体でも、若手向けの多彩なクルズスに加え、EBMに基づくケースカンファレンス、小グループで全員参加型のケースカンファレンス、「外来ケースカンファレンス」、最新の知識を蓄える「アップデート」、患者さんへの対応の仕方を学ぶ「マイクロスキル・カウンセリング」のトレーニングなどを行っています。また女性医師も多いため、家庭の状況等を最大限考慮し、医局全体で女性医師のバックアップを行っております。手前味噌ですが、当院での研修プログラムを終了した医師は地域で大変良い評判を頂いております。

大学院や将来の研究者を目指す人たちのために、「リサーチ・ミーティング」や研究手法を学ぶための「コアカリキュラム」も用意しています。認知行動療法、コンサルテーション・リエゾン精神医学/精神腫瘍学/緩和ケア、神経心理学、脳波、脳画像、臨床精神薬理、児童精神医学など興味を持った分野で学ぶことが可能です。基礎医学に興味をお持ちの方は、当大学の基礎分野での共同研究も可能です。ほとんどは臨床に密接に関連した内容を研究テーマにしておりますので、学位をとりつつ、臨床医としての高度な技術を身につけることもできます。

大学病院での研修を終えた後には、名市大精神科の教育関連病院でより一層の経験を積んでももらいます。精神医学・精神医療は働く場により経験できる疾患が異なっていることがしばしばあります。様々な精神医療現場で経験することにより、精神医学全般の治療を行うことができる良医となることを目指します。そして、これらの研修期間中に、精神科専門医・精神保健指定医を取得できるようなプログラムとなっています。これらの指導も医局の先輩医師が責任を持って指導にあたっております。

5、応募問い合わせ先

名市大精神科では見学・相談も随時受け付けております。是非、一度、皆が楽しみながら働き、そして学んでいる姿の見学にいらしてください。学生、初期研修医だけでなく大学院進学を考える方なども、医局長までお問い合わせください。

2014年7月19日と9月20日には、教室説明会を行います。詳細につきましては、下記のホームページやFacebook公式ページに掲載しております。興味をお持ちの方はお気軽に医局長までお問い合わせください。

なお名古屋市立大学病院の後期専門研修医（シニアレジデント）の募集要項は、例年9～10月に発表されます。こちらにつきましても大学病院のホームページをご覧になるか、医局長までお問い合わせください。



名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野ホームページ
<http://www.ncupsy psychiatry.com/jp/index.html>



NCUPsychiatry
公式 facebook ページ

35. 藤田保健衛生大学医学部 精神神経科学講座

Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

TEL : 0562-93-9250 FAX: 0562-93-1831

URL : <http://www.fujita-hu.ac.jp/~psychi/>

医局長 : 北島剛司准教授 E-mail : tsuyoshi@fujita-hu.ac.jp

1、教室の特徴

現在、教室創設 42 年を迎えた当講座では、実証的臨床的研究を行いつつ、地域のメンタルヘルスサービスを支える高度な医療を提供しています。また、基礎的研究では、統合失調症や双極性障害などのリスクを同定するために、網羅的遺伝子研究を推進しています。その実績により、脳科学研究戦略推進プログラムに採択されるなど高い評価を得ています。



2、スタッフ

教授	岩田仲生（診療部長）、内藤宏（副診療部長）
准教授	北島剛司（医局長）
講師	成田智拓（外来医長）、池田匡志、江崎幸生（病棟医長）、岸太郎、趙岳人、松永慎史
助教	近藤健治、廣瀬真里奈、松田勇紀、向井智彦
助手	大矢一登、河合諒子、川瀬康平、奥山祐司、錦城晴美、久保桃子、平松吉孝、松井佑樹
大学院生	斉藤竹生、島崎愛夕、鳥井悠美加、荒川千明
客員助教	土屋晶子

3、研修プログラムの概要

①専門研修

入局 1 年目：大学病院にて研修（指導医とマンツーマン方式）

入局 2～3 年目：大学病院・単科精神科病院・総合病院精神科にて研修

入局 4 年目以降：大学での研究従事・院外精神科勤務・各専門医取得

＊臨床医としての研修を集中でき、2～3 年目は希望により専門施設での研修や内地留学（他大学での研修）も選択できます。また指定医・専門医が最短で確実に取得可能です。

②大学院進学

入局 1 年目：大学院入学・研究および病棟研修

入局 2～4 年目：大学で臨床・研究活動（単科精神科病院での研修：希望により）

入局 5 年目以降：学位取得後、大学教員として研究活動の続行・各専門医取得・院外精神科勤務

＊本人の希望と努力により、学位取得に先んじて指定医・専門医がほぼ専門研修者と同時に取得可能です。学位取得後、大学に残って研究活動を継続し、より専門性の高い資格を取得することもできます。

③その他

①、②以外にも、各医師の希望に応じてオーダーメイドの研修プログラムを組むことも可能です。

4、研修プログラムの特徴

当院では、常勤の大学教員（助手）として採用されますので、給与（賞与有）、社会保険（私学共済に加入）、福利厚生などサポートが充実しており、安定した身分で研修することができます。リエゾン・コンサルテーション、睡眠医学、脳波、精神療法、臨床精神薬理、物忘れ外来、ショートケア、400～500 件／年の実績を誇る修正型電気けいれん療法、24 時間対応の精神科救急診療等、幅広い診療分野があり、昨年 6 月には、愛知県の「精神・身体合併症救急医療対応事業」の支援を受け、大幅なリニューアルを行い、重症例にも対応できる 51 床（開放 19 床・閉鎖 32 床）に拡大しました。そのため、これまで以上の幅広い精神疾患の経験が可能となりました。豊富な経験をもつ指導医の熱心な指導や、各専門分野の教育、各種カンファレンス等を通して、どこでも通用する力をもった精神科専門医を目指します。

5、応募問い合わせ先

研修説明会、病院見学等を行っていますので、随時お問い合わせ下さい。

連絡先：北島剛司准教授（医局長） E-Mail：tsuyoshi@fujita-hu.ac.jp

詳しくは医局ウェブサイトへ！ URL：<http://www.fujita-hu.ac.jp/~psychi/>

36.奈良県立医科大学 精神医学教室

Department of Psychiatry, Nara Medical University

〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840

TEL: 0744-22-3051 (代表)

Home : <http://www.naramed-u.ac.jp/~psy/> Mail : psychiatry@naramed-u.ac.jp

1、教室の特徴

当教室は開講 65 年を迎え、現在の同門は 200 名を超えております。臨床教育、研修の場、そして研究の場であるとともに、奈良県及び周辺地域における精神医療の中核機関として指導的役割を果たしています。指導体制精神保健指定医の取得については、教室の全面的指導体制により最短での取得はほぼ 100%を維持しています。また研究においては、神経科学班 (iPS 細胞を用いた研究や電気生理を用いた基礎研究)、児童思春期班 (NIRS や ERP などを用いた臨床研究)、画像班 (MRI 画像や脳機能画像を用いた臨床研究)、老人班 (MRI 画像や神経心理学的検査を用いた臨床研究) の研究グループがあります。



2、スタッフ

教授 岸本年史、飯田順三(看護学科)

准教授 安野史彦

講師 小坂 淳(医局長)、芳野 浩樹

助教 池下克実、橋本和典、深見 伸一、牧之段 学(外来医長)、太田豊作、紀本鳥塚 通弘、松田康裕(病棟医長)、上田昇太郎、中西葉子、井川大輔

医員 岡崎康輔、高橋誠人、西畑陽介、小森崇史、高田智世、谷村佳宣

大学院 山室和彦、松岡 究、盛本 翼、山下泰徳

3、研修プログラムの概要

2年間の後期研修期間の間に、大学病院および関連病院での研修を行います。年間入院数約300人（措置入院、医療保護入院症例を含む）と大学病院の症例が豊富なため、精神保健指定医および精神科専門医の取得に必要な症例は研修期間中にほぼ経験することができます。

2年間の研修終了後に、大学院への進学が可能になります。学位取得後に本人の希望により留学を検討します。

後期研修の受け入れ人数に制限はありません。

各年度の後期研修医数（入局者含む）			
平成19年	10	平成23年	5
平成20年	5	平成24年	5
平成21年	2	平成25年	6
平成22年	4	平成26年	6

4、研修プログラムの特徴

大学病院精神医療センターでの急性期からリハビリテーション、児童思春期から老人までをintensiveに研修が可能です。また総合病院ならではのコンサルテーション、緩和ケアやリエゾンも含めた総合的な研修を行えます。

当科はベッド数110床と大学病院精神科としては規模が大きく、スーパー救急病棟、合併症救急病棟（合併症、老年期、児童思春期ユニットを含む）があり、精神保健指定医や専門医に必要な症例数は大学病院での研修で豊富に経験できます。

精神保健福祉士などとともに患者宅に訪問指導を行うなど地域医療の研修も行っており、外来ではデイケアを、病棟ではSSTや認知行動療法を行っており、精神科医として必要な知識やスキルの習得が可能です。

外部との連携としては、救急救命センターと連携した自殺対策の研修が可能です、また研修協力病院でのアルコール、薬物依存や慢性期のリハビリテーションの研修が可能です。

5、応募問い合わせ先

施設見学については随時受け付けております。また研修説明会について参加希望される方はメールか電話でお問い合わせ下さい、最も近い説明会をご案内いたします。



医局旅行（台湾）

37.滋賀医科大学医学部 精神医学講座

Department of Psychiatry, Shiga University of Medical Science

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL: 077-548-2291 FAX: 077-543-9698

卒後研修係 高橋正洋 E-Mail : takamasa@belle.shiga-med.ac.jp

1、教室の特徴

昭和 53 年 4 月に滋賀医科大学精神医学講座が開設され、初代教授の高橋三郎先生（現滋賀医科大学名誉教授）は国際診断分類である DSM-III を日本に導入し精神科診断学に大きな役割を果たされました。当講座では生物学的精神医学を臨床・研究の重要な柱として位置づけ、精神内科学、臨床精神薬理学、睡眠学、分子神経科学などの多くの領域において研究を行っております。講座の方針としては各自の発想を尊重する自由な気風であり、これまで優れた人材を多数輩出してきました。現在も当講座出身の多くの教授が多方面で活躍しています。

診療面においては、滋賀県における唯一の大学附属病院であり、地域における基幹施設として、また総合病院精神科として、先進的医療、緩和医療、精神科リエゾン医療、身体合併症を伴う患者の治療、児童思春期の精神医療などに積極的に取り組んでいます。特に、重症うつ患者への修正型電気けいれん療法は年間 500 件を超えており、また難治性の統合失調症に対するクロザピン治療や睡眠障害治療なども地域の精神医療に対して大いに貢献しています。さらに最近では認知行動療法、経頭蓋磁気刺激療法なども行っております。我々は臨床・教育・研究から「患者を治す精神医療」を志す若手医師の方と共に更なる高みに向かって歩んでいきたいと考えています。

2、スタッフ



教授 山田尚登（診療科長、附属病院副病院長）

特任教授 角谷 寛

講師 今井 眞、森田幸代（緩和ケア所属）、高橋正洋（医局長）

助教 吉村篤、松尾雅博、栗本直樹（病棟医長）、藤井勇佑

稲垣貴彦（外来医長、地域精神医療学講座所属）、田中恒彦（地域精神医療学講座所属）

医員 泉尾 護、増田 史、鈴木朋久、鷹見将規、中林孝夫、田村礼華、山路 力、山本 彬

助手 秋定有紗（臨床心理士）

3、研修プログラムの概要と特徴

①精神科専門医・精神保健指定医取得コース

このコースでは、日本のすべての病院の中で、最も短い期間での精神科専門医・精神保健指定医の取得を目指します。精神保健指定医の取得には5年以上の臨床経験のうち3年以上の精神科臨床経験が必要です。3年間の研修期間で精神保健指定医の資格申請に必要な症例をすべて当院内で経験し、経験豊富な指導医が合格のために適切な指導を行います。これまでの当院の精神保健指定医合格率は100%となっています。また資格取得に必要な知識だけでなく、精神科救急から身体合併症まで診ることができるオールラウンドな精神科医の育成を行います。

③日本睡眠学会の認定医取得コース

このコースは、日本睡眠学会の認定医を最短の期間で目指します。当院は日本睡眠学会の施設認定Aを取得しており、また西日本で認定医の最も多い施設の一つです。睡眠検査用シールドルームを2室、高照度光療法室を8床有しております。睡眠外来の新患者数は年間約500名で多種多様な睡眠疾患を受け入れております。終夜脳波ポリグラフィー（PSG）を年間約200件以上、日中の眠気を測定する反復睡眠潜時測定検査（MSLT）は年間約50件以上行っており、その他様々な検査が可能です。

④医学博士取得コース

このコースでは、最短の期間で医学博士の取得を目指します。社会人大学院制度もあり、就労しながらの医学博士取得も可能です。定期的に行われるラボミーティングで研究の進捗状況をプレゼンテーションし、研究指導者から適切なアドバイスを受ける事で、自立した研究者を早期に育成出来る環境を整えています。当科では時間生物学、睡眠学、精神薬理学、脳神経生理学などを中心に研究を行っており、4年間の研究期間内に学位論文を完成し、医学博士の学位取得を目指します。

4、本施設における研修の特徴

「治す精神科」をキーワードとし、気分障害・統合失調症・睡眠障害を中心とした治療を行っています。当科の特徴としては、以下のようなものがあります。

①年間500件前後(99%は気分障害)の修正型電気けいれん療法(mECT)を施行しており、関西の大学病院では最多です。

②気分障害に対しての新しい治療として反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)を2013年度より導入し、有効性を検討しながら治療を行っています。

③治療抵抗性統合失調症に対する新規治療薬のクロザピンは当院血液内科の協力の下で早期より使用開始となっています。またクロザピンの血中濃度を測定できるシステムを確立しております。

④睡眠障害の精密検査であるポリソムノグラフィー(PSG)は全国有数の施行件数であり、睡眠時無呼吸症候群はもちろん、Restless Legs 症候群・ナルコレプシーなど各疾患について十分な経験を積むことが出来ます。また当院は日本睡眠学会認定A施設であり、睡眠認定医の資格取得も可能です。

⑤うつ病や強迫性障害、社交不安障害に対して有効性が確立されている認知行動療法(CBT)について、十分に経験を積んだ医師や心理士の指導下で研修を積むことが出来ます。

⑥児童思春期の専門治療チームを有し、気分障害や ARMS 等の診断・治療に当たっています。また例年1~2名の後期研修医がイギリス・Maudsley Hospital での短期留学を経験しています。

⑦平成27年度から後期研修医に対して沖縄の病院への短期研修を予定しております。

当科では、後期研修1年目は大学病院で精神科疾患について診断・治療の基本的な知識を指導医の指導を得ながら学びます。また、自ら経験した症例についてはその後の外来フォローアップを担当する場合もあります。後期研修2年目以降は、大学病院にて引き続き臨床経験を積む・関連病院にて大学病院とは違う症例を経験する・大学院に入学し研究に従事する、等のキャリアパスが用意されています。大学病院で引き続き研修する場合、主治医として治療方針について自ら決定する場合もあります。

5、応募問い合わせ先

卒後研修係：高橋 正洋 E-Mail : takamasa@belle.shiga-med.ac.jp

38.京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座(精神医学)

Department of Psychiatry Kyoto University Graduate School of Medicine

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

TEL: 075-751-3386 FAX: 075-751-3246

卒後研修担当：諏訪太郎 E-Mail: kyopsy@kuhp.kyoto-u.ac.jp

1、教室の特徴

当教室は百年以上にわたって日本の精神医療の様々な分野の発展に寄与してきました。

現在も、当教室のスタッフ一人一人が自らの専門性を高めるために精進し、医員・大学院生の指導を通じて後進の育成に励むことで、精神医学京都学派の伝統を大切に受け継ぎ、精神医療・精神医学研究の質の向上を目指していきたいと考えています。



2、スタッフ

教授 村井俊哉

准教授 高橋英彦、林晶子（集学的がん診療学講座）

講師 野間俊一

院内講師 宮田淳

助教 大下颯、諏訪太郎、上田敬太、船曳康子、挟間雅章、杉原玄一、笹本彰彦
藤原広臨(総合臨床教育・研修センター)

医員 大浦邦康、金子珠世、河島孝彦、柴田真美、西嶋泰洋、沼本和記、船山由樹、三宅康弘

大学院生 磯部昌憲、小野美樹、杉田尚子、孫樹洛、鶴身孝介、廣瀬公人、森康生、横山如人、
加藤賢嗣、齊藤菜穂、佐々木仁、竹内秀暁、竹村有由、藤野純也、松河理子、村尾英真、
村尾託朗、梁瀬まや、植野司、四元真由子、上月遥、勢島奏子、三木寛隆、水田弘人、
市田大一、川端美智子、Lina Alhaddad、Walid Yassine

3、研修プログラムの概要

※ 京都大学精神科専門研修システム（精神保健指定医取得まで）							
卒業	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
例 1	ローテイト	院内研修	総合病院常勤		精神科病院常勤		大学院etc
例 2	ローテイト	院内研修	総合病院常勤		精神科病院常勤	大学院etc	
例 3	ローテイト	院内研修	総合病院常勤	精神科病院常勤		大学院etc	
例 4	ローテイト	院内研修	総合病院常勤	精神科病院常勤	大学院etc		
例 5	ローテイト	院内研修	大学院etc				精神科病院常勤

【専門研修 1 年目:原則的に大学病院で入院患者の診療を行う】

当院精神科の病床数は 8 つの保護室を含む 60 床で、1 年の間に精神保健指定医、精神科専門医取得に必要な症例の多くを経験できます。専門性を備えた指導医の下で病棟業務の中心的な役割を担うので、精神医学的面接や薬物療法についての実践的な技術が身につく、翌年から関連医療機関に常勤医師として赴任しても十分な力を備えることができます。

【専門研修 2～5 年目:当院と関連の総合病院精神科や単科精神科病院で診療を行う】

全ての専門研修医が様々な病院機能を持つ施設での診療を通じて、幅広い技術と経験を得ることが出来るようにとの配慮から、複数の医療機関で 1～2 年ずつ研修を行います。

精神科臨床医にとって、精神保健指定医という資格は極めて重要ですので、卒後 5 年は臨床経験を積み、指定医取得を目指すことを推奨しています(例 1～4)。しかし、早めに専門性の高い研究に触れたいと思う人のために、卒後 3 年での大学院入学も可能としています(例 5)。

4、京大病院における研修の特徴

精神科医として精神医療に向き合う基本的な姿勢は、初期・後期研修の間に培われます。当教室では、精神療法、身体療法、児童精神医学や緩和ケアをはじめとする精神医学の幅広い領域で専門的な指導を受けることができます。一方で、受け身的な研修にならないよう、自主性を尊重しており、実際に研修医・医員の先生方が立ち上げた院内の勉強会が数多く存在します。一人一人の情熱が精神医療全体の質の向上につながります。やる気のある医師を心より歓迎します。

5、応募問い合わせ先

当局での研修をご検討の学生・医師の方々へ

当教室への入局をご希望される方は、随時ご連絡ください。個別に日程を調整します。

平成 26 年 8 月 23・24 日、第 5 回 京大 夏の精神医学セミナーにおいても、入局の説明をいたします。

皆様、ご参加ください。（連絡先：卒後研修担当 諏訪太郎 kyopsy@kuhp.kyoto-u.ac.jp）

39.京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

Department of Psychiatry, Graduate School of Medical Science Kyoto Prefectural University of Medicine

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町 465

TEL : 075-251-5612 FAX : 075-251-5839

Email : psyche@koto.kpu-m.ac.jp

1、教室の特徴

今年で教室開講 120 年を迎えました。臨床、研究、教育のバランスを保ちながら、大学精神科としての役割を果たしています。

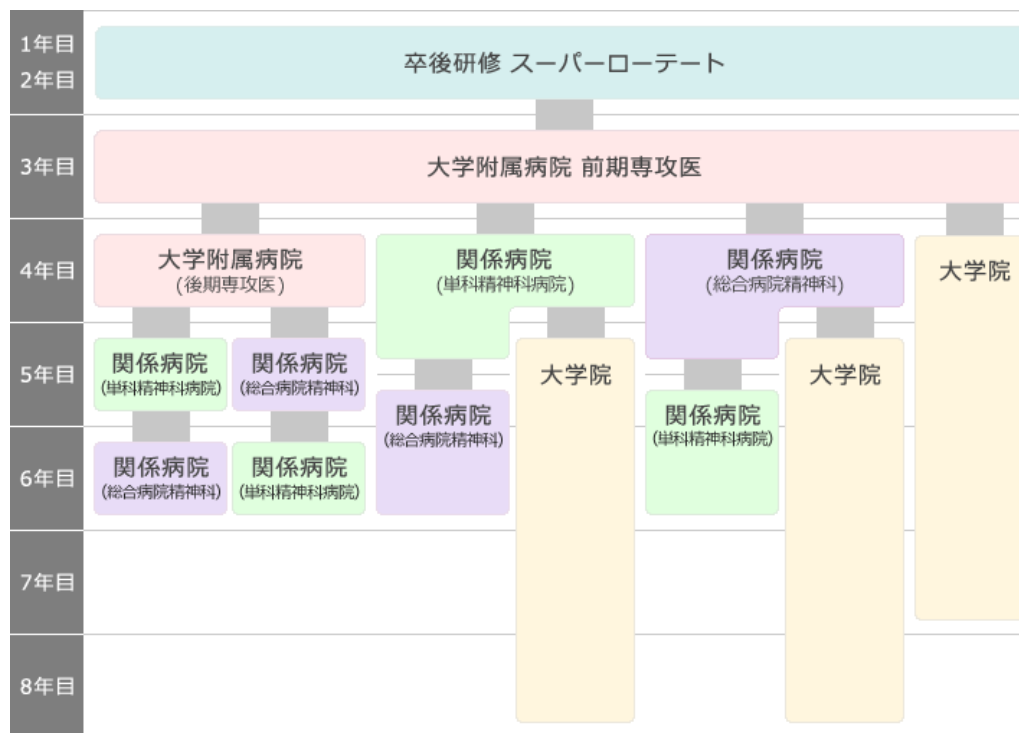


2、スタッフ

教授	福居顯二
准教授	和田良久、上村 宏、山下達久（併任）
講師	成本 迅、西村伊三男、土田英人（併任）
学内講師	中前 貴、羽多野 裕、松岡照之、富永敏行（併任）、吉井崇喜（併任）
助教	酒井雄希、水原祐起、西澤 晋、中村佳永子（併任）、中前知里（併任）
臨床心理	加藤佑佳、小川真由、岡部佳世子、南里裕美
大学院生	中村光男、永原優理、綾仁信貴、南澤淳美、藤本 宏、阿部能成、渡辺杏里
後期専攻医	飯田直子、後藤香奈子、駒喜多由紀、柳澤仁美、金子まりん、神崎敦博、 桑原明子
前期専攻医	今井 鮎、大矢 希、内藤英人

3、研修プログラムの概要

前期専攻医・後期専攻医・大学院を含む専門医コースの概要をいくつかのパターンで下記に提示します。あくまで、原則ですので、卒後3年目以降に他の臨床研修指定病院（総合病院や協力型単科精神科病院）で勉強をされた後、途中からこのコースに参加される方や、新医師臨床研修制度以前の医師（精神科医、他診療科医）についても、後期専攻医として募集いたします。



4、研修プログラムの特徴

特に臨床経験の点については、オールラウンドに患者さんを診察できる臨床の場を提供し、将来それぞれ興味のある分野における専門医の育成をめざしています。

精神科臨床における専門医等の資格については、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医の取得を優先に考えています。並行して日本精神神経学会・日本総合病院精神医学会・日本心身医学会・日本老年精神医学会・日本児童青年精神医学会・日本臨床精神神経薬理学会（以上、研修施設として認定済み）の専門医・指導医等の資格取得も可能です。

5、応募問い合わせ先

前期・後期専攻医、いずれについても、お問い合わせは下記にお願いします。
見学ご希望や入局に関してさらに知りたい点などもお気軽にご相談ください。

担当：和田 良久、西村 伊三男

Email : psyche@koto.kpu-m.ac.jp TEL : 075-251-5612

40.関西医科大学 精神神経科学教室

Department of Neuropsychiatry, Kansai Medical University

〒570-8507 守口市文園町 10 番 15 号

TEL: 06-6992-1001(代)

医局長：高瀬、秘書：近藤

E-Mail: kmupsychiatry@yahoo.co.jp

1、教室の特徴

本学の特徴として、①臨床部門では、一般外来だけでなく「もの忘れ外来」や「うつ病外来」など幅広い専門外来を開設しています。また大規模デイケアを中心とした精神科リハビリテーション部門を有しており、急性期から回復期、さらに社会復帰までを一貫して経験することが可能です。また総合病院における精神科での入院治療として、精神科疾患だけでなく身体合併症を有する精神疾患症例や、他科で入院治療を受けている症例に対するコンサルテーションリエゾン医療、救命救急センターへの精神科医常駐など、複数科と連携した治療を経験することが可能です。また麻酔科と連携した修正型電気けいれん療法も施行しています。

②研究部門では、ニューロフィジオロジー（神経生理学）、臨床薬理・ゲノム薬理、ニューロイメージング、老年精神医学、うつ病・気分障害、薬剤性ジストニア、精神療法の各分野について臨床研究を行っており、国内でも有数の水準にあります。



2、スタッフ

教授	木下利彦
准教授	奥川学、加藤正樹
講師	高瀬勝教、吉村匡史
助教	織田裕行、齊藤幸子、西田圭一郎、藤山雅晴、三井浩、北浦祐一
病院助教	板東宏樹、坂井志帆、鈴木歩、吉野真紀、村田知康、諏訪梓、許全利
医員	青木宣篤、浅田昌照、宮脇敦子
大学院生	高野悟史、越川陽介、松田達也、砂田尚孝
臨床心理士	岡村宏美、竹中紫織、斧原藍
精神保健福祉士	鈴木美佐、山田妃沙子、村上貴栄
作業療法士	山本敦子、高野隼

3、研修プログラムの概要

	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
例1	大学病院勤務		精神科病院勤務		大学病院勤務		
例2	大学病院勤務	精神科病院勤務	大学院				海外・国内留学
例3	大学病院勤務		精神科病院勤務		救命救急センター勤務		大学病院勤務
例4	大学病院勤務	大学院				精神科病院勤務	
例5	大学病院勤務		精神科病院勤務				

これら以外にも希望に応じ柔軟な対応をしています

3・4年目は大学病院で研修を行い、精神科全般の知識・技術を習得し、4・5年目に単科精神科病院にて症例経験を積むことで、精神科専門医・精神保健指定医の取得が可能です。5・6年目以降は大学院での研究や、精神科病院勤務などそれぞれの進路を選択していくことになります。

4、研修プログラムの特徴

精神科病棟入院主治医・担当医、初診外来や各専門外来の陪席、コンサルテーションリエゾン医療、修正型電気けいれん療法、デイケア、作業療法、緩和ケアなどの研修を通して臨床経験を積んでいくことが可能です。入局後まずは、各専門医による集中講義を含む、プログラム中の医師が病棟の主治医を務める際は、各担当患者に指導医が付き、チームとしてもフォローする体制をとっています。毎週月曜日に医師、臨床心理士、作業療法士、精神保健福祉士を含めた全体カンファレンスがあり、さらに薬物療法、精神療法、検査法などについて個々の研修医に対してきめの細かい指導を行う病棟チームカンファレンスがあり、さまざまな疑問や問題を解決し得る体制を整えています。

医局会や抄読会をはじめ、実践的薬物治療勉強会、精神療法勉強会、神経科学勉強会、補完医療研究会などから、最新の知見や知識を常に吸収することが可能な環境となっています。

上記の研修は以下の資格・専門をもった医師が指導しています。精神保健指定医、精神科指導医・専門医（日本精神神経学会）、日本臨床精神神経薬理学会指導医・専門医、一般病院連携精神医学指導医・専門医、日本緩和医療学会精神腫瘍学の基本教育に関する指導医、日本老年精神医学会指導医・専門医、日本認知症学会指導医・専門医、日本児童青年精神医学会認定医、日本性機能学会専門医、日本救急医学会救急科専門医、日本臨床神経生理学会脳波分野認定医、セックス・セラピスト、認知症サポート医。

5、応募問い合わせ先

当教室の入局説明会（例年8月初旬、H26年度は8月1日）を実施し、大学病院全体の研修説明会でも応募を受け付けております。関西医科大学精神神経科教室のホームページ（詳しくは「関西医科大学精神神経科」で検索）、関西医科大学卒後臨床研修センターのホームページにより詳しい説明があります。また見学、実習なども随時受け付けており、病棟、外来、カンファレンスなど希望にあわせて見学が可能です。上記メールアドレスにお問い合わせ下さい。

41.大阪医科大学 総合医学講座神経精神医学教室

Department of Neuropsychiatry, Division of Comprehensive Medicine, Osaka Medical College

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

TEL: 072-683-1221 FAX: 072-683-4810

教室のメール: psy044@poh.osaka-med.ac.jp

1、教室の目指している方向

大阪医科大学神経精神医学教室は、伝統的な臨床精神医学を基礎として、プライマリケア精神医学と地域の基幹総合病院精神科としての総合（大学）病院精神医学を追究しています。精神疾患は、すべて生物－心理－社会－倫理的なモデルとして包括的にとらえることができ、診療、研究ではそれぞれの要素を関連付けながら考えてゆかなければなりません。例えば統合失調症は、遺伝子の関連した神経ネットワークの異常という生物学的基礎の上に、心理学的な要素や社会的な要因が加わって発症し、特有の経過をたどります。その診療にはそれぞれの要因に応じた対応が必要で、倫理的な配慮も必須です。精神科の専門医は、包括的に精神疾患を捉えた診療が行えるようになることが必須です。

私たち大阪医科大学神経精神医学教室では、基本的な診断や治療、社会復帰、予防について身につけ、さらに精神の健康について、広い視野からの精神保健の増進確保に寄与しうるリサーチマインドを持った精神科専門医の養成を目指しています。



2、スタッフ

教授 米田 博 Hiroshi Yoneda

准教授 康 純 Jun Koh

講師 金沢徹文 Tetsufumi Kanazawa

助教 花岡忠人 Tadahito Hanaoka、川野 涼 Makoto Kawano、
岡本洋平 Youhei Okamoto、西口昌樹 Masaki Nishiguchi、
堤 淳 Atsushi Tsutsumi、川茂聖也 Seiya Kawashige、
木下真也 Shinya Kinoshita、富樫哲也 Tetsuya Togashi

助教（准）山内 繁 Shigeru Yamauchi、中野友義 Tomoyoshi Nakano、
久保洋一郎 Youichirou Kubo

大学院生 樽谷精一郎(新阿武山病院) Seiichiro Tarutani、井出健太郎 Kentaro Ide
丸山惣一郎 Soichiro Maruyama、高橋麻友子 Mayuko Takahashi
岡山達志 Tatsushi Okayama、西澤由貴 Yoshitaka Nishizawa
小渡稚子(さわ病院) Wakako Odo、豊田勝孝 Katsutaka Toyoda

レジデント

高橋麻友子 Mayuko Takahashi、田中こゆき Koyuki Tanaka
岡山達志 Tatsushi Okayama、西澤由貴 Yoshitaka Nishizawa

3、研修プログラムの概要と特徴

初期研修修了後精神科医を目指す方々には、さらに専門的な診療経験をつめるようなプログラムを用意しています。このなかには大阪医科大学ばかりでなく、多くの関連医療機関も含めて幅広く臨床経験がつかえるように考えており、精神神経学会専門医や精神保健指定医など精神科医としての資格を取得することができます。具体的には後期レジデントとして入局した年度は、閉鎖病棟 40 床を有する大学病院で今後の長きに渡る臨床業務のエッセンスを身に付ける時期に位置されます。またこの時期には研究会や学会での発表、ならびに論文執筆を通じて、学問的な営みの基礎を身につけます。その翌年には大阪を中心とした関西地方に位置する関連病院にて臨床経験を積み、精神保健指定医の取得を目指します。研究面では、最近では後期レジデント初年度に大学院に入学する方が主となっています。遺伝・分子遺伝学、睡眠（臨床、基礎研究）、てんかん、児童思春期疾患、性同一性障害（GID）、認知症などの研究グループがあり、生物学的、心理・社会的な研究を行っています。大学院生、研究生として研究し医学博士を取得することができます。また本学は、初期研修 2 年目から大学院に入学することが可能ですので、初期研修修了後 3 年で医学博士を取得することができます。

今世紀はこころの世紀といわれ、精神科医に対する期待がますます高まっています。多くの学生、研修医の方が精神科医を目指してほしいと願っています。

4、応募問い合わせ先

担当：医局長 康 純

TEL：072-683-1221

メールアドレス：psy044@poh.osaka-med.sc.jp

42.大阪市立大学大学院医学研究科 神経精神医学

Department of Neuropsychiatry, Osaka City University Graduate School of Medicine

〒545-8585 大阪府大阪市阿倍野区 1-4-3

TEL: 06-6645-3821 FAX: 06-6636-0439

卒後研修係 宮脇 大(みやわきだい) E-Mail: miyawaki@med.osaka-cu.ac.jp

1、教室の特徴

大阪市立大学医学部附属病院神経精神科は、本邦トップクラスの年間新患数を有する大規模な都市型精神科医療機関です。児童から老年期まで幅広い年齢層にわたって多彩な精神障害患者さんが受診されるのが特色です。そのため臨床経験を積むには最適の活気ある医局であると自負しております。

共に仕事をする仲間を募集しています。

<先日の医局会(毎水曜)後の1枚>



2、スタッフ

教授	井上幸紀
講師	岩崎進一、谷宗英、宮脇大、片上素久、山内常生、松田泰範、出口裕彦、日下博登
病院講師	田川亮
大学院生	15名 (1年4名、2年4名、3年5名、4年2名)
前期研究医	3名
後期研究医	1名
臨床心理士	2名
PSW	2名
教室秘書	2名

3、研修プログラムの概要

総合コース（医学博士課程）



基本コース



上記5年間の内、関連病院（単科精神科病院が主）の常勤および非常勤、大学病院病棟主治医（2年間）、大学病院一般外来担当医（1年間）などを通じての臨床研修指導を受けつつ、大学院での研修指導を受けます。期間内に医学博士および精神保健指定医、精神神経学会専門医を取得します。総合コースは主に大学病院で臨床と研究を両立しながら大学院にて医学博士号を取得するコースで、基本コースは主に精神科病院で臨床能力を高めつつ、どちらも精神保健指定医、精神神経学会専門医などの資格を取得してゆきます。

4、研修プログラムの特徴

大阪市立大学医学部附属病院は、病床数982床、外来診療科数31を有し、大阪市の主要ターミナル駅に隣接するという大学病院としては珍しい都市型総合病院です。

神経精神科は、職場のメンタルヘルス（産業精神保健）、認知症性疾患、緩和ケアなどリエゾン精神医学領域、うつ病などの気分障害、不安障害や統合失調症はもちろんのこと、摂食障害、多彩な児童・青年期精神障害などの広範な精神障害の外来および入院診療を行っています。これらの特徴を反映し、当科大学院生は在学中に精神保健指定医資格を全員が取得しています。

4、応募問い合わせ先

医局説明会および病院見学会を随時行っております。遠慮なく、お問い合わせください。

卒後研修係： 宮脇 大(みやわきだい) E-Mail: miyawaki@med.osaka-cu.ac.jp

43.大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室

Department of Psychiatry, Osaka University Graduate School of Medicine

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

TEL: 06-6879-3051 FAX: 06-6879-3059

卒後研修係 田中稔久准教授 E-Mail : tanaka@psy.med.osaka-u.ac.jp

1、教室の特徴

教室は今年創設 119 年を迎えます。多くの関連施設と共に関西の精神医学・医療の中心的役割を担ってきた教室であり、関連施設の多さでは国内有数の教室です。これまでの入局者はおおよそ学内から半数、学外から半数であり、600 名以上の同門会の人脈は大きな力となっています。教室では広く脳と心のサイエンスに取り組んでおり、海外からの留学生も含めて世界をリードする研究成果を生み出しています。



2、スタッフ

教授	武田雅俊(科長)、工藤喬 (保健センター所属)、水田一郎 (保健センター所属)
准教授	田中稔久(医局長)、三上章良(保健センター所属)、足立浩祥(保健センター所属) 橋本亮太(子供のこころの分子統御機構研究センター所属)
講師	数井裕光(病棟医長)、大河内正康(外来医長)、岩瀬真生
講師(医学部)	田上真次、石井良平、森原剛史
助教	小笠原将之、我妻莊、吉山顕次、谷向仁(オンコロジーセンター所属) 壁下康信(保健センター所属)、山森英長(分子精神神経学寄付講座所属) 林紀行(生体機能補完医学講座所属)
医員	藤本美智子、金山大祐、吉田哲彦、更家由梨
大学院生	青木保典、近江翼、丸山大輔、野村慶子、清水芳郎、水田直樹、畑真弘、鐘本 英輝 谷口謙、福所 (熨斗) 英里子、池田俊一郎

3、研修プログラムの概要と特徴

A:精神科専門医・精神保健指定医コース（臨床医基本コース）

[阪大病院](#) (1 年) → [基幹総合病院精神科](#) (1 年) → [精神科病院](#) (1 年) → [精神科専門医・精神保健指定医](#)
3 年間で 3 つの施設に勤務し、精神科専門医・精神保健指定医の取得に必要な症例経験を積みます。研修施設の順序は応相談ですが、最初に阪大病院で研修を行うことが望ましい。

B:日本老年精神医学会専門医・日本認知症学会専門医取得コース（老年精神医学コース）

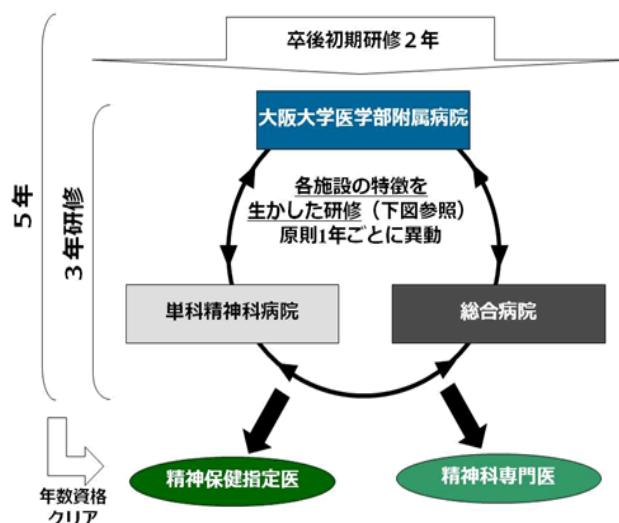
[阪大病院](#) (4 年) → 学会認定機関 (1 年) → [日本老年精神医学会専門医](#)

C: 児童青年期精神医学会認定医取得コース（児童思春期精神医学コース）

[阪大病院](#) (1 年) → [子どものこころの発達研究センター](#) (4 年) → [児童青年期精神医学会認定医](#)

D:医学博士取得コース（研究志向コース）

[大学院](#) (4 年) → 医学博士取得



4、本施設における研修の特徴

阪大病院では、主治医として診療を行い、指導医による親切的な指導、カンファレンスにおける診断・治療の検討や、上級医師による定期的な個別の指導に加え、精神科各分野のスペシャリストによる教育を受けることができます。精神科外来、入院、他科へのリエゾン往診などの場において、精神科の全分野にわたって高度なレベルで精神科専門医研修を受けます。大学病院は開放病棟と閉鎖病棟をもつ総合病院であることから様々な疾患における精神症状を経験することができます。精神療法、薬物療法、画像診断、脳波、精神病理、精神科リハビリテーション、最新の神経科学、高次機能障害学（神経心理学）観点からの疾患の理解について広範かつ統合的に理解することにより、オールラウンドに専門知識を有する精神科専門医となることを目指します。

5、応募問い合わせ先

卒後研修係：田中稔久准教授 E-Mail：tanaka@psy.med.osaka-u.ac.jp

一次募集 応募期間：平成 25 年 7 月 1 日～8 月 2 日（金）筆記試験・面接日：8 月 10 日（土）

二次募集 応募期間：平成 25 年 10 月 1 日～11 月 22 日（金）筆記試験・面接日：11 月 30 日（土）

44.近畿大学医学部 精神神経科学教室

Department of Neuropsychiatry, Kinki University Faculty of Medicine

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

TEL : 072-366-0221 FAX : 072-367-6950

教室代表メールアドレス : seisin@med.kindai.ac.jp

教室の特徴



近畿大学医学部精神神経科教室は 1974 年に開講した比較的歴史の浅い教室ですが、自由闊達な気風を大切にしています。教室員の平均年齢も若く、のびのびとスキルアップしていける環境です。

診療では、精神疾患全般を幅広く扱っていますが、特に

(1) 双極性障害（躁うつ病）

(2) 児童思春期精神障害

について、専門性の高い診療に取り組んでいます。

研究では、

(3) 光トポグラフィー検査を中心とした神経画像学

(4) 遺伝子薬理学

について、積極的に取り組んでいます。

光トポグラフィー検査を中心とした神経画像学では、先進医療「光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」を西日本で最初に開始した医療機関として、鑑別診断にとどまらず光トポグラフィー検査を用いた精神症状・精神疾患の客観的評価法の開発に取り組んでいます。また、精神病圏の病態解明を目指して、精緻な臨床評価とともに向精神薬の効果を手がかりにした遺伝子薬理研究を立ち上げています。

スタッフ

教授 白川治

准教授 岡田章（奈良病院メンタルヘルス科）

講師 切目栄司（医局長）、辻井農亜（病棟医長）

医学部講師 柳雅也、船津浩二（外来医長）、高屋雅彦

助教 明石浩幸、原田毅、池田真優子、安達融、川久保善宏、阪中聡一郎、廣瀬智之、矢野貴詩

大学院生 三川和歌子、川久保善宏（社会人）、廣瀬智之（社会人）

臨床心理士 丹羽篤、兵頭俊宏（非常勤）、木口かおり（非常勤）

精神保健福祉士 和田照平

研修プログラムの概要

入局 1 年目は大学病院で上級医からマンツーマンの指導を受け、精神科医としての最低限の技量を身につけます。2 年目以降は、主に研究（主に、臨床研究）を希望すれば大学院進学か、大学病院および関連精神科病院での後期臨床研修を行います。教室が精神保健指定医や精神科専門医の取得を全面的にバックアップしており、特に精神保健指定医については関連精神科病院の協力のもと、卒後最短 5 年間で取得できるプログラムを組んでいます。

医師 1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	7 年目	8 年目	9 年目
初期研修(2 年間)	大学病院			精神科病院	→専門医、精神保健指定医取得へ			
初期研修(2 年間)	大学病院	精神科病院	大学病院	→専門医、精神保健指定医取得へ				
初期研修(2 年間)	大学病院	大学院					精神科病院	大学病院
初期研修(2 年間)	大学病院	大学院					大学病院	精神科病院

研修プログラムの特徴

当教室では気分障害、神経症性障害、児童思春期精神障害、認知症を中心に、比較的軽症の精神疾患（非精神病圏）を幅広く・数多く診療することが可能です。その柱となるのが「外来診療」であり、当院のメンタルヘルス科では、「気分障害」「神経症」「児童思春期精神障害」「認知症」などを対象にした臨床、研究には最適な場といえるでしょう。また、軽症精神疾患の診療機会が豊富であるため、将来開業を考えている医師にとっても不可欠な臨床経験を積むことができます。

専門的な診療としては、気分障害、児童思春期精神障害の専門外来が活発で、その他、救命救急センターにおける自殺企図者への対応、緩和ケアチームでの活動など、総合病院ならではのさまざまな臨床経験ができるのも特徴です。また、先進医療「光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」を西日本で最初に開始した医療機関として、保険診療となった現在も引き続き多くの鑑別診断を行っています。

地域の中核的な精神科病院との連携も強く、精神病圏の臨床にも事欠くことはありません。精神保健指定医や精神神経学会専門医を目指すための症例を経験できるのはもちろん、十分な臨床経験を積み、バランスのとれた精神科医として成長できるよう教室がバックアップしています。大学ならではの特征として他大学との交流や学会出席・発表も活発で、今後の専門性を確立していく場としても活用できます。

応募問い合わせ先

精神医学・精神科医療の新しい力を生む活躍の場として、私たちとともに、熱意と創意をもって診療・研究・教育に取り組んでみませんか。医学部生や初期研修医で将来精神科を考えている方を対象に、随時、研修説明会を行っています。詳しくは下記まで気軽にお問い合わせください。

近畿大学医学部精神神経科学教室

医局長 切目栄司

教室代表メールアドレス：seisin@med.kindai.ac.jp

〒589-8511 大阪狭山市大野東 377-2

TEL: 072-366-0221 内線 3285

FAX: 072-367-6950

45.和歌山県立医科大学 神経精神医学教室

Department of Neuropsychiatry, Wakayama Medical University

〒641-0012 和歌山県和歌山市紀三井寺 811-1

TEL: 073-441-0659 FAX: 073-444-8001

1、教室の特徴

当教室は昭和 20 年に創設された和歌山県立医学専門学校に始まり、平成 15 年 6 月より篠崎和弘が第五代教授として教室を主宰している。

日本精神神経学会精神科専門医制度における研修施設として、精神科のプライマリーケアから高度の専門的医療を学べる環境を有している。認知行動療法、うつ病リワーク、ECT、磁気刺激治療などを行っている。

和歌山の 4 つの公的基幹病院と医局は強い結びつきのもと、後期研修医の教育、専門医・指定医の取得をサポートしている。



2、スタッフ

教授	篠崎和弘
准教授	鵜飼 聡
講師	辻富基美
助教	小瀬朝海、山本眞弘、坂本友香、高橋 隼
学内助教	山田信一、大沢恭子、上西真也、喜多 彬、前場彩香
臨床准教授	宮本典亮、今出 徹
非常勤講師	宮西照夫、郭 哲次
大学院生	山田信一、武用百子、津田久美、里神和美、龍神歩美、喜多 彬、大星裕司

3、研修プログラムの概要

プログラムの1例

課題	1年目 大学病院	2、3年目 総合病院精神科	4、5年目 公立精神科病院
臨床(主治医)	病棟(月5名～10名)	病棟・外来	病棟・外来
診断と治療計画	週2回の回診と検討会で研修		
各種検査	検査コース全3回		
薬物療法・ECT	薬物療法・ECTコース5回		
精神療法	精神療法トレーニング10回		
地域精神医療	リワークに従事 保健所「こころの相談」	気分障害の疾患教育	統合失調症の疾患教育 保健所等非常勤
精神科救急	当直業務	当直業務	当直業務
リエゾン	せん妄対応、緩和ケア参加	リエゾン診療 緩和ケアチームに参加	
法と精神医学	行動制限最小化委員会研修会	精神保健指定医レポート作成 専門医レポート作成	精神保健指定医レポート個別 指導会
その他	児童精神医学コース2回 老年精神医学コース2回 てんかん研修コース2回	地方会などで症例発表	地方会などで症例発表 看護学校精神科講義担当

4、研修プログラムの特徴

1) 指定医、専門医の資格取得とサポート

必要な症例が研修できる病院への研修ローテーションシステム
医局主催の個別指導会を実施

2) ニーズに合わせた柔軟な研修プログラム

一般臨床コース

大学院コース

国内外留学をサポート（専門分野：認知行動療法 児童精神医学 老年精神医学 てんかん 司法精神医学）

3) 充実した大学病院精神科での研修

- ① 臨床精神医学の基礎を学ぶ：症例カンファレンス、後期研修医勉強会
- ② 専門領域を学ぶ：精神療法、児童精神医学、てんかん、リワーク、ECT、磁気刺激療法
- ③ 大学院研究：電気生理グループ、機能画像グループ、精神療法グループ

5、応募問い合わせ先

お問い合わせはこちらをお願いします。

担当：小瀬 e-mail: akose@wakayama-med.ac.jp

46.神戸大学大学院医学研究科 精神医学分野

Department of Psychiatry, Faculty of Medical Science, Kobe University Graduate School of Medicine

〒650-0017

兵庫県神戸市中央区楠町 7-5-1

Tel.: 078-382-6065; Fax: 078-382-6079

E-mail: psychiat@med.kobe-u.ac.jp

1、教室の特徴

沿革

昭和 25 年、兵庫県立病院光風寮(現・兵庫県立光風病院)院長の矢野顕治が、兵庫県立医科大学精神神経科初代教授に就任し、当教室は開設された。矢野顕治は光風寮院長と教授を兼任し、兵庫県立医科大学学生への講義および外来診療を開始し、入院診療は光風病院において行っていたが、その後、教育基本法・学校教育法により兵庫県立医科大学が新制兵庫県立神戸医科大学となった。その後、矢野顕治教授の設計によって精神科病棟「清明寮」が開棟し、大学病院での入院治療とその研修が可能となった。昭和 34 年に黒丸正四郎が第 2 代教授に就任。昭和 39 年から開始された神戸医科大学の国立移管に伴い、精神神経科教室も国立移管され、昭和 41 年に神戸大学医学部精神神経科学講座となった。昭和 55 年に中井久夫が第 3 代教授に就任。中井教授が中心となって設計された新清明寮が、平成 6 年に開棟した。中井教授が在任中の平成 7 年 1 月 17 日未明、阪神淡路大震災が起こり、新清明寮には内外から多数の精神科医が集結し、被災地の精神保健活動に奔走した。平成 10 年に前田潔が第 4 代教授に就任。平成 12 年に大学院医学研究科の部局化により、神戸大学大学院医学系研究科精神医学分野となり、さらに平成 16 年には国立大学法人法の施行に伴い「国立大学法人神戸大学」となった。平成 25 年に曾良一郎が第 5 代教授に就任し現在に至る。

現在の精神科病棟（清明寮）は平成 6 年(1994 年)に完成。中庭（ライトコート）を配し、「良好な入院環境は精神科における最も重要な治療手段である」という考えに基づき中井久夫を中心に設計された。県下の総合病院精神科で閉鎖病棟を有する数少ない施設として、また、多彩な外来患者を反映して、統合失調症、気分障害、老年期精神障害、児童思春期精神障害、身体合併症を有する精神障害などの患者様を幅広く受け入れている。

2、スタッフ

教授 曾良一郎(診療科長)
准教授 田中 究(診療科長補佐)
講師 山本泰司(外来医長)
菱本明豊
助教 田宮裕子(病棟医長)
笹田徹(医局長)、青山慎介
毛利健太郎、白岩恭一

医員 7 名（大学院生を含む）

専攻医(前期・後期) 4 名

上記の他に卒後臨床研修医（長期ローテーターを含む）が常時数名おり、屋根瓦方式で上級医より指導を受けている。



3、研修プログラムの概要と特徴

◆ 大学病院—関連病院研修コース

大学病院では一般的な精神疾患患者の診療を経験する。大学病院の特徴からコンサルテーション・リエゾン精神医学、統合失調症、気分障害、不安障害、老年期精神疾患、児童思春期精神疾患、身体疾患を抱える精神科患者などを多く経験する。3（4）年目には主として入院患者を上級医とともに診療する。4（5）年目には外来を担当し、病棟においては指導医として研修医および3年目医師の指導に当たる。また外来診療、コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケアの経験も可能であり、本人の希望で特に認知症、児童思春期などを主体とする研修も可能である。県下の関連の精神科専門病院（県立光風病院等）での研修は主として、入院患者の診療に当たる。入院患者は一般的な統合失調症、気分障害のほかにアルコール関連障害、精神鑑定事例、医療観察法関連症例などが経験できる。また、他職種による社会復帰活動、精神科リハビリテーションなどの心理社会的関わりについても研修する。関連の総合病院（日本精神神経学会専門医研修施設）では、外来診療を中心に、コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケアについての専門性の高い研修を受けることが可能である。希望者は、その後2年間、さらにサブスペシャリティ養成（老年精神医学会専門医、児童青年精神医学会認定医等の取得を目標とする）のための Extended program を選択することができる。

当科における一般的な研修コース例

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
Aコース	卒後初期研修 (精神科長期ローテートも可能)		大学病院	精神科病院 (県立光風病院)	大学病院 精神科病院 (県立光風病院) 総合病院	Extended program	
Bコース	卒後初期研修 (精神科長期ローテートも可能)		精神科病院 (県立光風病院)	大学病院	精神科病院 (県立光風病院) 総合病院	Extended program	
Cコース	卒後初期研修		大学病院	総合病院	精神科病院 (県立光風病院)	Extended program	

◆ 学位取得コース

精神科研修終了後、大学院に入学し学位取得を目指す（分子精神医学、児童思春期精神医学、老年精神医学、統合失調症研究グループが活動している）。

4、本施設における研修の特徴

精神科病棟は一般病棟とは独立した病棟であり、定床 44 床（個室 8 床、2 床部屋 1 室、4 床部屋 8 室、隔離室 2 床）を有する男女混合閉鎖病棟である。当科では統合失調症、気分障害、認知症、児童思春期の精神医学的問題などを対象とし、各領域の専門医を養成することを目指している。また、大学病院という特性から、他科よりのニーズも高く、コンサルテーション・リエゾンチーム、緩和ケアチームによる診療活動も行なっている。

◎プログラムの目的と特徴

- ・精神科臨床を心理、社会、生物学的側面から総合的に捉え、適切に対応できることを目的とする。
- ・後期研修期間は 3 ないし 5 年間である。
- ・研修期間中は神戸大学医学部附属病院および関連病院において、精神科としての専門性の高い研修を行う。
- ・研修終了後は、精神保健指定医および日本精神神経学会専門医の資格を得るための指導を行っている。
- ・精神症候学、精神病理学の読書会、精神医学セミナー等の教官による定期的レクチャーを開催し、精神科の専門知識を習得できるように配慮をしている。
- ・精神科に関心を持つ学生、初期研修医を対象に、サマーセミナーを企画している（本年 8 月 2 日～3 日開催）。

5、応募問い合わせ先

例年 12 月頃に入局試験を行なっている（面接、筆記試験）。

9 月 27 日（金）に第二回入局説明会を予定。

入局説明会の詳細は当科ホームページに近日中に公開。

<http://www.med.kobe-u.ac.jp/psyneu/>

担当： 白岩 恭一、笹田 徹

Tel.: 078-382-6065; Fax: 078-382-6079

E-mail: psychiat@med.kobe-u.ac.jp

47.兵庫医科大学 精神科神経科学講座

Department of Neuropsychiatry Hyogo College of Medicine

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町 1-1

TEL: 0798-45-6051 FAX: 0798-45-6053

卒後研修担当：清野仁美 hitomi-s@hyo-med.ac.jp

1、教室の特徴

当教室は、大阪から約 15 分、神戸から約 20 分、甲子園に近い西宮に位置しており、都市型大学病院の精神科である。現在は、大学院生を含め、20 名ほどから構成されている。子育てをしながら働く女性医師も多い。現在院生は 7 名在籍しており、強迫関連障害や不安障害、うつ病などの臨床研究を中心に、産後精神病に関するもの、うつ病動物モデルを使ったもの、認知症の薬理学的研究、精神免疫、神経病理学的研究など幅広く、学会活動も活発に行っている。特に強迫関連障害の臨床や研究に関しては、国際的にも高く評価され、国内ではリーダー的な存在である。スタッフは 30 歳代が中心で、医局は若々しく、明るく活気に溢れている。フレンドリーで自由な雰囲気ではあるが、レジデントや院生の研究・臨床などの教育に関しては、厳しくも温かくきめ細やかな指導を心掛けている。関連病院も多く、アルバイトなど大学外の研修も希望すれば機会は多く与えられる。研修終了後の進路は、留学なども含め個々のニーズや希望にできるだけ沿えるように配慮している。



2、スタッフ

主任教授	松永寿人
臨床教授	湖海正尋
助教	林田和久、清野仁美、山田 恒、前林憲誠、西井理恵 宇和典子、吉村知穂
病院助手	岩本行生、中嶋章浩、向井馨一郎、柳澤嘉伸、下村憲司
レジデント	日下部 新、橋本 彩、宮内雅弘
大学院生	三戸宏典、有川綾子、山西恭輔、本山美久仁

3、研修プログラムの概要

本研修では、外来における予診、陪席及び診療、病棟における診療、症例検討会、身体科からの依頼による診療等を通し、以下の4点を習得します。

1. 精神保健指定医（以後、指定医）、専門医、認定医の取得のために必要な症例を経験し、指導を受けながら必要な知識を身に付けます。
2. 精神保健福祉法を理解し、指定医、専門医、認定医になるための知識を身に付けます。
3. 精神保健や医療を必要とする患者とその家族に対して全人的に対応するために必要な知識を習得します。
4. 身体合併症を持つ患者に対し、身体科との連携を取り総合的な治療方針を立てられることを習得します。

【レジデントカリキュラム（卒後3年目）】

1年を通じ、外来においては主任教授、准教授等の診察に陪席し診察の基本、内服薬の処方等について研修します。病棟においては指導医、上級医の指導の下、入院患者の担当主治医となります。さらに大学院へ入学し学位を取るための研究を行う事もできます。その場合、指定医、専門医、認定医の取得に際して不利にならぬよう配慮されます。

【病院助手カリキュラム（卒後4年～5年目）】

卒後4年目以降は、上級医・指導医と共に入院患者を担当すると同時に外来診療を開始し、より実践的に精神科医療の流れを組み立てるための研鑽を積みます。その間に兵庫県または大阪府内の関連病院にて非常勤医師として週1日勤務します。

卒後5年目以降は、上記業務に加えて、精神保健指定医取得に向けてのレポート指導や、日本精神神経学会精神科専門医取得のための過去出題例の検討など全般的な指導を重ねていきます。

【卒後6年目以降の体制】

大学院にて研究を行いながら、レジデント・研修医の臨床・研究について指導にあたります。大学院に進学をしない場合は院内のポストを得て、指導にあたります。また、関連病院の常勤医として勤務することもできます。

4、研修プログラムの特徴

兵庫医科大学精神科神経科は精神科疾患全般の診断、薬物療法、精神療法に幅広く対応するだけでなく、大学病院の特色を生かし、リエゾン精神医学を修得することができます。閉鎖病棟を有しているため、精神保健指定医の取得に必要な症例の入院治療も経験することが可能であり、外来患者数も多いため、精神科外来治療の基礎を学ぶことができます。教室の研究分野は強迫性障害、アルツハイマー型認知症であり、臨床に基づいた研究をおこなっています。強迫性障害の入院治療、認知行動療法の実際を学ぶことが可能です。

5、応募問い合わせ先

清野 仁美 TEL : 0798-45-6051



48.鳥取大学医学部 脳神経医科学講座 精神行動医学分野

Division of Neuropsychiatry, Department of Brain and Neuroscience, Faculty of Medicine, Tottori University

〒683-8504 鳥取県米子市西町 36-1

TEL: 0859-38-6547 FAX: 0859-38-6549

鳥取大学精神科代表メールアドレス seisin@med.tottori-u.ac.jp

鳥取大学精神科ホームページ <http://psychiatry.med.tottori-u.ac.jp>

1、教室の特徴

本教室は故下田光造初代教授により昭和 20 年 9 月に官立米子医学専門学校精神医学講座として開講された。下田は、我が国におけるうつ病の病前性格として世界に先駆けて「執着気質」を発表し、我が国の精神医学界に大きな足跡を残している。

その後長年にわたり、当教室は山陰地方の精神科医療の中核を担い、多くの人材を輩出し、研究成果を残している。現在第 8 代教授である兼子幸一のもと、地域に根差した精神科医療サービスの提供と、臨床・基礎研究を行っている。



2、スタッフ

教授	兼子幸一
講師	岩田正明
助教	佐竹隆宏（医局長）、松村博史（病棟医長）、杉江拓也（外来医長） 長田泉美、山内崇平、横山勝利、三浦明彦
医員	中島知行、新 雅史、大立博昭、梶谷直史、木下智裕
大学院生	板倉征史、山梨豪彦、正井三枝子
研究員	朴 盛弘

3、研修プログラムの概要

鳥取大学卒後臨床研修のプログラムで、平成 26 年度精神科プログラムとして、初期臨床研修で精神科を中心にローテーションするプログラムがある（下表参照）。

精神科プログラム(例)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
一年次	精神科 3 ヶ月			内科 6 ヶ月						救急 3 ヶ月		
二年次	地域医療 1 ヶ月	産婦人科 1 ヶ月	小児科 1 ヶ月	精神科 7 ヶ月							自由選択	

初期研修修了後、当科または関連病院で、精神科専門医や精神保健指定医の資格取得に必要な精神科臨床経験を積むことが可能です。希望されれば、大学院博士課程への進学や、国内・海外を問わず留学を行うこともできます。

4、研修プログラムの特徴

山陰地域の精神科中核病院として、幅広い疾患、年齢層に対応できる精神科医の育成を目指します。大学病院として専門性の高い医師（気分障害、統合失調症、発達障害、認知症、緩和ケアなど）による指導が受けられます。病棟ではチーム制による複数主治医体制を取り、経験豊富な指導医の下で初期研修医から積極的に治療に関わることが出来ます。週に一回、教授回診で症例検討を行い、様々な専門的立場からの視点で症例をみることで、より深く多層的に精神科臨床をとらえる経験が得られます。

鳥取大学医学部附属病院では「脳とこころの医療センター」として脳神経外科、脳神経内科、脳神経小児科、精神科の 4 科が外来に集約しており、これら脳神経を扱う 4 科が連携して治療にあたることで、幼小児期から老年期まで幅広い年齢層・疾患、一貫した治療を経験することが出来ます。4 科合同で症例検討会を定期的開催しており、精神科単独では得られにくい知識を得る機会となっています。

また医学系研究科の中では全国で初めて誕生した臨床心理学の大学院が学内にあり、薬物療法と心理療法の併用といった治療の連携を図るとともに、認知行動療法などが研修可能です。



教授回診



基礎研究の様子

5、応募問い合わせ先

医局・病棟見学など、随時行っていますので、メール・電話にて連絡ください。

鳥取大学精神科 担当：佐竹 隆宏（さたけ たかひろ）（医局長）

医局 0859-38-6547 seisin@med.tottori-u.ac.jp

Facebook もやっています <https://www.facebook.com/toridai.seisin>

鳥取大学附属病院 卒後臨床研修センター 0859-38-7025 sotsugo@med.tottori-u.ac.jp

49.岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 精神神経病態学教室

Department of Psychiatry, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2丁目5番1号

TEL:086-235-7242 FAX:086-235-7246

医局長 井上真一郎 E-mail: shin0117soccer@yahoo.co.jp

1. 教室の特徴

岡山大学の精神科神経科は、1904（明治37）年に開講し100年をこえる歴史と伝統のある教室です。こうした歴史と伝統を踏まえ、時代の要請に対応するため以下の理念と方針を掲げました。研修医の皆さんには、まず精神科医の基本を習得していただきたいと思います。

【基本理念】

生命に向き合う精神医学、開かれた精神医療
温かい医師の育成に取り組む。

【基本方針】

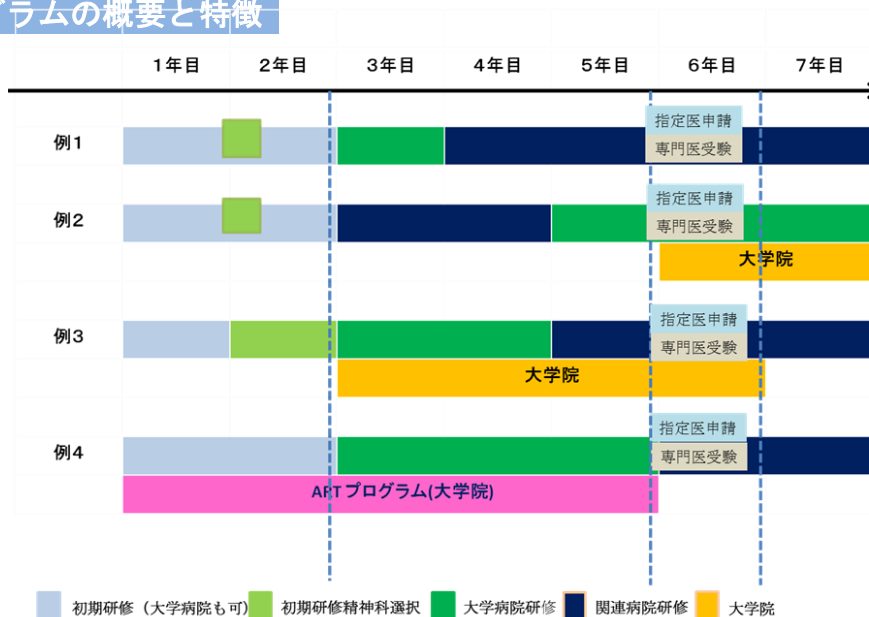
- (1) 統合失調症、気分障害、認知症などの臨床
研修を通して温かい医療者の人間性を涵養する。
- (2) 精神科医の基本と専門性を確立する。
- (3) 患者・家族・市民の多様なニーズに対応する
医療を創造する。
- (4) 高度先進医療を行う。
- (5) 岡山から独創的研究を世界に発信する。
- (6) 研究プロジェクトリーダー
(Principal Investigator) を養成する。



2. スタッフ

教授	内富 庸介	；うつ病、適応障害、精神腫瘍学、リエゾン精神医学、緩和医療
	大西 勝	；思春期疾患
准教授	寺田 整司	；認知症、老年期精神障害、器質性精神障害
	清水 幸登	；思春期疾患
講師	稲垣 正俊	；うつ病、適応障害、精神腫瘍学、自殺学
	松本 洋輔	；てんかん、嗜癖・依存、性同一性障害
助教	岡部 伸幸	；思春期疾患、リエゾン精神医学、緩和医療
	高木 学	；統合失調症、躁うつ病、臨床精神薬理学
	川田 清宏	；リエゾン精神医学、統合失調症
	井上 真一郎	；リエゾン精神医学、緩和医療、産業精神医学
	岡久 祐子	；統合失調症、うつ病、ゲノム精神医学
	大島 悦子	；認知症、老年期精神障害
	小田 幸治	；リエゾン精神医学、緩和医療
	流王 雄太	；大島 義孝 千田 真友子
	大学院生	酒本 真次、池田 智香子、樋口 裕二、藤原 雅樹、水木 寛、長尾 茂人、林 聡、林原 千夏、大宮 由紀、栗栖 海吏
	レジデント	竹之下 慎太郎、山下 理英子、中村 友紀子
心理職員	今井 奈緒、矢部 真弓、土山 璃沙、福島 倫子、嶋本 恵、大柳 貴恵	

3、研修プログラムの概要と特徴



岡山県内外に豊富な関連病院があり(岡山、広島、兵庫、山口、香川、愛媛、高知など)、大学病院と違った特色を持った病院(児童思春期、認知症、地域精神医学など)でも研鑽をつむことで、精神科医としての能力をさらに高めることができます。上記の例のように、個人の希望を最優先して教室内外が協力して、完全個別にプログラム作りを支援してゆくことになります。

4、本施設における研修の特徴

大学病院ならではの3つの側面があります。

① 大学病院

多くの各専門分野の指導者がおり、学問的思考・態度が身につく。

系統的な教育講義(エッセンスカンファレンス)があり、知識の整理に役立つ。

ゲノム、向精神薬の薬理作用、認知症の神経病理、各種臨床研究など、最先端の研究に触れることができる。

② 総合病院

外来患者が多様であり、多種多様な精神疾患が経験できる。

コンサルテーション・リエゾン診療が充実している(精神科内に精神科リエゾンチームがある)。

精神腫瘍学やがん患者への緩和医療にも重点的に取り組んでいる。

③ 精神科病棟

初期研修で経験すべき症例(common diseases)を中心に診療をしている。

高度・先端医療に触れることができる(mECT, rTMS, tDCSなど)。

丁寧で濃密な治療に参加できる(鑑別診断や治療についてのカンファレンスなどが盛ん)。

精神科専門医・精神保健指定医の取得が可能である。

5、応募問い合わせ先

医局長 井上真一郎 E-mail : shin0117soccer@yahoo.co.jp

随時受付いたしますので、ぜひご連絡下さい。

50.川崎医科大学 精神科学教室

Department of Psychiatry, Kawasaki Medical School

〒701-0192 岡山県倉敷市松島 577

TEL: 086-462-1111(医大代表) FAX : 086-464-1193(精神科実験室)

教室 Email: psy@med.kawasaki-m.ac.jp

1、教室の特徴

「リチウムの渡邊」と呼ばれた先代の渡邊昌祐教授の時代は生物学的な研究が盛んな教室でしたが、1997年に青木省三が教授となって以来は、児童青年期精神医学や精神療法をはじめとした臨床精神医学が中心の教室です。



2、スタッフ

青木省三主任教授

何と言っても思春期青年期精神医学、そして特定の流派ではない基本的な精神療法の権威です。精神療法は、特定の流派の「〇〇療法」以上に、全てに共通する基本的な精神療法が重要です。青木教授の診察を見学した学生や研修医の多くが「患者さんの困っていることや生活全般のことを丁寧に話していくだけのようで、専門的治療に見えないのですが、これが精神療法なのですね。感動しました」と言われます。精神療法は、本を読む、講演を聞く、症例提示して指導を受ける、などだけではなく、一緒に診察をして、議論をし、酒も飲む、という中で身体に染み付いていくものです。

山田了士教授

専門は、てんかんおよびリエゾン精神医学（特にサイコオンコロジー）ですが、青木教授とは別の視点から薬物療法や神経生理などの生物学的精神医学についての幅広い見識と、丁寧な指導力や細やかな臨床力を教室員は頼りにしており、身体と心の両面をバランスよく診ていく臨床は、若い精神科医のモデルとなっています。

石原武士教授（附属川崎病院所属）

川崎医大ができる母体となった岡山市にある附属川崎病院の所属で、専門は認知症ですが、統合失調症から境界例まで、難しい患者大勢をバリバリ診ている百戦錬磨の臨床家です。

澤原光彦講師：臨床精神医学全般が専門
村上伸治講師：青年期精神医学、精神療法が専門
宮崎哲治講師：行動療法が専門
北村直也講師（附属川崎病院所属）：臨床精神医学全般
末光俊介講師（附属川崎病院所属）：臨床精神医学全般
和辻健太講師：臨床精神医学全般
臨床助教：高橋優、吉村優作、竹中真理子
大学院生：原 正吾

3、研修プログラムの概要

川崎医大 1～2 年間、精神科病院 1～2 年間の後期研修 3 年間で精神保健指定医、および精神科専門医取得を目指します。精神科病院での研修は、いわゆる関連病院もありますが、それ以外に研修してみたい病院があれば相談に応じます。関連病院でも何でもないのでこれまで全く関係のなかった精神科病院を後期研修医が希望し、青木教授と共にそこへ話に行き交し、研修することになった例が幾例もあります。本人の希望を聞きながら、オーダーメイドの研修を考えます。

4、川崎医大における研修の特徴

川崎医大の後期研修の特徴は、精神療法の研修が充実していることです。学生時代から精神科志望の人、卒後研修のなかで精神科に興味を持った人も、精神療法に何の興味もなく精神科を志望する人恐らくいないだろうと思います。多くの大学の精神科では生物学的な研究が優先され、精神科臨床や精神療法の人はともすれば日陰者です。当科は脳科学研究者を目指す人には向かないかも知れませんが、精神科臨床や精神療法に興味を持つ人にはお勧めです。多くの教室員は青木教授を始めとした教室員と会って話して酒を飲み、教室の雰囲気や青木教授の抜群の臨床的センスや人柄に惹かれて入局しています。

青木教授は幾冊もの著書を著しているので、以下の図書をぜひ一読を。

5、参考文献

- ・青木省三：精神科治療の進め方 日本評論社 2014
- ・青木省三：ぼくらの中の発達障害：ちくまプライマー新書 2012
- ・青木省三：僕のこころを病名で呼ばないで。ちくま文庫 2012
- ・青木省三：時代が締め出すところ。岩波書店 2011
- ・青木省三：思春期の心の臨床。金剛出版 2011
- ・村上伸治：実戦 心理療法。日本評論社 2007

6、問い合わせ先

見学や相談は随時受けていますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

医局長：宮崎哲治、教室 E-mail：psy@med.kawasaki-m.ac.jp

51.島根大学医学部 精神医学講座

Department of Psychiatry Shimane University School of Medicine

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

TEL: 0853-20-2262 FAX: 0853-20-2260

医局長 長濱 道治 E-mail: michi@med.shimane-u.ac.jp

1、教室の特徴

フレッシュなメンバーの明るい医局です。意欲のある皆さんを歓迎します。

見学も随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



【入局者からのメッセージ】

医科医員 三浦 章子

入局4年目の三浦と申します。縁あって島根大学医学部に入学し、卒業後は初期研修を母校にて修了し、そのまま当講座に入局させて頂きました。島根にきておよそ11年が経ちます。故郷と比べて初めは気候の違いに驚きましたが、今やすっかりと馴染みました。

後期研修1年目は、医師としては3年目でも精神症状を診ることに経験に乏しく不安もありましたが、指導医の先生にいつでも相談させて頂ける環境があり、また医局内外で勉強する機会も多く、充実した研修を送ることができました。

特に島根県は精神保健福祉の面で地域との連携が密であり、臨床を通じて患者さんの退院後の生活環境整備などの体制についても学ぶことができます。患者さんの支援体制として、診察室や病棟だけにとどまらない関わりを持つことができることも、大きな魅力の一つだと思います。また、臨床だけでなく抗精神病薬や漢方薬の研究、光トポグラフィーを用いた研究など基礎研究分野も活気があります。

精神科医療に興味を持たれている方、一緒に働いてみませんか。当医局は女性医師も多く、勤務体制についてフレキシブルな対応が可能です。是非一度ご連絡下さい。

2、スタッフ

教授	堀口淳（科長）、稲垣卓司（教育学部）、江副智子（保健管理センター）
准教授	宮岡剛（副科長）、井上颯（公衆衛生学）
講師	橋岡禎征（卒前教育担当）、和気玲（卒前教育担当）
助教	岡崎四方（外来医長）、安田英彰、林田麻衣子（病棟医長）、古屋智英（発生生物学）、長濱道治（医局長、リエゾン医長）
臨床助教	河野公範（海星病院）
診療助教	山下智子
医員	金山三紗子、田中一平、三浦章子、三木啓之
研究員	土江景子、荒木智子、荒内亮輔
大学院生	リモア・エルリン（外国人留学生）
臨床心理士	高野由美子、林原実、佐々布亜希子



3、研修プログラムの概要と特徴

- 主に**病棟主治医業務**と、**コンサルテーション・リエゾン活動**として他科入院患者も担当します。（毎週火曜日にリエゾン回診を行っています。）
- 学会**や**各種研修会**にも随時参加可能です。
- 経験豊かな指導医による指導を受けることができます。
- 関連病院**（精神病院、総合病院、診療所）での診療を行うことも可能です。
- 当院精神科や関連病院に勤務し、精神科医としての幅広い疾患に対応できるよう臨床能力の向上に努めます。
- 学会発表**や**症例報告**を通して臨床医として医学論文の読み方や臨床への応用を学びます。
- また、精神保健指定と精神科専門医等の資格取得に必要な症例を経験します。当院での資格取得も可能で、**多くの医師が当院精神科にて精神保健指定医の資格を取得**しています。
- 自身の研修を行っていくとともに、後輩の指導を通じてさらなる臨床能力の向上に努めます。
- また**精神保健指定医**と**精神科専門医**などの資格を取得します。更に精神科医としての今後の方向性を考えます。

4、本施設における研修の特徴

- 複数人ではなく、**単独（＋指導医）**で、**症例の入院担当**ができ、**退院後も外来を担当**できる。
- 早いうちから外来を経験できる。
- 合併症（他科）などの**リエゾン経験**ができる。
- 措置症例を含め、幅広いさまざまな症例**が集まる。
- さまざまな症例を経験、**精神保健指定医を取得**できる（**措置症例**も当院で診療します）。
- 精神科専門医**の取得できる施設である。
- 電気けいれん療法**を積極的に行っている。
- 睡眠外来・物忘れ外来、思春期外来など**幅広い疾患を対象とした外来**を行っている。
- 脳波、睡眠ポリグラフの解析を取得できる。
- 症例検討会、勉強会、シネサイカイエトリーなどを積極的に行い、**勉強しやすい環境**である。
- 相談したい時には**いつでも指導医に相談**でき、適切な指導を受けられる。（一人で抱え込む必要はありません）。
- 他の病院との**連携**がある（島根県では精神科の需要が非常に高い）。
- 地域とのつながりが密**である。

5、応募問い合わせ先

島根大学医学部精神医学講座 医局長 長濱 道治
TEL：0853-20-2262(平日昼) FAX：0853-20-2260
E-mail：michi@med.shimane-u.ac.jp

52.広島大学大学院医歯薬保健学研究院 精神神経医科学

Department of Psychiatry and Neurosciences, Hiroshima University

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

TEL: 082-257-5555 FAX: 082-257-5209

E-mail: yamawaki@hiroshima-u.ac.jp

1、教室の特徴

生物学的、心理的、社会的視点をバランスよく持ち、臨床上の疑問点に対応できる問題解決能力を有する臨床医の育成を心がけており、経験年数に関わらず自由に討論できる雰囲気の中、お互い研鑽しています。

また現在、脳機能画像研究、ゲノム・エピゲノム解析などの分子生物学的研究と臨床研究を繋ぐトランスレーショナルな手法を用い、うつ病、PTSDなどの病態を解明するための、全国複数の研究機関との大規模な研究を行っています。他に精神分析学、児童・思春期精神医学、リエゾン精神医学、サイコオンコロジーの研究グループも、精神科臨床に役立てるために研究やアカデミックかつ経験に基づいた勉強会、学会を定期的に行っています。



2、スタッフ

主任教授 山脇成人

准教授 岡本泰昌

講師 山下英尚、岡田剛

助教 町野彰彦、志々田一宏、土岐茂、吉野敦雄、淵上学、瀬川昌弘

研究院 岡田怜

大学院生 片岡努、野寫真土、長嶋信行、神人蘭、高石佳幸、森麻子、永澤一恵

3、研修プログラムの概要

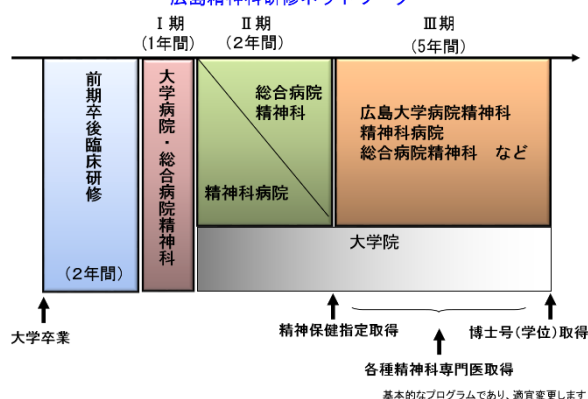
薬物療法、電気けいれん療法などの身体的治療から精神分析的な精神療法、認知行動療法といった精神療法まで、さらに小児から老年までと、精神医学の幅広い専門領域へのニーズに対応し、それぞれの専門家を育成すべく、大学医局のみにとどまらず、精神科病院、総合病院精神科、精神科診療所、認知症専門病院、小児心療科、精神保健福祉センターやこども家庭センターなどの行政機関との連携し、「広島全体で精神科医を育成する」をコンセプトに、「広島精神医療ネットワーク」という後期研修プログラムを作成しています。

具体的には、前期研修終了後の1年間は広島大学あるいは県内の総合病院で、その後2年間は総合病院精神科、精神科病院において基礎的な臨床技術を習得し、その後約5年間、総合病院、精神科病院、精神保健福祉センターなどで個人の志向性に沿った専門性を高めつつ後輩の指導にも当たり、精神保健指定医や専門医も取得していくというプログラムです。また、その間に大学院に進学する場合もあります。

広島精神医療ネットワーク（後期研修）



広島大学精神科の後期臨床研修プログラム —広島精神科研修ネットワーク—



4、研修プログラムの特徴

複数の異なったタイプの医療機関で研修を受けて頂くことで、精神科医に求められる基礎的な臨床技術をバランスよく身につけていただくことができます。またその後、個人の志向性に従って総合病院・リエゾン精神医療、気分障害、統合失調症、認知症、サイコオンコロジー、精神分析的な精神療法など各方面の医療機関とともに構築しています。

5、応募問い合わせ先

ご質問などあればいつでもお問い合わせ下さい。教室説明会なども行っていますので、教室ホームページ (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/seisin/>) も参照ください。

卒後研修担当：医局長 志々田 一宏 kashish@hiroshima-u.ac.jp

53.山口大学大学院医学系研究科 高次脳機能病態学分野(精神科神経科)

Division of Neuropsychiatry, Department of Neuroscience, Yamaguchi University School of Medicine

〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1
TEL: 0836-22-2255 FAX: 0836-22-2253
seisin@yamaguchi-u.ac.jp
<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~mental/>

1、当科の概要・理念

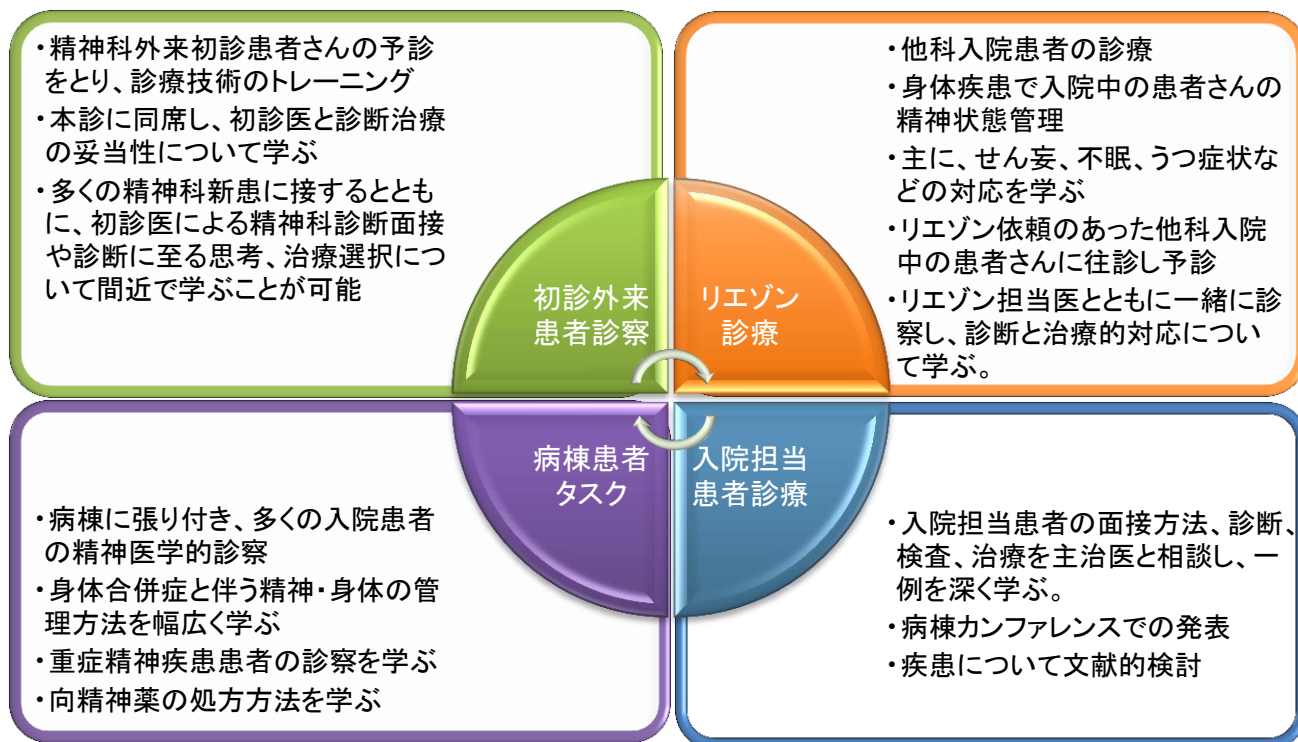
当科の治療の柱は科学性と人間性の協調です。人間の心と脳の働きを深く理解することが治療の基本と考えています。それは、精神療法と薬物療法の協調ということになります。治療手段は薬物のみならず、医師の人間性そのもの、医師と患者・家族との関係性ということになります。発達した脳・心を持つ人間を対象とする診療科は唯一精神科であり、一般身体科全体を4本の指に例えるならば、精神科はそれら全てをサポートする親指的な存在ということになります。人間対象の医学は、心・精神を対象とする精神科によって特徴づけられているものと確信しています。



2、スタッフ

教授 渡邊義文 (科長)
准教授 松尾幸治 (医局長)
講師 松原敏郎 (外来医長)、内田周作
助教 山形弘隆、綿貫俊夫 (病棟医長)、芳原輝之、樋口文宏、橋本亜希子、河上屋史織
診療助教 市山正樹、原田真生子、樋口尚子、久保明日香、亀本 敏樹、佐々木順、關友恵、荻野有香、金田周、小林正明、萩原康輔
大学院生 原田健一郎、平田圭子

3、研修プログラムの概要



研修医の1週間はどんな感じ？



4、研修プログラムの特徴

入院患者はうつ病、神経症圏が多いですが、すべての疾患に対応しています。山口県では唯一、麻酔科との連携で修正型電気けいれん療法を行っています。精神療法（摂食障害・神経症圏）にも力を入れています。外来では、年間初診患者数が1000人を超え、再来患者数は院内1位です。がん患者への緩和ケアチームやリエゾン精神医療の対策チームなどのチーム医療も活発に行っています。双極性障害専門外来や光トポグラフィ検査、広汎性発達障害などの児童外来など、専門性の高い医療も行うことができます。

4、応募問い合わせ先

私たちと一緒に充実した精神科研修生活を送ってみませんか？
皆様のお越しをお待ちしております。

山口大学医学部附属病院 精神科神経科
〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1
Tel: 0836-22-2255 Fax: 0836-22-2253
seisin@yamaguchi-u.ac.jp
<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~mental/>



54.徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 神経情報医学部門情報統合医学講座精神医学分野

Department of Psychiatry, Tokushima University Graduate School of Medicine

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町 3-18-15

TEL: 088-633-7130 FAX: 088-633-7131

卒後研修係 住谷さつき准教授 E-Mail : satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp

1、教室の特徴

四国では最も歴史のある大学病院の精神医学教室であり、地域の基幹病院として精神科医療に貢献するとともに若手精神科医の育成に力を入れ、脳と心の研究分野でも成果をあげています。



2、スタッフ

教授	大森哲郎（科長）、友竹正人（保健学科所属）
准教授	住谷さつき（総務医長）、井崎ゆみ子（保健管理センター所属）
講師	伊賀淳一（病棟医長）、沼田周助（外来医長）
助教	中瀧理仁、富永武男、亀岡尚美、久保弘子
特任助教	渡部真也、木下誠、梅原英裕
医員	多田幸雄、中村公哉、井上英治、井下真利、田丸麻衣、富岡有紀子、藤田美香、 谷口若葉、枝川令音
大学院生	渡部真也、久保弘子、梅原英裕、井下真利、田丸麻衣、渡部幸奈、内海千種 菊池久美子、西晃、上岡千世、濱谷沙世、富岡有紀子

3、研修プログラムの概要

1) 後期研修 1 年目（卒後 3 年目）

初期研修終了後、まず一年間は大学病院での研修を行います。先輩医師と共に病棟患者を担当し、外来では初診患者の予審をとり診察に陪席します。カンファランス、症例検討会、クルズス、勉強会なども定期的に行われ、幅広い知識を身につけることができます。

2) 後期研修 2~3 年目（卒後 4~5 年目）

四国内（主に徳島県内と香川県内）の関連病院に派遣されます。基本的に指定医取得に必要な症例を経験できる病院を研修先としており、措置症例を含め指定医取得に必要な症例はおおむね 3 年目までに経験することができます。関連病院では、外来も病棟も一人で担当しますが、困った時にはサポートしてくれる環境が整っています。

3) 専門分野の研修と研究

関連病院での研修後は全般的な臨床研修を継続しながらも、専門性を追求する時期となります。大学病院での研修が基本ですが、それぞれの希望に応じて、学内基礎講座における研究、国内外他施設留学あるいは地域基幹施設での研修なども可能です。研究体制はかなり充実していると自負しております。

卒後の専門医研修

卒後2年	初期臨床研修2年間
卒後3年目	大学病院での研修
4-5年目	関連施設精神科
卒後5-10年	臨床研修継続、 指定医、専門医、専門分野、 大学院、留学

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟診察	回診 新患紹介 症例検討 医局会	病棟診察	病棟診察	病棟診察
夕	クルズス		臨床検討会		クルズス

4、徳島大学病院における研修の特徴

研修では精神科医として精神科診療に必要な全般的な知識と技能を身につけることが目標となります。そのために必要な精神医学的な診察法、診断法および治療法に関する知識と技能を習得します。丁寧で親切な指導体制をモットーとしており、先輩医師、指導医師がいつでもどんな相談にでも快く応じます。また、看護師、臨床心理士、作業療法士、精神保健福祉士など様々な職種のスタッフとのチーム医療も大切にしています。医局内がいつも和やかで、教室員の仲が良いのも徳島大学精神医学講座の特徴です。

5、応募問い合わせ先

研修説明会、病棟や外来の見学は随時受け付けています。興味のある方はお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

卒後研修係：住谷さつき准教授 E-Mail：satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp

また、徳島大学病院の初期研修医募集は以下の日程となっております。

一次募集締め切り 平成 26 年 8 月 4 日（面接日 8 月 14 日）

二次募集締め切り 平成 26 年 8 月 18 日（面接日 8 月 27 日）

三次募集締め切り 平成 26 年 9 月 5 日（面接日 9 月 15 日）

55.愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座

Department of Neuropsychiatry, Ehime University Graduate School of Medicine

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

TEL: 089-960-5315 FAX: 089-960-5317

問い合わせ電子メール（堀内医局長） matsufu@m.ehime-u.ac.jp

ホームページ <http://www.m.ehime-u.ac.jp/school/neuropsychiatry/>

1、教室の特徴

愛媛大学医学部の理念「患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療」のもと、教育・研究体制を引いています。愛媛県に唯一の医育機関として、小児から高齢者まで幅広い層の精神疾患患者の治療に関わっています。カンファレンスでの、どの症例にも誰でも発言できるアットホームな環境は、どこの教室にも負けないものだと思います。県内のほとんどの医療機関が関連病院であり教室出身の医師が勤務しているため、互いに顔が見える関係であり、風通しがいいのも特徴の一つです。自由な環境から多くの先生方が巣立っています。



2、スタッフ

教授 上野 修一

看護学科教授 谷向 知 総合健康センター教授 楠元克徳

講師 堀内 史枝（医局長）、森 崇明（外来医長）

助教 松本 光央、園部 直美、清水 秀明（病棟医長）、新谷 孝典

安部 賢郎、見山 芳隆、越智 紳一郎

医員 尾崎 優樹、永井 麻里奈

大学院生 森 蓉子、河邊 憲太郎、吉田 卓、石丸 喬士、吉野 祐太、山崎 聖広

3、研修プログラムの概要と特徴

各々の研修プログラムは最終的には相談により決定します。初期に身に着けるべき精神医学の基本的技能の獲得のため、当初の1年間は大学病院で研修します。

1) じっくり実地臨床コース

大学病院勤務（1年間）→関連病院勤務（1～2年間を一単位として移動）→大学病院（大学院進学、専門医の取得など） 様々な経験ができるように、できるだけ総合病院と単科精神病院の双方が経験できるようにプログラムを組んでいます。

2) まず研究したいコース

大学病院での研修（1年間）→大学院（4年間）にて医学博士を取得

いずれのコースでも、研究の継続のため、国内外の留学をおすすめしています。

精神保健指定医、日本精神神経医学会専門医の取得を研修の一区切りとしていますが、研修開始後10年間で将来の方向性を決めてもらうようにしています。

4、研修プログラムの特徴

大学病院では、経験年数や専門性の異なるチーム制で主治医として患者の治療にあたります。チーム内での小検討会のほか、全体での検討会、回診により治療方針を確認します。クロザピン療法や修正型電気けいれん療法などの手技を経験できます。他診療科の医師との連携・協力の取り方の他、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士などと多職種で治療する基本を学びます。前期研修医や学生の指導に関わり、教育が学びに通じることにも経験します。勉強会（ジャーナルクラブ、臨床検討会など）は毎週、関連病院との症例検討会、外部講師を招いた定期的な講演会を行っています。関連病院等（総合病院と精神科単科病院、精神保健関連行政機関）では、OB医師の指導の下、多くの症例を経験できるのが、大学外の研修の魅力です。もちろん、地域に根付いた精神科医療に関わる経験は、将来への大事な財産です。

研究グループとして、神経化学、神経心理・老年精神医学、児童青年期精神医学の3つを柱としていますが、それぞれが独立せず、お互いに乗り入れ研究しているのが我々の教室の特徴です。研修中の国内外への留学についても柔軟に対応しています。自分の臨床技能を確認するため、学会総会に積極的に参加することを推奨しており、研修の一環として発表も行います。精神保健指定医は精神科研修3年で獲得できます。日本精神神経学会、日本臨床精神薬理学会、日本老年精神神経学会、日本児童青年期精神医学会の専門医・認定医の取得が可能です。

4、応募問い合わせ先

応募に当たっては、医局長堀内に連絡ください。見学・面接は適宜対応します。相談のみでも結構です。ぜひお声かけ下さい。なお、12月末日を研修申込み締め切りとしています。

56.香川大学医学部 精神神経医学教室

Department of Neuropsychiatry, Faculty of Medicine, Kagawa University

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸 1750-1

TEL: 087-891-2167 FAX: 087-891-2168

卒後研修係：中村 祐 教授 E-Mail : yunaka@med.kagawa-u.ac.jp

1、教室の特徴

当教室は、認知症から児童・思春期（摂食障害を含む、平成 26 年 4 月 1 日より子どもと家族・こころの診療部を当科で運営することとなりました）、睡眠障害、緩和ケアなど、全ての精神科の領域をカバーして診療を行っています。その為、短期間の大学附属病院での研修で、多くの症例を経験することが可能であり、また、ほとんど全ての精神科領域の技術をマスターすることが可能です。また、助教や医員として働きながら、大学院に在籍することが可能です。

現在主に取り組んでいる研究分野は以下のようになります。

- 1) 認知症の治験推進：実際に国際共同試験を含めた認知症の臨床治験を行っています。
- 2) 睡眠の研究：これは、主に新野教授が行っている研究であり、認知症における睡眠構造やそれに影響を与える薬剤に関する研究を行っています。
- 3) 骨粗鬆症の精神疾患の研究：認知症を含む精神疾患患者においては、寡動、偏食、高齢化などの要因から骨粗鬆症が併存すると考えられ、骨密度計を購入し、基礎データ収集を行っています。
- 4) 糖尿病における末梢神経障害の研究：香川大学工学部澤田秀之教授が開発した微小振動装置（無侵襲）を用いて、糖尿病における末梢神経障害についての研究を進めており、現在、小型化した装置が完成しています。



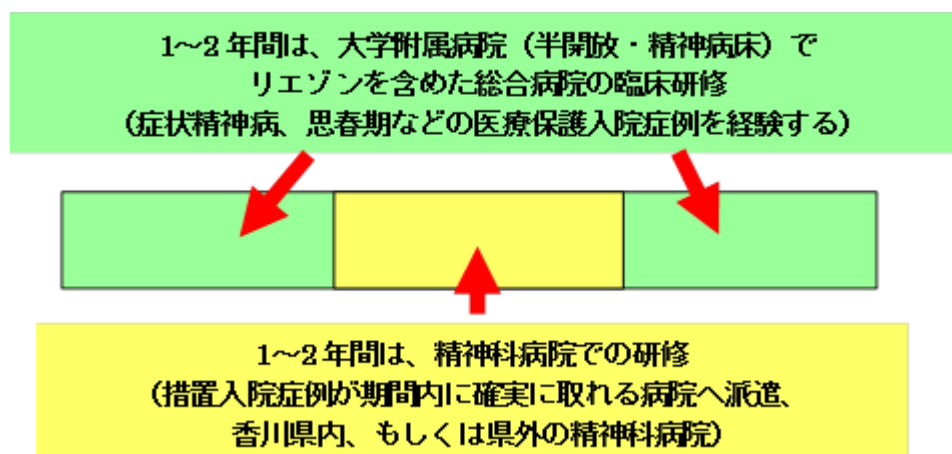
（当日撮影に参加できなかった医局員は 3 名です。平成 26 年撮影）

2、スタッフ

教授 中村 祐（科長）、新野秀人（地域連携精神医学所属）
准教授 角 徳文
講師 安藤延男、熊 宏美（学内）
助教 森 崇洋、横井 正、今井秀記、福本修平、山中真美
松村義人（地域連携精神医学所属）、篠原朝美（臨床心理士）
特命助教 石川一朗、檀上淳一
医員 木戸瑞江、野口勝宏、関彰吾、伊吹崇宏、角友佑豪
精神保健福祉士 森（地域連携精神医学所属）
非常勤臨床心理士 2名

3、研修プログラムの概要

基本は、卒後5年後に **精神保健指定医** の申請を目指します。以下が基本コンセプトです。また、大学附属病院で研修することにより、**精神科専門医**に必要な知識も同時に研修します。また、大学院生となる場合も並行して、医員などの立場で上記の専門医に必要な研修を行うこととしています。また、日本老年精神医学会専門医などを取得することも可能であり、児童・思春期の症例経験なども可能です。



4、研修プログラムの特徴

香川大学附属病院では、病棟主治医として、また、外来主治医として診療を行い、指導医による丁寧な指導やカンファレンスを通して、精神科で行う全ての分野（統合失調症、気分障害、以外に、認知症、睡眠障害、緩和医療、摂食障害を含む児童・思春期医療）を経験することが可能です。当大学附属病院では、後期研修初期（1年目）より、病棟主治医と以外に、外来診療を行って頂くことが最大の特徴です。外来診療において、初診患者の診療を行うことにより、より積極的な経験を積むことが可能です。外来診療や他科へのリエゾン往診は、上級医に直接指導を受けることもできます。このような積極的な診療への参加により速やかに精神科医としての経験値を増やすことが可能です。

5、応募問い合わせ先

研修説明会、病棟見学等を行っていますので、随时お問い合わせください。
医局秘書：大高 address: ohataka@kms.ac.jp 087-891-2167(dial-in)

57.産業医科大学 精神医学教室

Department of Psychiatry, University of Occupational and Environmental Health Japan

〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

TEL: 093-691-7253 FAX: 093-692-4894

堀 輝 (医局長・学内講師) e-mail: hor-h@med.uoeh-u.ac.jp

URL: http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/seisin/intro_j.html

精神医学もメンタルヘルスもきちんと学びたい人へ

1、教室の特徴

産業医科大学は産業医の育成と産業医学の振興を目的に設立された目的大学です。多くの産業医や研究者を輩出し、企業はもとより多くの関連機関で高く評価されています。また、大学病院として北九州市の拠点病院として地域医療を幅広く支えています。

現在、産業医学の現場では、メンタルヘルスの問題が大きな課題になっており、精神医学および産業医学の知識・経験を備えた産業医が必要とされています。実際に、当教室出身者が、全国の産業保健現場で活躍しています。精神科臨床医としても年間 1500 人を超える新患や地域連携などにも力を入れています。

＜取得認定医・専門医制度＞

産業医ディプロマ(産業医学基本講座)、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本臨床精神神経薬理学専門医、日本老年精神医学会専門医、日本総合病院精神医学会専門医

2、スタッフ

教授 中村 純 教授、吉村 玲児 診療教授

准教授 新開 隆弘

学内講師 堀 輝 (医局長)

助教 香月あすか (外来医長)、山田健治 (病棟医長)、西井重超 (教育医長)

江頭一輝、阿竹聖和、得津由紀

その他 修練指導医 2 名、専門修練医 13 名



3、研修プログラムの概要

■年度別スケジュールのモデルケース

基礎的な精神医学を研修し、精神科医としての必要な知識を習得できます。基本的に4年間のコースです。標準的なスケジュールとしては、最初の2年間で産業医科大学病院神経・精神科で臨床修練を2年間行います。この間には、最低3人の指導体制の中、精神科臨床医としての幅広い経験を身につけていきます。その後1年間は地域の関連精神科病院での修練（産業医大卒業生以外の先生は、産業医として関連企業での修練も可）を行います。残りの1年間は、再び大学病院でのシニアレジデントとしての後進の指導にも当たりながら、後期研修の仕上げを行います。

研修中に、希望者には産業医学基本講座及び産業医学実務研修講座の受講が可能です。研修の予定に組み込まれますので、休みを取って研修を受ける必要がありません。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	産業医学基礎講座		大学研修									
2年目	大学研修											
3年目	外病院研修(場合により産業医)											
4年目	大学研修									産業医実務研修 ※他の年目になる場合あり		

上記は標準的な研修の経過になりますが、可能な限り、個人の希望には応じています。また、近年の女性医師増加に対応し、育児休暇や保育所の確保にも医局全体で支援を行っています。

4、当科の特色

1.産業医学基本講座の受講（産業医学ディプロマの習得）

2か月間のプログラムで、産業医の永年資格（更新不要）と言われる産業医学ディプロマが習得可能です。

2.産業医学実務研修講座の受講

座学中心の基本講座と比較して、産業医現場に必要な実践的な研修を受けることが可能です。

3.産業精神保健、メンタルヘルスに関する研修

メンタルヘルスの専門性を持ち合わせた産業医の育成も行っており、当教室出身者が全国の産業保健現場で活躍しています。

4.精神保健指定医、日本精神神経学会専門医等の資格習得

最短の3年で指定医の習得、専門医の習得が可能です。合格率60%程度と言われる中、万全の指導体制により近年の合格率は100%です。

5.精神医学研究

現在、(1)産業精神保健、(2)分子・画像・薬理、(3)分子遺伝学の大きく3研究グループがあり、大学として研究にも力を入れています。

5、応募問い合わせ先

随時見学などは受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

医局長 堀 輝: hori-h@med.uoeh-u.ac.jp 医局直通: 093-691-7253

教室・研修プログラムの詳細は、教室のホームページもご覧いただけます。
ウェブ検索や右記QRコードから是非ご覧ください。

産業医大 精神科

検索



58.九州大学大学院医学研究院 精神病態医学

Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

TEL: 092-642-5622 FAX: 092-642-5644

講座 HP : <http://www.med.kyushu-u.ac.jp/psychiatry/>

後期研修担当: 中尾智博 講師 (医局長) E-mail: tomona@npsych.med.kyushu-u.ac.jp

1、教室の特徴

九州大学精神科は、講座開設以来 100 年を超える歴史と伝統をもち、精神医学の発展に大きな功績を残してきました。現在も神庭重信教授の指導の下、日本の精神医療を牽引する存在として医局員は臨床から研究に至る幅広い領域で活躍しています。



2、スタッフ

【精神科】

教授 神庭重信 (科長)
准教授 川寄弘詔
講師 鬼塚俊明、中尾 智博 (医局長)
助教 本村啓介 (診療講師)、光安博志、三浦智史 (診療講師、外来医長)
実松寛晋、宮崎恭輔 (病棟医長)、小原知之
医員 金 ミエ (臨床助教)、畑部暢三、三原 茜、豊見山泰史、安達利昭、竹田章吾、辻真里子、吉永美央
技官 1 名、精神保健福祉士 2 名、臨床心理士 3 名、作業療法士 2 名

【子どものこころの診療部】

診療部長 神庭重信
特任教授 吉田敬子
特任講師 山下 洋
医員 香月大輔

【先端融合医療レドックスナビ研究拠点】

特任准教授 加藤 隆弘

【大学院生】

柳田 諭、中村一太、佐藤美那、小原尚利、本田慎一、平岡健太郎、早川宏平、磯村周一、猪狩圭介、久我弘典、桑野真澄、下川憲宏、佐藤仁哉、三ヶ田智弘、池田祥恵、石坂 望、平河則明、山田 聖、岡本 宙

3、研修プログラムの概要

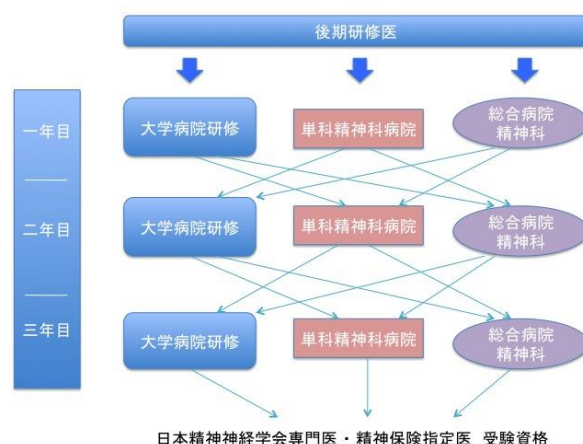
A: 精神科専門医養成コース

後期研修では、大きくわけて高度精神科医療施設、総合病院精神科、単科精神科病院という3種類の医療現場を経験する。このことによりまず精神科医療全般に渡る技能をもれなく習得し、同時に専門医、あるいは精神保健指定医の受験資格を満たす。

1年目：高度精神科医療施設でレジデントとして勤務し、主として重度の急性期入院患者の診断と治療を習得する。

2年目：総合病院精神科でレジデントとして勤務し、主として外来精神医学、リエゾン精神医学を修得する。

3年目：高度精神科医療施設、総合病院精神科、単科精神科病院に勤務し、一般精神医学を更に修得する。



B: 児童精神医学認定医習得コース

下記の診療施設・臨床経験を積むことにより、後期研修医の後の3年間で必要な症例や経験など認定医の受験資格を満たすことになる。

1年目；九大病院精神科、児童思春期ユニットに入院する患者の入院治療、子どものこころの診療部での新患診察による初期診断評価と治療プラン作成等の臨床トレーニング。ロンドン大学ディプロマ・コースに準拠した児童精神医学の包括的なレクチャー。

2年目；診療部外来患者の担当医として治療に従事。ケース・レポートと臨床カンファレンスでのプレゼンテーション。院内小児医療センター・総合周産母子センターとのリエゾン業務。子どものこころの診療部の臨床研究への参加。

3年目；児童精神科関連機関での診療従事・多職種連携による臨床経験。

C: 大学院

大学院大学である九大精神科では、精神医学者を養成するために、大学院進学を奨励している。大学院は最低一年間の研修後に進学することができる。臨床大学院へ進む者は、一定時間臨床に従事することができ、この時間は、精神保健指定医及び日本精神神経学会専門医申請に必要とされる臨床従事期間として算定される。

4、研修プログラムの特徴

九大精神科における後期研修プログラムでは、精神医学の幅広くかつ高度の専門性を習得することを目指している。教室には、これらの専門性を有する指導教員・研究室が揃っている。また各種専門性を有する教育関連施設と緊密な連携体制を有しており、後期研修医は、教室ならびに教育関連施設において、高度の専門性を習得することができる。原則として5年間で精神科後期研修を終了する。研修1～3年目には、十分な一般精神医学の知識と経験を身につけ、4～5年目には、サブスペシャリティーを習得する。精神保健指定医や日本精神神経学会専門医をはじめとする各種資格の取得を目標とする。

5、応募問い合わせ先

九大精神科教室では平成27年度入局希望者を対象に、1日見学（病棟・外来・デイケア・各研究室）を受入れております。見学は基本的に木曜日をお薦めしていますが、相談に応じます。

ご希望の方は下記連絡先までお問い合わせ下さい。

<連絡先>九州大学大学院医学研究院精神病態医学 医局長室

TEL：092-642-5622（直通）・E-mail：中尾智博（医局長）tomona@npsych.med.kyushu-u.ac.jp

59.福岡大学医学部 精神医学教室

Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Fukuoka University

〒814-0133 福岡市城南区七隈 7 丁目 45-1

TEL: 092-801-1011 (ex.3385) FAX: 092-863-3150

入局案内担当 医局長 田中謙太郎 E-mail: kentanaka@adm.fukuoka-u.ac.jp

1、教室の特徴

福岡大学精神医学教室は、患者さんと向かい合う臨床を重視した精神医学教室として、特に全国的に知られています。臨床力を第一として、研究、教育もできるバランスのとれた精神科医の養成と、患者さんを治せる人間性豊かな精神科医を目指して多くの教室員が努力しています。

研究部門も、精神療法、認知症、臨床精神薬理、児童思春期、統合失調症、性同一性障害、スポーツ精神医学、自殺予防、緩和ケアなど、充実しています。

教室の雰囲気は、比較的若い先生が多いために自由で活発な雰囲気で、休み時間には笑い声が絶えません。教室を引っ張る若手の先生は、新たな取り組みをしていくことにやりがいを感じており、全員が一つにまとまってがんばっています。



2、スタッフ

主任教授 西村良二

准教授 尾籠晃司

講師 松下満彦（副外来医長）、吉田公輔（デイケア医長）、内田直樹（外来医長）、
衛藤暢明（副病棟医長）

助教 田中謙太郎（医局長）、縄田秀幸（病棟医長）、本田洋子（副医局長）、黒岩健輔（副病棟医長）

3、研修プログラムの概要

1 年次研修（基礎研修）

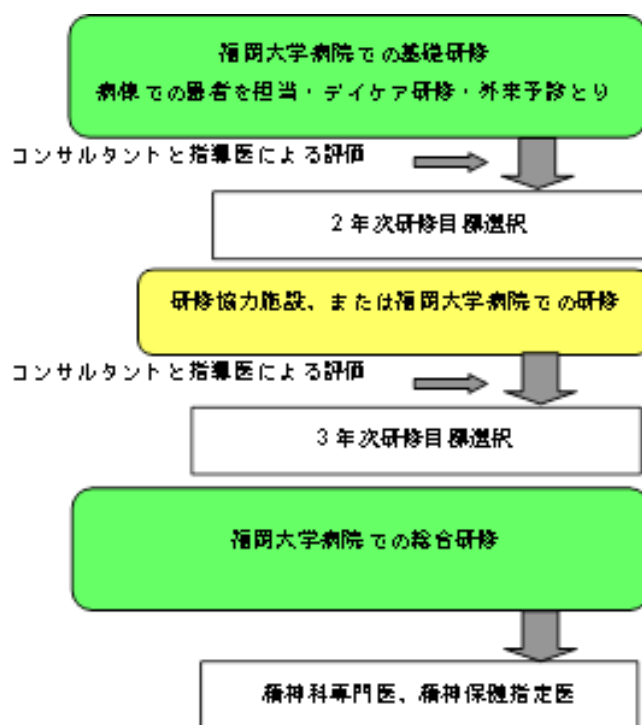
1 年次は、統合失調症、感情障害、認知症の治療と精神科救急を研修します。当院のデイケアなど精神科リハビリテーションにも積極的に参加します。年度末の研修発表をもって 1 年次研修とします。

2 年次研修（他施設を含む）

2 年次は、精神科臨床の幅を広げ、地域保健や神経症性障害なども含みます。年末年始研究会で、日々の臨床・研究の成果を発表します。希望があれば、精神分析的グループスーパービジョンに参加できます。

3 年次研修（総合研修）

パーソナリティ障害、摂食障害、難治性の統合失調症、気分障害などのマネジメントを研修します。リエゾンコンサルテーションにも積極的に関わり、他科に入院中の患者を診察しま



4、福岡大学病院における研修の特徴

当教室では精神分析、臨床精神薬理、デイケアによる社会復帰活動といった精神科臨床に重きを置いてきました。3 年間の後期研修においては、精神科専門医としての高度な知識と態度を習得すること、すなわち患者の人権の尊重、生物・心理・社会・倫理的な幅広い知識とバランスのとれた態度や技能を獲得し、将来にわたって研鑽を続けていく精神科医を育成したいと考えています。

基本的指導体制

個別の後期臨床研修指導医、コンサルタントと呼ばれる上級医が割り付けられる
週 1 回 1 時間程度のコンサルテーションが行われる（内容は自由で学会発表の指導等）

後期臨床研修医勉強会

後期臨床研修医での症例カンファレンスと研究報告、クルズス（年間約 15 回行われる臨床に関連した系統講義）

精神療法スーパービジョン

5、応募問い合わせ先

医局説明会も随時行う予定です。病棟見学も可能です。まずはメールもしくはお電話で、お気軽にご連絡下さい。（応募締切：平成 26 年 12 月中旬ごろ）

連絡先）医局長：田中謙太郎 E-mail：kentanaka@adm.fukuoka-u.ac.jp

医局ホームページ <http://www.fukuoka-psychiatry.jp/>

60.久留米大学医学部 神経精神医学講座

Department of Neuropsychiatry Kurume University School of Medicine

〒830-0011 久留米市旭町 67

TEL: 0942-31-7564 FAX: 0942-35-6041

E-mail : kurumepsy@med.kurume-u.ac.jp

1、教室の特徴

昭和4年（1929年）に王丸勇先生が初代教授に就任し開設された伝統のある講座です。

「臨床と研究のバランスを重視し、様々な精神疾患に臨機応変に対応できる精神科医を育成していくこと」をモットーにしています。

うつ病、統合失調症、パニック障害などの不安障害をはじめとして、主たる精神疾患のほぼ全てを対象に診断および治療を行なっております。

さらに特殊専門外来として、不眠症や過眠症など様々な睡眠の悩みを抱える方々を対象に「睡眠障害クリニック」や、てんかんを対象とした「けいれんクリニック」を開設しており、それぞれの専門医が検査・治療を行なっています。また、内科総合外来には「心療外来」、睡眠時無呼吸症候群の治療を行う「睡眠医療外来」、神経内科との共同での「もの忘れ外来」を開設しており、さらに小児科と連携して「こどもの心のクリニック」も小児科外来で開設しています。



2、スタッフ

教授 内村直尚（主任教授）、辻丸秀策（文学部）、森田喜一郎（高次脳疾患研究所）、
恵紙英昭（先進漢方医学講座）、福山裕夫（文学部）

准教授 三木浩司、橋爪祐二

講師 本岡大道、小路純央、富田克、内野俊郎、山田英孝（医療センター）、
大江美佐里（健康スポーツ科学センター）

助教 小鳥居望（病棟医長）、森圭一郎（外来医長）、小城公宏（医局長）

総医局員数：70名

精神保健指定医：51名

日本精神神経学会 専門医：33名 指導医：18名

日本睡眠学会認定医：6名 他

3、研修プログラムの概要

専門医研修は精神保健指定医取得までの期間とし、最短で3年間とします。

卒後前期研修2年修了後



久留米大学病院 精神神経科病棟で1～2年間の後期研修

最初の1～2年間は久留米大学病院精神神経科病棟において研修を行います。多くの指導医の元、一般的な精神疾患のみならず PTSD や児童思春期症例まで幅広い疾患の治療を学び、看護系、臨床心理士、作業療法士、精神保健福祉士などつくるチーム医療を実践しその中心としての精神科医の役割も学びます。また大学病院としては数少ない精神科デイケアを持ち、外来、病棟、デイケアの連携による急性期治療から中長期のリハビリテーションまでを実践を通して学ぶことが出来ます。更にコンサルテーション・リエゾン活動、重症の合併症治療などを通して、総合病院でなければ行えない全人医療の実践を学びます。



関連病院での研修

精神保健指定医や学会専門医取得のためのキャリアを積むとともに地域医療や精神科領域の高齢者医療等について学ぶ機会を得ます。豊富な治療数を誇り、高い経験率、指定医合格率を誇ります。



大学病院帰学後

病棟指導医、外来担当医となり後輩の指導にあたったり、専門研究グループに所属し臨床研究をしたりします。睡眠、精神生理、精神薬理、心理社会的治療、てんかんといった研究グループがあり、サブスペシャリティを習得します。また、基礎系の大学院に入り基礎研究をすることも可能です。

4、研修プログラムの特徴

- ① 「こころの時代」「脳の時代」と言われる21世紀にこころや脳の問題に広く対応出来る幅広い視野と対応力を身に付けた、チーム医療の中心となれる優れた精神科医の育成に力を注いでいます。急性期治療病棟、デイケア、コンサルテーション・リエゾン活動など大学病院としては比類なき多彩で複合的な研修環境を提供します。
- ② 後期研修医に対する勉強会として、精神科総論、感情障害、精神療法、薬物療法、コンサルテーション・リエゾン、統合失調症、漢方精神・緩和ケア、脳波検査、睡眠障害、てんかん、認知症、小児（思春期）精神医学、精神保健福祉、リハビリテーション、心理検査・カウンセリングの講義を行なっております。専門性の高い講義であり、後期研修医の基礎となっております。
- ③ 年間を通して、学内を中心とした各研究グループの研究会や同門会員を中心としたセミナー及び集談会、そして福岡県の4大学精神科の集談会、地域での講演会などを積極的に行い、個人の知識やスキルの向上は勿論のこと他科の先生方や同門の先生方との交流できる機会を数多く提供し、最新の情報を共有し精神医学の発展に努めています。

5、お問い合わせ

医局見学や病棟見学などを行なっておりますので、随時お問い合わせください。

〒830-0011 久留米市旭町 67

TEL : 0942-31-7564

FAX : 0942-35-6041

E-mail : kurumepsy@med.kurume-u.ac.jp

61.長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

医療科学専攻展開医療科学講座精神神経科学教室

Department of Neuropsychiatry, Unit of Translational Medicine
Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

〒852-8501 長崎市坂本町 1 丁目 7-1
TEL 095-819-7293 FAX 095-819-7296
E-mail: nagasaki-unihos-psy@hotmail.co.jp

1、教室の特徴

1907(明治 40)年、長崎医学専門学校の内科から独立。精神神経科学教室の目標として、「教室員の多様な可能性を共有し、それをサポートする凝集力のある集団であり、精神医療に対するスティグマ(偏見)を是正し、患者さんの生活の向上を目指す集団であること」とする。1979 年には世界保健機構(WHO)から「機能性精神病に関する WHO 研究協力センター(1989 年、精神保健の研究・訓練のための協力センターと改称)」の正式指定を受け、国際共同研究に道を開くなど、我が国の西洋医学の黎明期を支えた長崎らしい活動も展開している。



2、スタッフ

教授	小澤寛樹 (科長)
准教授	今村 明 (副科長)、黒滝直弘 (認知症疾患センター担当)
講師	木下裕久 (外来医長)
助教	杉本 流 (医局長)、久保達哉 (病棟医長)、松坂雄亮 (地域包括ケア教育センター)
医員	三宅 通、鬼塚英美、田山達之、山口尚宏、吉田真太郎、岩永 健、大橋愛子
臨床心理士	福田和久、峯 有一、船本優子
心理士	岩倉由佳、楠本優子、生塩詞子、徳永春香、宮崎弘美、一瀬優子
精神保健福祉士	池井ありさ
社会福祉士	増田瑤子
大学院生	金替伸治、山田聖剛、野中俊輔、森本芳郎、市瀬実里、今村弥生

3、入局までの流れ

当科での学生実習は、外来と病棟の実習を並行して行うのが特徴的と言えます。外来は主に診断プロセス、病棟は主に治療プロセスを学ぶ場として設定しています。実習を通して、精神科医療の現場をより鮮明にイメージできるよう努めています。

初期研修では選択必修科目の1つとして、経験すべき3症例（統合失調症・気分障害・認知症）を中心に理解を深めます。チームの一員として、主体的に診療に参加していただいています。

精神科に興味を持ち、自身の専門にしたいと考えた方は、ぜひ入局して我々の仲間になってくれたら幸いです。

4年生	臨床系講義 精神医学の概観をつかみながら、知識を習得
5年生	1週間の臨床実習（ポリクリ） 新患外来見学：診断プロセスのイメージをつかむ 病棟実習：患者さんとの関わり・実臨床の体験 精神科の現場を知る
6年生	4週間の選択型高次臨床実習（クリニカルクラークシップ） 新患外来の予診を実践：診断面接のトレーニング 病棟実習：実臨床への主体的な参加
初期研修	選択必修科目の1つとして設定 1ヶ月から最大11か月の研修が可能 新患外来の予診：診断面接のトレーニング 病棟業務：初期研修で経験すべき症例を中心に （統合失調症・気分障害・認知症）

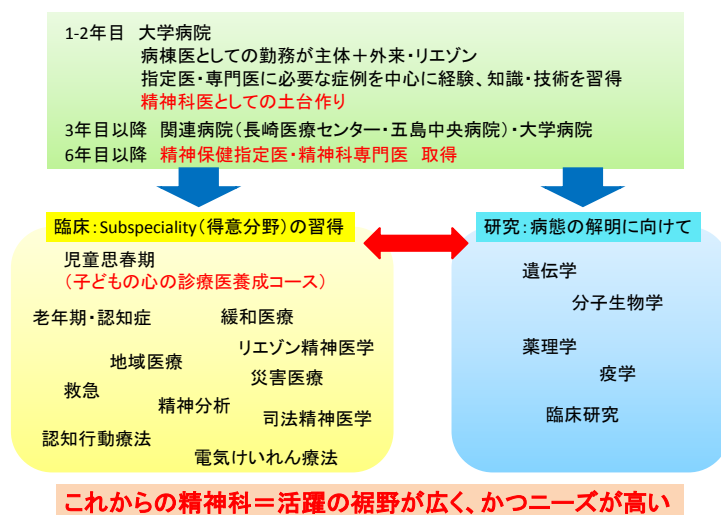


入局

4、入局後・後期臨床研修

まずは大学病院の病棟担当医として、指導医らとともにグループ診療をしながら、各種の知識や技術を習得し、精神科医としての強固な土台を作ります。精神保健指定医・精神科専門医取得に必要な症例を中心に、幅広い疾患を経験することが可能です。

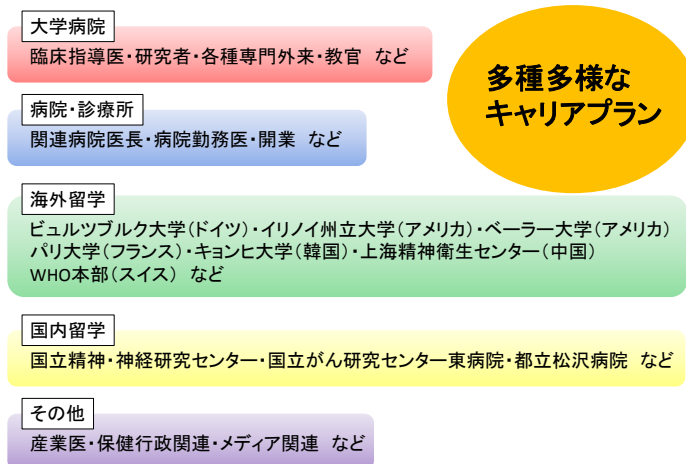
認知症・緩和医療・リエゾン精神医学など、現代の精神科に対するニーズは様々な領域に渡り、活躍の裾野はこれからも広がる方向にあると思われます。治療法や研究面も今後の発展が大きく期待されています。多くの仲間にも多方面で活躍していただきたいと願ってやみません。



5、その後のキャリアプラン

当医局はその長い歴史の中から、多くの機関と連携を取ってきた経緯があります。このため、キャリア形成の中で、国内外を問わず様々な機関への留学が可能となっています。

大学で専門を究めるもよし、指導者や研究者の道に進むもよし、地域の医療に貢献するもよし、産業保健・学校保健・行政・メディア方面で活躍するもよし。多種多様なキャリアプラン、活躍の場が用意されています。



62.熊本大学医学部 神経精神科

Department of Neuropsychiatry, Faculty of Life Sciences, Kumamoto University

〒860-8556 熊本市中央区本荘 1-1-1
TEL: 096-373-5184 FAX: 096-373-5186
Email: neuropsych@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

1、教室の特徴

当教室は 1904 年開講の歴史ある教室で、平成 12 年に開講 100 周年記念祝賀会を開催すると共に記念誌を発刊しています。代々、統合失調症やアルツハイマー病の脳病理、水俣病や三池炭塵爆発のフィールドワークなどで沢山の業績を残しており、伝統的に生物学的な精神医学を柱としています。平成 19 年からは第 7 代教授として池田学が着任し、現在は、脳の働きについて日々明るく賑やかにディスカッションしています。



2、スタッフ

教授	池田学
講師	藤瀬昇、橋本衛、福原竜治
助教	城野匡、石川智久、田中恭子、遊亀誠二、西良知、柏木宏子、梶尾勇介
医員	小田篤介、前田兼宏、山口達也、渡邊鮎子
新入医局員	鳩野威明、植田賢、鬼塚悠里、川上遥平、新堀隼也、坂本亮子、赤城真理子
大学院	松崎志保、露口敦子、田中響、畑田裕、宮川雄介、川原一洋、(社会人コース 7 名)
臨床心理士	松下正輝、矢野宏之、伊地知大亮、上野由紀子、一美奈緒子 (医療の質管理センター)
特任助教	
精神保健福祉士	小嶋誠志郎、田中希、丸山貴志 (社会福祉士)、四郎園綾子、松尾由美、小山明日香
作業療法士	村田美希、堀田牧、吉浦和宏
認知症看護認定看護師	板橋薫

後期研修医 (関連病院ローテーション中) 21 名

3、研修プログラムの概要

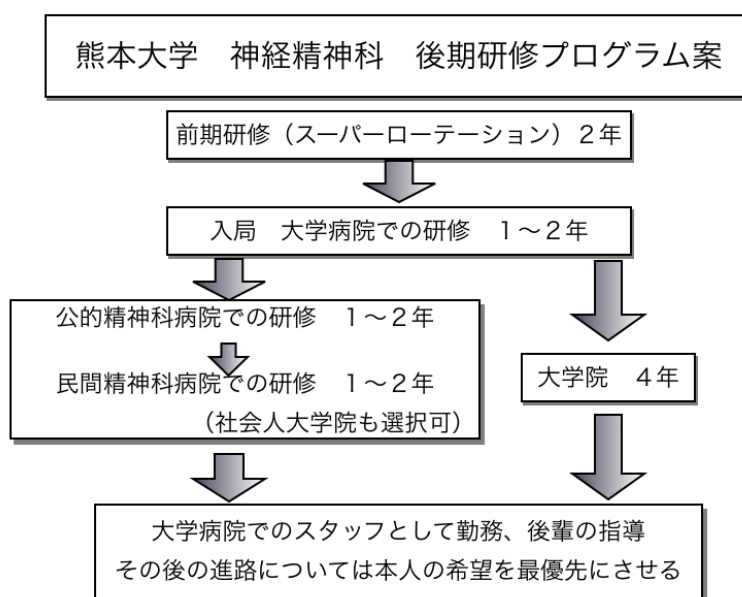
臨床と研究の基礎的知識を習得する。主に入院患者の担当となるが、希望に応じて外来診療、専門外来への参加も可能。後期研修4年（卒後6年）目には厚生労働省の定める精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本老年精神医学会専門医、日本認知症学会専門医などの資格取得ができるプログラムを用意している。研究としては、神経心理学、認知症の疾患別ケアの開発、老年期うつ病と自殺予防に関する地域縦断研究、発達障害に関する疫学的研究、光トポグラフィー検査を用いた認知症早期診断に関する研究などを行っている。

4、研修プログラムの特徴

県内唯一の大学病院であり、急性期・慢性期の精神病性障害、気分障害、認知症などの器質性精神障害、神経症性障害、児童・思春期の精神疾患、コンサルテーション・リエゾン精神医療など豊富な症例が経験できる。14名の常勤コメディカルスタッフ（心理士4名、精神保健福祉士5名、社会福祉士1名、作業療法士3名、認知症看護認定看護師1名）と共に充実した精神科チーム医療を展開している。熊本県からは認知症疾患医療センター（基幹型）と高次脳機能障害支援センターおよび発達障害医療センターの指定を受けており、認知症および高次脳機能障害、シルバーうつ、児童・思春期の各種専門外来を開設して診療を行っている。また、一方、県内外に多くの関連病院（下記ホームページを参照）を有し、診療および教育において緊密に連携を取り合っており、精神保健指定医および日本精神神経学会専門医の取得に必要な症例は入局後3年間で十分に経験できる

【当科施設の学会認定状況】

- ・日本精神神経学会精神科専門医研修施設
- ・日本老年精神医学会専門医研修施設
- ・日本認知症学会専門医教育施設



【主な後期研修関連医療施設】

病院名	所在地	規模	特色
熊本県立こころの医療センター	熊本市	150 床	精神科専門病院
熊本医療センター精神科	熊本市	50 床	総合病院精神科
国立病院機構菊地病院	熊本県合志市	210 床	精神科専門病院
国立病院機構肥前精神医療センター	佐賀県吉野ヶ里町	620 床	精神科専門病院

5、応募問い合わせ先

ご興味のある方は、当教室ホームページ（<http://www.kumamoto-neuropsych.jp/>）をご覧くださいいつでもご連絡ください。お待ちしております。

63.宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野

Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, University of Miyazaki

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200

TEL : 0985-85-2969 FAX : 0985-85-5475

1、教室の特徴

宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野は1977年に開講した比較的歴史の浅い教室ですが、開講以来自由闊達な気風を大切に、臨床、研究、教育に取り組んでいます。臨床の分野では、物忘れ外来、がん対策基本法に基づく院内の緩和ケアチーム、修正型電気痙攣療法 m-ECT (modified-electroconvulsive therapy) が特徴として挙げられます。また自殺率の高い本県の自殺防止の啓発活動や、東日本大震災に伴うストレス性疾患に対するアウトリーチ活動、口蹄疫・鳥インフルエンザ・新燃岳噴火と本県で続いた自然災害に伴うストレス性疾患の調査やアウトリーチ活動も積極的に行っています。また精神鑑定などの司法精神医学においても、司法関係者への相談・助言を継続して行っています。

研究の分野では「臨床と乖離しない研究」を前提とし、石田康教授を中心とする行動薬理グループ、林要人准教授を中心とする認知症グループその他で基礎及び臨床研究を行っています。統合失調症患者の体重増加に対してセルフモニタリングに関する研究、非定型抗精神病薬に変更した統合失調症患者の認知機能に関する研究、抗うつ薬をはじめとする向精神薬の慢性疼痛の緩和作用に関する研究、抗精神病薬の「のみ心地」に関する調査研究も並行して行われています。心理士2名を診療担当教官として配置し、臨床分野のみならず研究分野でも多くの業績に貢献しています。また宮崎大学名誉教授（神経科学領域）の西森利数先生も在籍し、教室員の研究の指導にあたっています。



2、スタッフ

教授 石田康（科長）、武田龍一郎（安全衛生保健センター所属）

准教授 林要人

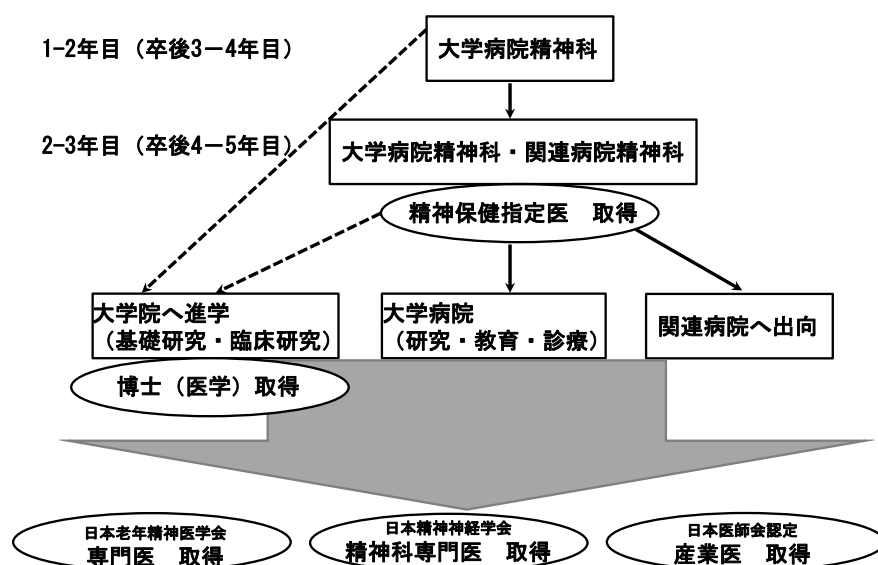
講師 直野慶子、安部博史（心理）

助教 船橋英樹（医局長）、蛭原功介、宇田川充隆（病棟医長）、三好良英（外来医長・卒後臨床研修センター所属）、小金丸剛、宮原裕、松尾寿栄（心理）

医員 古郷央一郎、塚本彩香

大学院生（博士課程） 藏元恵里子、船橋英樹、倉増亜紀、小金丸剛、保田和哉

3、研修プログラムの概要



A:精神科専門医・精神保健指定医コース（臨床医基本コース）

入局後、精神保健指定医取得に必要な精神科での臨床経験を約3年間で積みながら、精神科専門医・精神保健指定医の取得に必要な症例経験を体験します。精神保健指定医・精神科専門医取得後には、精神科医としての経験を積みながら、さらに老年精神医学会専門医や日本医師会認定産業医などの資格を取得していきます。

B: 博士（医学）取得コース（研究志向コース）

研究に興味を持つ医師に対しては上記の専門医取得のための臨床経験を積みながら医学獣医学科大学院（博士課程）に入学し博士（医学）を取得する医師もあり、教室を挙げて指導やサポートをしています。

4、宮崎大学医学部附属病院精神科における研修の特徴

卒後教育では、研修医期間終了後に入局という形をとり、精神保健指定医の取得を目指して症例を経験しながら、本人の希望を勘案して大学院に進学し博士号の取得、大学病院勤務、関連病院精神科での勤務などのコースがあります。当教室では、複数の指導医による丁寧な指導、カンファレンスにおける診断・治療の検討の指導を受けることができます。大学病院は開放病棟と閉鎖病棟を持つ総合病院精神科でもあり、外来、入院、緩和ケアを含む他科へのリエゾン往診などの場において、精神科専門医になるための研修を受けることができます。医局員は本学出身者のみならず本学以外の大学出身者も多いです。また国内や海外の研究機関に留学し研究に邁進する者、当教室出身者で他大学の教職に就いている者もいます。

5、問い合わせ先

研修説明会、病棟見学等を行っていますので、随時お問い合わせください。

連絡先：宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野

（医局長） 船橋英樹 E-Mail : hideki_funahashi@med.miyazaki-u.ac.jp

Tel: 0985-85-2969, Fax: 0985-85-5475

64.鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 精神機能病学分野

Department of Psychiatry, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35-1

TEL: 099-275-5346 FAX: 099-265-7089

医局長 中村雅之准教授 E-mail: seishin@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp

1、教室の特徴

教室創設 70 年を迎え、教育、研究、診療の 3 本の柱を中心とした県内唯一の医育機関です。鹿児島県を中心とした南九州の精神医学・医療を担い、数多くの同門精神科医師を輩出しています。



2、スタッフ

教授	佐野輝（科長）、赤崎安昭（医学部保健学科）、橋口知（教育学部）
准教授	中村雅之（医局長）、川池陽一（保健管理センター）
講師	春日井基文（病棟医長）
助教	肝付洋（外来医長）、下洋央、福田恭哉、石塚貴周、林岳宏
特任助教	長谷純子、大毛葉子
医員	瀬戸下玄郎、前田冬海、小城卓郎、安庭愛子、酒井明日美
大学院生	有川英介、吉牟田泰史、塩川奈理、佐々木なつき、笠毛溪、梅原ひろみ、寺崎茜、 崎元仁志、永田青海、浦田結嘉
客員研究員	富吉リカ、小玉哲史、富永雅孝、倉野裕、森さつき、永田美智子
研修登録医	相良威一郎、伊地知明、木治屋浩、吉牟田千賀、坂口夏海、吉田巖、 小城くみこ、深川裕子
県立病院出向	松久保秀幸、川床貴史、鮫島稔弥、中山龍次郎
市立病院出向	畑幸宏

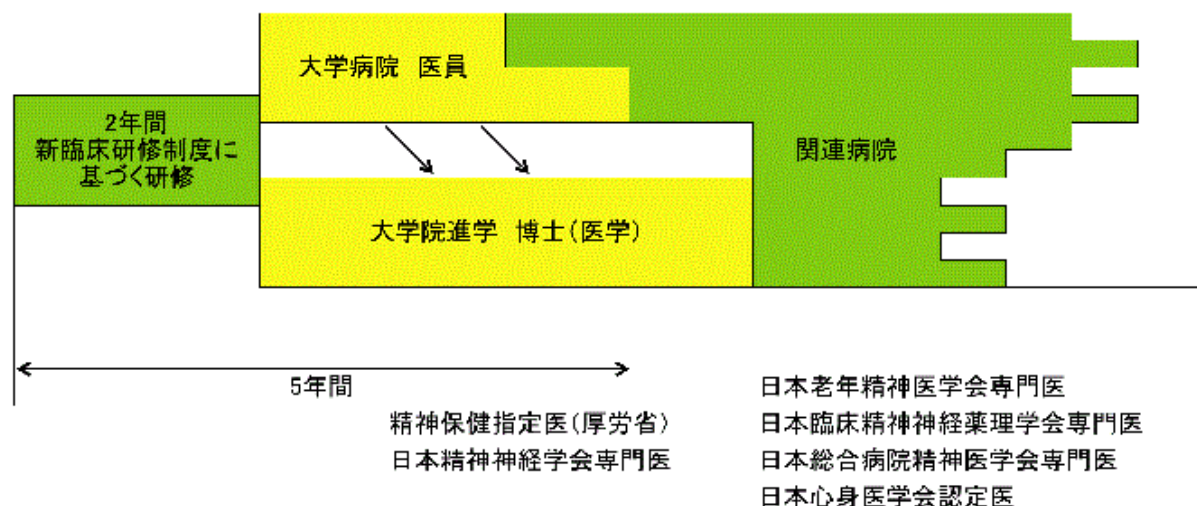
3、研修プログラム概要

当教室では入局後に、医員となるか、また大学院生として学位取得を目指すかの大きく2つの選択肢があります。まず医員として診療に従事し、その後に大学院へ入学するのも可能であります。学位取得を目指す医師は、希望に合わせて診療の負担を軽くし、研究に専念できる体制となっております。

その後も、状況や希望に応じて関連病院や公的機関への出向を行い、豊富な臨床経験を積みながら、精神保健指定医や精神科専門医など希望する資格が取得できるようになっています。

また産休・育休などの相談にも柔軟に対応しています。毎年3～4名の医師は産休をとっており、女医にも働きやすい環境となっております。

診療においてはグループ制をとっており（病棟案内参照）、診療などの相談はグループ員を中心に誰にでも相談できるようなフレンドリーな職場であります。



5、応募問い合わせ先

研修説明会、病棟見学等を行 研修説明会、病棟見学等を行 っていますので いますので 、随時 お問
い合わせください。

医局長 中村雅之 准教授 e-mail: seishin@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp